

小 学 校

平成 29 年度

研究開発委員会指導資料集

国 語
社 会
算 数
理 科
体 育
道 徳
外国語活動

平成 30 年 3 月
東京都教育委員会

[目 次]

小学校国語研究開発委員会 1

小学校社会研究開発委員会 21

小学校算数研究開発委員会 41

小学校理科研究開発委員会 61

小学校体育研究開発委員会 81

小学校道徳研究開発委員会 101

小学校外国語活動研究開発委員会 121

平成 29 年度研究開発委員会（小学校）名簿 141

小学校国語研究開発委員会

目 次

I	研究の目的	2
II	研究の方法	2
III	研究構想図	3
IV	研究の内容	4
V	指導事例	8
	低学年	8
	中学年	12
	高学年	16
VI	研究のまとめ	20

〈小学校国語研究開発委員会〉

研究主題 言葉による見方・考え方が働く単元の開発と指導方法の工夫
～言語文化に関する事項の学習を通して～

I 研究の目的

平成 29 年 3 月に新学習指導要領が告示された。国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成」と掲げられている。内容に関する項目の枠組みが整理して示され、「知識及び技能」の中に「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱いに関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」が位置付けられた。言葉による見方・考え方を働かせた学習を展開し、言語能力の育成と深い学びを実現することが求められている。

言語能力育成の必要性が、近年の全国学力・学習状況調査からも見て分かる。故事成語の意味や使い方に関しては、正答率が約 50%と低い傾向にあった。故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いていくことが求められている。また、主語と述語の関係や文の組み立て等、言葉の特徴やきまりに関する領域にも課題が見られた。児童一人一人の語彙の質や量の違いが学力差につながっていると考えられる。

一方、言語文化に関する事項の学習について本委員会で振り返ったところ、言葉の力を高め、語彙を豊かにする単元計画の立て方や言語活動の展開の仕方、取り扱う教材の選択、言語文化を日常の生活に結び付けて生かす指導等に、教師が難しさを感じているという実態があった。

こうした背景を受け、「言葉による見方・考え方が働く単元の開発と指導方法の工夫～言語文化に関する事項の学習を通して～」と研究主題を設定した。言葉を大切に扱い、言葉そのものを対象とした領域の言語文化（現行の学習指導要領における伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）に関する学習に焦点を当てて研究していく。

児童が言語文化に興味・関心をもち、すすんで語句を増やして自分の思いや考えを適切な言葉で表現したり、言語文化を日常の生活と結び付けて考え使ったりすることを通して、言語文化に親しみ、生かしていくことを目指す。

児童の言語文化への関心を高め、言語文化に親しみ、学んだことを日常の生活等に生かすことができる力を育む単元の開発と児童が主体的に学習に取り組み、語彙を豊かにする指導方法について明らかにすることを本研究の目的とする。

II 研究方法

今年度は、研究開発委員会全体の共通テーマである「個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発」を受け、「言語文化に親しみ、学んだことを日常の生活で生かすことができる児童」の育成を目指して、以下の 2 点を研究の観点とした。

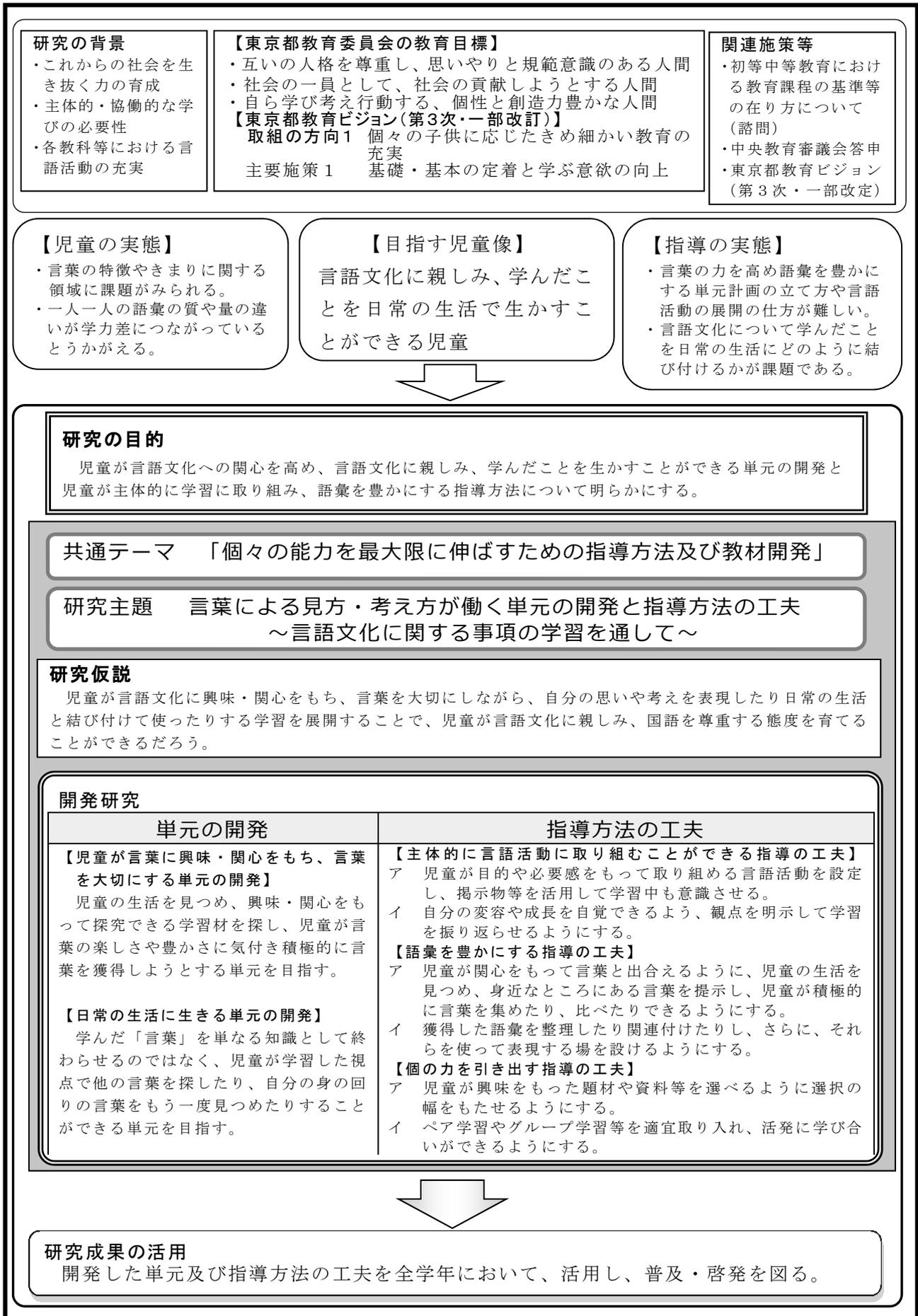
1 単元の開発

- (1) 児童が言葉に興味・関心をもち、言葉を大切にする単元の開発
- (2) 日常の生活に生きる単元の開発

2 指導方法の工夫

- (1) 主体的に言語活動に取り組むことができる指導の工夫
- (2) 語彙を豊かにする指導の工夫
- (3) 個の力を引き出す指導の工夫

Ⅲ 研究構想図



IV 研究の内容

1 本研究の基本的な考え方

本研究では、言葉や言語文化に「親しむ」ということを、「知る」、「集める」、「浸る」、「遊ぶ」、「比べる」という具体的な姿として捉えた。このような言語活動を單元の中に意識的に設定することで、児童が言語文化に親しみ、学んだことを生かし、語彙の質や量が豊かになると考えた。

2 単元の開発

児童が言語文化に興味・関心をもち、すすんで語句を増やして自分の思いや考えを適切な言葉で表現したり、言語文化を日常の生活と結び付けて考え使ったりすることを通して、言語文化に親しみ、生かしていくことを目指すために、低学年、中学年、高学年別に単元を以下のように開発した。

なお、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)で示されている指導事項は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の各領域の指導を通して行うことを基本としている。ただし、知識・技能の定着を図るために、まとめて単元化できることが、学習指導要領国語解説に示されている。本研究では、このことを踏まえ、児童の学習の効果を高めるため、言語文化に関する指導事項をまとめて指導する単元を開発することとした。

第1、2学年	単元名 どのおうちにはいるでしょう
単元の目標	言葉には語句のまとまりや、上位語・下位語の関係があることに気付く。
単元の概要と指導計画（全3時間）	
本単元は、既知の言葉がどのような集まりなのかを考えたり、ある意味のグループの成員を探したりすることを通して、言葉がある種の体系をもって存在していることに気付く学習である。	
① 身の回りの物の名前（下位語）が書かれたカードを見てどのカードがどの家（上位語）に入るかを話し合う。物の名前には、一つ一つの名前とそれらをまとめて付けた名前があることを理解する。	
② 物の名前（下位語）をまとまりごとに分け、まとまりの名前（上位語）を考える。図鑑などを使い、身の回りの物の名前を調べ、まとまりを作ってまとまりの名前（上位語）を考える。	
③ 上位語・下位語を使って短文を書く。	

第1、2学年	単元名 「むかしばなしかるた」をつくろう
単元の目標	古くから伝わっている話を興味をもって聞き、気に入った場面を選ぶことができる。
単元の概要と指導計画（全5時間）	
本単元では、好きな昔話を選び、面白かったところをかるたにする。作ったかるたで家の人と遊ぶことを通して、お気に入りの昔話を紹介し、昔話に親しむ学習である。	
① 学習の見通しをもち、教師のブックトークを聞く。	
② 昔話の好きなところを探す方法を知り、自分が選んだ昔話の好きなところを書く。	
③ 昔話の好きなところをかるたの読み札にまとめる方法を知り、自分が選んだ昔話の好きなところを読み札にまとめる。	
④ かるたの読み札・取り札を作る。	
⑤ 作ったかるたで家族と遊ぶ。	

第1、2学年	単元名 組み合わせた言葉を作ったり使ったりしよう
単元の目標	身の回りには、二つ以上の言葉が組み合わせられてできた言葉が多くあることに気づき、構成や意味、使い方を考えながら、使うことができる。
単元の概要と指導計画（全4時間）	
<p>言葉遊びを通して、普段、何気なく使っている複合語に気付かせ、その構成や意味、語形の変化を考えさせる。学んだことを生かして「言葉のたし算」カードを作り、言葉を作ったり紹介したり、短文作りをしたりしながら、語句を増やし、言葉に親しむ学習である。</p> <p>① 「言葉のたし算」を通して、組み合わせられてできた言葉を知り、関心をもつ。</p> <p>② 組み合わせられてできた言葉や生き物の名前を集め、その構成や意味を考えながら親しむ。</p> <p>③ 動作や様子を表す言葉にも、組み合わせられてできた言葉があることを知り、その構成や意味について、「言葉のたし算」カードや短文作りを通して理解する。</p> <p>④ 「言葉のたし算」カードを作り、カードを並べて友達と言葉作りをして言葉に親しむ。組み合わせられて作った言葉を紹介し、作った言葉を友達に広げる。</p>	

第1、2学年	単元名 むかしむかしの話を語ろう
単元の目標	昔話や神話・伝承に興味をもち、読んだり語ったりして楽しむことができる。
単元の概要と指導計画（全5時間）	
<p>昔話や神話の語りを聞いたり、自分で読んだりして話の世界を味わい楽しむ。児童の「自分たちも語ってみたい。」という意欲を高め、好きな昔話や神話を選んで一年生に語って聞かせ、昔話や神話に十分に浸って楽しむ学習である。</p> <p>① 「いなばのしろさぎ」の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。 昔話や神話の本の紹介を聞き、選んで読む。</p> <p>② 自分が読んだ昔話や神話の好きなところを中心に、同じ本を読んだ人のグループ、違う本を読んだ人のグループで感想を伝え合う。</p> <p>③ 一年生に語って聞かせたい話を選ぶ。グループを作り、分担を決める。</p> <p>④ グループで練習をする。互いに聞き合い、楽しく聞いてもらえるように工夫する。</p> <p>⑤ 一年生に、昔話を語る。</p>	

第3、4学年	単元名 短歌に親しもう
単元の目標	知っている言葉を手掛かりにして情景を想像したり、日本語特有のリズムを感じたりしながら短歌を音読し、文語の調子に親しむことができる。
単元の概要と指導計画（全3時間）	
<p>本単元は、文語の調子に親しみながら、好きな短歌について紹介し合う活動である。単元の工夫として、これまで取り組んできた百人一首を活用したり、お気に入りのかるた作りをしたりする学習である。</p> <p>① 短歌について知り、言葉の美しい響きやリズムを感じ取りながら、短歌を音読する。</p> <p>② 音読しながら好きな短歌を選び、暗唱したり好きな理由を述べたりして紹介する。</p> <p>③ お気に入りの短歌を書いたかるたを作る。</p>	

第3、4学年	単元名 ことわざをげきでしようかいしよう
単元の目標	ことわざの意味を調べたりまとめたりし、ことわざの意味を理解して使うことができる。
単元の概要と指導計画（全4時間）	
<p>本単元は、ことわざの意味を理解するだけでなく、実生活の中でも生かすことを目的とし</p>	

<p>ている。そのために、調べたことわざを劇にして紹介し合う活動を取り入れた学習である。</p> <p>① 知っていることわざを発表したり、教科書のことわざの意味を調べたりする。 ことわざを用いた劇を見て、学習の見通しをもつ。</p> <p>② 指定されたことわざから、その意味が伝わるような劇を考え、発表する。</p> <p>③ 二人一組でことわざの意味を調べたり、それを用いた劇を考えたりする。</p> <p>④ ことわざを用いた劇を紹介し合う。</p>

第3、4学年	単元名 「漢字おぼえ歌」を作ろう
単元の目標	漢字の部分に着目して調べたり、考えたりして、「漢字おぼえ歌」を作ることができる。
単元の概要と指導計画（全5時間）	
<p>新出漢字を覚え練習するなど日々漢字に接している児童に、改めて言語文化としての「漢字」のもつ面白さや奥深さを味わわせ、漢字に親しませる学習である。</p> <p>① 「<small>おのたかむらうたじづくし</small>小野篁歌字盡」から漢字を覚えるためのあそび歌（以下「漢字おぼえ歌」と表記）を知る。身の回りにも同様の歌がないか探す。</p> <p>② 紹介した歌を味わい分析する中で、作り方のこつを見付ける。</p> <p>③ 見つけたこつ（共通点・相違点を使う、連想するなど）を使って、漢字を調べたり関連を考えたりして「漢字おぼえ歌」を作る。友達と作品を交流する。</p> <p>④⑤ 作品のまとめ方を考え、計画し、実行する。（例：かるた遊び、本にする、発表会をするなど）観点に沿って、学習を振り返る。（観点例：学習活動を通して、気付いたこと・作品を含めた友達のよさ・自分の成長等）</p>	

第3、4学年	単元名 お気に入りの「和の色」を作ろう
単元の目標	和の色名やその背景にある文化を知り、自分なりに「和の色」を作り、表現することができる。
単元の概要と指導計画（全6時間）	
<p>「和の色名」から、その由来や背景、人々の暮らし等との関わりについて調べる。そして、自分なりの「和の色」として、お気に入りの色水を作り、命名する。細やかに色を表現し、味わってきた古くからの言語文化を疑似追体験して親しむ学習である。</p> <p>① 「色を表す言葉」に興味をもち、さまざまな伝統色や和名があることを知る。</p> <p>②③ 色の和名やその由来、人々の暮らしとどのようにつながっているのかなどを調べ、理解する。（図書資料やインターネットを活用） 色の和名の「もと」になっている事物を分類・整理して比べることで、昔の人々の思いや考えに気付く。</p> <p>④⑤ 学習したことを生かして、自分の作った色水に和名（ここでは漢字による表記名とする）を付け、自分なりの由来や関連する事物、言葉等をまとめる。</p> <p>⑥ 自分が作った色水と名付けた和名や由来を共に展示し、作品交流会又は発表会等を計画し、実行する。観点に沿って学習を振り返る。</p>	

第5、6学年	単元名 「日本語マスター」になろう
単元の目標	日本語について調べたり考えたりすることを通して、日本語の理解を深めることができる。
単元の概要と指導計画（全4時間）	
<p>「子供日本語検定」を作ることを通して、間違いやすい漢字や言葉、意味を間違っ て捉えていることわざなどに気付かせる。日本語に親しみ、理解を深める学習である。</p>	

- ① 「子供日本語検定」を作り、「日本語マスター」を目指すという課題を知る。身近な言葉で不思議に思ったこと、由来が知りたいことなどについて話し合う。
- ②③ グループで本やインターネットを使って「子供日本語検定」の問題を作る。調べる過程で間違いやすい漢字や言葉、意味を間違えて捉えていることわざなどに気づき、日本語の理解を深める。
- ④ 「子供日本語検定」に挑戦し、マスターを目指す（検定を受けることによっても、日本語の理解を深めることができる。）。

第5、6学年	単元名 「5年1組枕草子」を作ろう
単元の目標	昔の人のものの見方や感じ方を参考に、自分が感じたり考えたりしたことを文章に書き表すことができる。
単元の概要と指導計画（全4時間）	
<p>「枕草子」を読み、清少納言のものの見方や感じ方を学ぶ。それを参考にして、自分が日常生活で感じたり考えたりしたことを文章に表す。日常で感じたり考えたりしたことを文章に表現する活動を行い、昔から続く我が国の言語文化に親しみをもたせる学習である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 枕草子の「うつくしきもの」を読み、昔の人のものの見方や感じ方について学ぶ。そして「5年1組枕草子」を作るという課題を知る。 ② 枕草子の他の作品を読み、自分が書くテーマを決める。選んだテーマについて、体験したことや感じたことを友達と話し合う。 ③ 自分が選んだテーマについて、体験したことや感じたことを文章に表す。 ④ 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 	

3 指導方法の工夫

児童が主体的に取り組み、個の力を最大限に発揮できる指導方法の工夫として、次の3点を考えた。単元の中で積極的に取り入れ、工夫していく。具体的にどのような指導を工夫していくのかを指導事例の中で詳しく述べることとする。

- (1) 主体的に言語活動に取り組むことができる指導の工夫
 - ア 児童が目的や必要感をもって取り組める言語活動を設定し、掲示物等を活用して学習中も意識させる。
 - イ 自分の変容や成長を自覚できるように観点を明示して学習を振り返らせるようにする。
- (2) 語彙を豊かにする指導の工夫
 - ア 児童が関心をもって言葉と出合えるように、児童の生活を見つめ、身近なところにある言葉を提示し、児童が積極的に言葉を集めたり、比べたりできるようにする。
 - イ 獲得した語彙を整理したり関連付けたりし、さらに、それらを使って表現する場を設けるようにする。
- (3) 個の力を引き出す指導の工夫
 - ア 児童が興味をもった題材や資料等を選べるように選択の幅をもたせるようにする。
 - イ ペア学習、グループ学習等を適宜取り入れ、活発に学び合いができるようにする。

〈学び合う姿〉

- ① 友達に質問し答えてもらうことで、新しい発見をする。
- ② 友達から質問され答えることで、もう一度考え、整理する。
- ③ 自信のないときに一緒にやってみることで、学びを進める力となる。

V 指導事例

低学年 第2学年 「語句を増やし、言葉に親しむ事例」

1 単元名 「組み合わせた言葉を作ったり使ったりしよう」

2 単元の目標

身の回りには、二つ以上の言葉が組み合わさってできた言葉が多くあることに気付き、構成や意味、使い方を考えながら、使うことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・言葉遊びを通して、言葉を作ったり使ったりして親しみ、日本語の特徴に気付いている。	・身の回りには、二つ以上の言葉を組み合わせた言葉があることに気付き、構成や意味、語形の変化を理解している。 ・二つ以上の言葉が組み合わさってできた言葉の構成や意味を考え、適切に使っている。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 単元について

本単元は、新学習指導要領の第1学年及び第2学年の[知識及び技能]の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項オ「身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。」をねらいとし、言葉への興味・関心を高め、語句を増やす学習である。

言葉遊びを通して、普段何気なく使っている言葉に着目し、その構成や意味、語形の変化、使い方を考えながら日本語の特徴や言葉の便利さを感じ取れるようにしたいと考える。

まず、物の名前の言葉を取り上げ、「言葉のたし算」で言葉を組み合わせながら、言葉には、組み合わせた言葉があることに気付けるようにする。次に、動作を表す言葉で「言葉のたし算」をし、意味の違いを考えたり、文作りをしたりして使い方を考える。最後に、集めた組み合わせ言葉で、言葉遊びをする。カードに書かれた言葉を組み合わせる言葉を作り、その言葉の意味や使い方を友達に紹介する活動を通して、語句の獲得へ繋げる。

(2) 教材について

主に、「物の名前の言葉」同士の組み合わせ、「物の名前の言葉」と「動作を表す言葉」の組み合わせ、「動作を表す言葉」同士の組み合わせでできている複合語を取り上げる。「白紙」のような言葉は、次の学習「組み合わせでできている漢字」で取り扱うこととする。ただし、児童がこのような言葉を見付いたり、作ったりしても否定はしない。児童には、「二つ以上の言葉を組み合わせた言葉」として複合語を提示し、学習を進める。児童にとって身近な言葉や興味のある生き物の名前を取り上げ、「言葉のたし算」に取り組みせながら、言葉に向き合わせる。言葉には、組み合わさってできた言葉があること、音や語形が変化する言葉があること、言葉を作ったり詳しくしたりできることに気付けるようにしたい。

(3) 具体的な手だて

<p>単元の開発</p>	<p>○児童が言葉に興味・関心をもち、言葉を大切にする単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近な言葉、場面を取り上げて言葉に出合わせる。 ・言葉遊びを通して、言葉を組み合わせる言葉作りができるようにする。 <p>○日常の生活に生きる単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせた言葉コーナーを設け、集めた言葉を共有できるようにする。
<p>指導方法の工夫</p>	<p>○主体的に言語活動に取り組むことができる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の既有知識を生かし認め、気付きを引き出しながら学習を展開する。 ・特に、学習の振り返りで、学んだことを自覚できるようにする。 <p>○語彙を豊かにする指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の教材文を活用して言葉集めをする。 ・複合語を使って文作りをしたり、作った文を紹介したりする機会を増やす。 <p>○個の力を引き出す指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と言葉の組み合わせを確かめたり、考えたりする場を設定する。

5 単元の学習指導計画・評価計画（4時間扱い）

時	学習活動	◎研究主題に迫るための手だて ■評価規準（観点：評価方法）
1 本 時	<p>○「言葉のたし算」に挑戦する。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 60px; height: 20px; vertical-align: middle;"></div> + はこ → <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 60px; height: 20px; vertical-align: middle;"></div></p> <p>○言葉には、組み合わせでできた言葉があることを知る。</p> <p>○物の名前言葉を上や下に組み合わせながら「言葉のたし算」をする。</p> <p>○作った言葉を確認する。</p> <p>○組み合わせた言葉を見て、気付いたことを発表する。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>◎児童に身近な言葉で「言葉のたし算」を提示し、興味をもたせる。</p> <p>◎言葉には、組み合わせでできた言葉があることに気付かせる。</p> <p>◎言葉が組み合わせると音や語形が変化していること、言葉が詳しくなることに気付けるように言葉を色分けして書く。</p> <p>■すすんで言葉を組み合わせで作っている。 （関心・意欲・態度：ワークシート・行動観察）</p> <p>■言葉が組み合わせると音や語形が変化することがあることを理解している。 （言語：ワークシート・行動観察）</p>
2	<p>○言葉が組み合わせた名前の生き物を集め、カードに書く。</p> <p>○複合語を二つに分けて、その構成や意味を考える。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>◎言葉に親しませるために、生き物の名前を話題に上げ、興味をもたせる。</p> <p>◎言葉の構成や意味が理解できるように組み合わせた言葉を分けて考えさせる。</p> <p>■組み合わせた言葉の構成や意味を理解している。 （言語：ワークシート・行動観察）</p>
3	<p>○動作を表す言葉が組み合わせでできた言葉があることを知る。</p> <p>○言葉を比べ、短文作りをしながら、言葉の構成や意味を考える。</p> <p>○既習の教材文から言葉を集める。</p>	<p>◎児童に身近な動きを表す言葉で「言葉のたし算」を提示し、興味をもたせる。</p> <p>◎言葉の構成や意味が理解できるように、言葉を比較させ、意味や印象について話し合わせ、短文作りをする。</p>

	○学習の振り返りを書く。	<p>■すすんで動きを表す言葉を集め、組み合わせて言葉を作っている。 (関心・意欲・態度：ワークシート・行動観察)</p> <p>■組み合わせた言葉の構成や意味を理解している。 (言語：ワークシート・行動観察)</p>
4	<p>○身の回りから集めた組み合わせ言葉をカードに分けて書く。</p> <p>○4人程度のグループでカードを並べ、順番にカードを組み合わせて言葉を作り、読んで紹介する。</p> <p>○作った組み合わせ言葉を使って文作りをする。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>◎組み合わせでできた言葉を確認するために、言葉を声に出して読ませる。</p> <p>■すすんで言葉を組み合わせて組み合わせた言葉を作っている。(関心・意欲・態度：行動観察)</p> <p>■組み合わせた言葉の構成や意味を考えながら、その言葉を適切に使っている。 (言語：ワークシート)</p>

6 本時の学習（第1時）

(1) 本時の目標

二つ以上の言葉が組み合わさってできた言葉について知り、構成や意味、語形の変化を考えながら、すすんで言葉を作っている。

(2) 展開

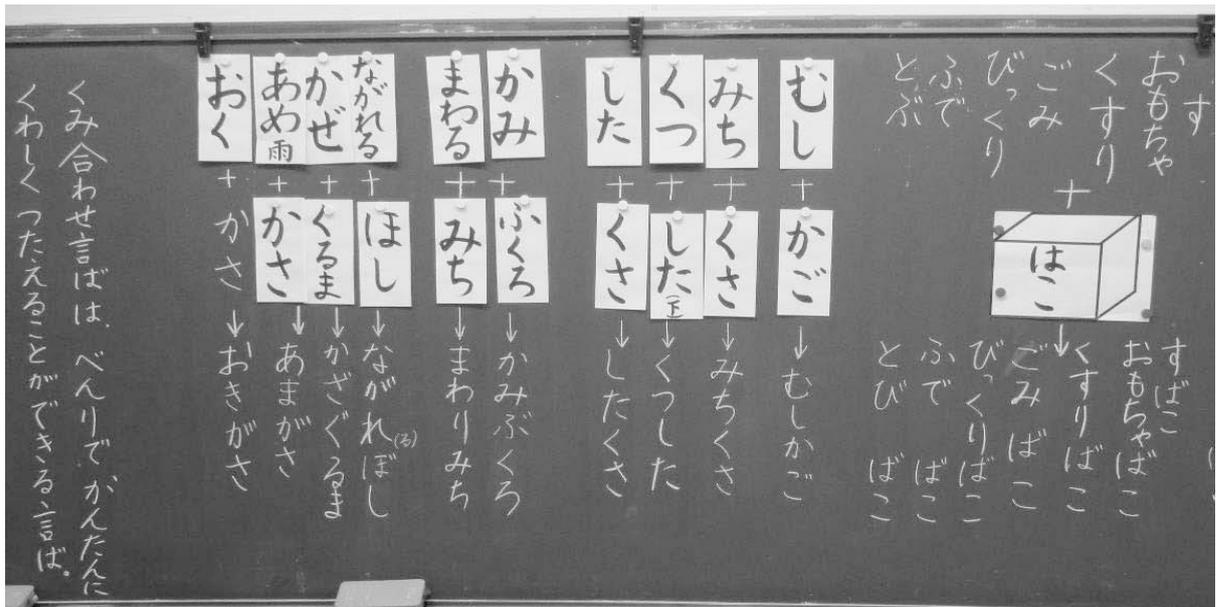
学習活動	◇指導上の留意点 ■評価規準(観点:評価方法) ◎研究主題に迫るための手だて
<p>1 「言葉のたし算」に挑戦する。 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 60px; height: 20px; vertical-align: middle;"></div> + はこ の言葉を考える。</p> <p>2 言葉には、二つ以上の言葉が組み合わさってできた言葉があることを知る。</p> <p>3 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 意味を考えながら言葉を組み合わせて、組み合わせた言葉を作ろう。 </div>	<p>◇児童にとって身近で、用途・材質・形状等から組み合わせ言葉の多い「はこ」を提示し、「おもちゃばこ」を出合わせ、興味をもたせる。</p> <p>◎言葉に関心をもち、言葉には組み合わせでできた言葉があることに児童が気付けるように言葉のたし算」に取り組ませる。</p>
<p>4 意味を考えながら「言葉のたし算」をして、ワークシートに書く。</p> <p>5 ペアで作った言葉を確認する。</p> <p>6 組み合わせでできた言葉を発表する。</p> <p>7 組み合わせた言葉を、全体で声に出して読み、気付いたことを発表する。</p> <p>8 言葉が組み合わさると音や語形が変化することがあることを確認する。</p>	<p>◇言葉を上や下に付けて組み合わせること、何度も使える言葉があることを確認する。</p> <p>■すすんで言葉を組み合わせて作っている。 (関心・意欲・態度：ワークシート・行動観察)</p> <p>◇意味が通じる言葉かをペアで確認させる。</p> <p>◎言葉が組み合わさると音や語形が変化していることに気付けるように言葉を色分けして書く。</p> <p>■言葉が組み合わさると、音や語形が変化することがあることを理解している。 (言語：ワークシート・行動観察)</p>

- 9 学習の振り返りを書く。
 ・分かったことや初めて知ったこと、考えたことをワークシートに書く。
- 10 次時の学習の見通しをもつ。

◇「言葉のたし算」でできている生き物の名前があることや「言葉のたし算」をして言葉遊びすることを知らせ、意欲をもたせる。

7 作品等

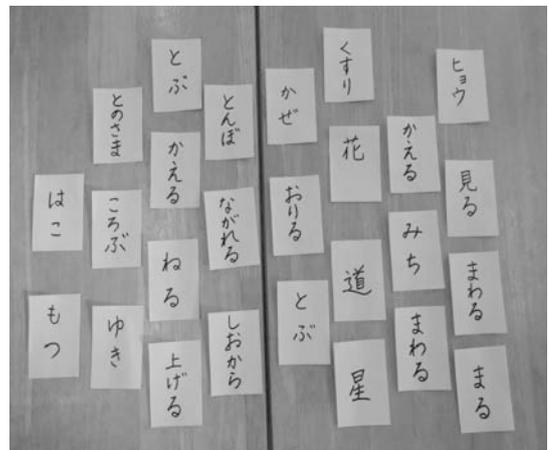
(1) 第1時 実際の板書（一部分）



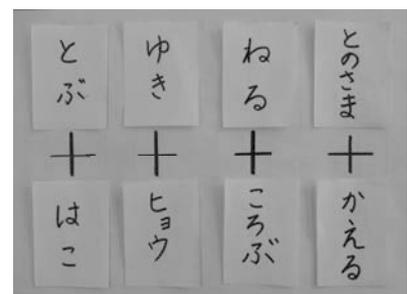
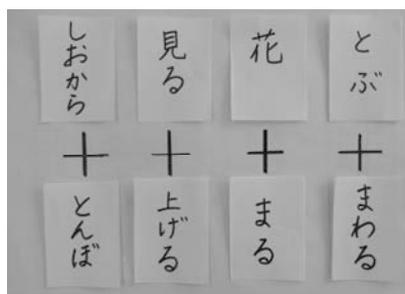
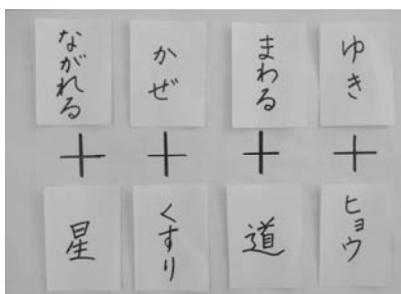
(2) 第4時

身の回りから集めた組み合わせ言葉をカードに書き、人数分のカードを混ぜ合わせて、机に並べた。

4人程度のグループを作り、一人ずつ順番にカードの言葉を組み合わせる言葉を作り、読み、カードを取っていく。(自分が書いたカードがない場で、言葉作りをするとよい。)



児童が集めた組み合わせ言葉



1 単元名 「ことわざをげきでしようかいしよう」

2 単元の目標

ことわざの意味を調べたりまとめたりし、ことわざの意味を理解して使うことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・ことわざやその意味に、親しもうとしている。	・長い間使われてきたことわざの意味を理解したり、分かったことを伝えたりしている。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 単元について

平成26年度の全国学力テストにおいて、国語Aでは、「故事成語の意味と使い方を理解する」について、2問出題されている。正答率は「五十歩百歩」が55.8%、「百聞は一見にしかず」が49.9%という結果であった。全体の正答率が7割程度だというデータを勘案すると、課題を感じざるを得ない。

新学習指導要領の〔第3学年及び第4学年〕の〔知識及び技能〕の(3)我が国の言語文化に関する事項のオ「長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと」とある。また、国語科の目標に「我が国の言語文化に親しんだり理解したりする」、「言葉がもつよさに気付く」とあり、ことわざや慣用句、故事成語などの重要性が感じられる。

これらのことから、児童が主体的にことわざや故事成語を調べることを通して、言葉による見方、考え方を働かせられるようにするとともに、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などのよさを認識し、言語感覚も養えるようにしていきたい。

そこで本単元では、第1時で知っていることわざについて発表したり、劇を見たりして興味を喚起する。第2時で共通のことわざを劇で紹介し合い、第3時で発表したいことわざを選んでその意味が伝わるような劇を考える。そして、第4時で考えた劇を発表し合うという学習計画を考えた。

(2) 教材について

本教材は元々、「ことわざについて調べ、ほうこくする文章を書く」学習を取り入れている。今回は、その報告する文章とは切り離し、ことわざの意味を調べたり、発表したりする活動を中心としている。

ことわざは、生きていく上での知恵や教を、短い言葉や言い回しで表したものである。その意味をより深く理解させるため、ことわざの意味が伝わるような劇を考えて発表することで、より我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようになると考えた。

(3) 具体的な手だて

<p>単元の開発</p>	<p>○児童が言葉に興味・関心をもち、言葉を大切にする単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が理解しやすく身近に感じられることわざを精選することで、興味・関心をもてるようにする。 ・教科書以外のことわざにも触れられるよう、ことわざに関する関連図書をいつでも手に取れるようにする。 <p>○日常の生活に生きる単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの意味を調べたり例文作りをしたりするだけでなく、劇に表して発表することで、どんな場面で使われるのかというイメージをもちやすくする。 ・児童が選んだことわざや授業で扱った掲示物を教室に掲示し、日常生活の中で視覚的に捉えられるようにする。
<p>指導方法の工夫</p>	<p>○主体的に言語活動に取り組むことができる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことわざを劇で紹介し合うという単元の見通しをもたせることで、その目的に向かって主体的に学習を進められるようにする。 <p>○語彙を豊かにすることができる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が体験しそうな劇を教師が例として演じることで、ことわざと事例とが結び付き、実生活の中でも活用できるようにする。 ・ことわざから派生する、「知恵や教え」まで確認するようにする。 <p>○個の力を引き出す指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組で劇を考えたり、ペア同士でその内容を見合ったりすることで、劇の内容が適切か、聞き手に伝わるかなど、相談しながら進められるようにする。

5 単元の学習指導計画・評価計画（4時間扱い）

時	学習活動	◎研究主題に迫るための手だて ■評価規準（観点：評価方法）
1 本 時	<p>○自分が知っていることわざを発表し合う。</p> <p>○ことわざとは何かを知る。</p> <p>○ことわざの例として、 「急がば回れ」 「わらう門には福来たる」 を挙げて意味を考える。</p> <p>○調べたことわざを劇で紹介するという、学習の見通しをもつ。</p> <p>○ことわざを用いた劇を実際に見て、イメージを膨らませる。 「頭かくしてしりかくさず」 「やなぎの下に いつもどじょうはいない」</p>	<p>◎ことわざの本をあらかじめ教室に用意して触れられるようにし、関心を高めておく。</p> <p>◎ことわざから派生する、「知恵や教え」まで確認するようにする。</p> <p>◎ことわざの意味を説明するためには、劇で伝えるとよいということに気付かせ、調べたことわざを劇で伝えるという単元の見通しをもたせる。</p> <p>◎児童にとって馴染みのあることわざを選ぶことで、より興味をもって取り組めるようにする。</p> <p>■ことわざを用いた劇を見て、ことわざやその意味に、親しもうとしている。 (関心・意欲・態度：発言、行動観察)</p>
2	<p>○指定されたことわざから、その意味が伝わるような劇を考え、発表し合う。</p>	<p>◎ことわざの意味を劇に表すことで、どんな場面で使われるのかをイメージしやすくし、日常生活の中でも用いることができるようにする。</p>

	<p>「頭かくしてしりかくさず」 「やなぎの下に いつもどじょうはいない」 ○二人一組で、ことわざの意味を辞典などで調べる。</p>	<p>◎選んだことわざを短冊に書き、発表の際に使用したり、学習後に掲示したりできるようにする。 ■これまで長い間使われてきたことわざを辞典などを用いて調べることで、それらの意味を理解している。(言語：ワークシート、行動観察)</p>
3	<p>○二人一組で、調べたことわざを用いた劇を考える。 ○四人程度のグループになり、互いが調べたことわざの意味や劇の内容を確かめ合う。</p>	<p>◎みんなにとって、ありそうな場面を設定することで、より分かりやすく伝わるということを確認する。 ◎ペア同士で見合うことで、劇の中でことわざが適切に使われているかどうかを確認できるようにする。 ■ことわざを用いた劇を考えたり、ペア同士の劇を見合ったりすることで、それらの意味を理解している。(言語：ワークシート、行動観察)</p>
4	<p>○二人一組で考えた、ことわざを用いた劇を発表する。 ○単元の学習を振り返り、感想を伝え合う。</p>	<p>◎互いの劇を見合うことで、ことわざの意味やどんな場面で使われるのか等について、理解できるようにする。 ◎ことわざは、生活に役立つこともあるが、使い方を誤ると相手を不愉快にしてしまうことわざがあることにも触れておく。 ■ことわざを用いた劇を通して、分かったことを伝えている。 (言語：ワークシート、発言、行動観察)</p>

6 本時の学習（第1時）

- (1) 本時の目標
ことわざやその意味に親しもうとする。
- (2) 展開

学習活動	◇指導上の留意点 ■評価規準(観点:評価方法)
1 自分が知っていることわざを発表し合う。	<p>◎研究主題に迫るための手だて</p> <p>◎ことわざの本をあらかじめ教室に用意して触れられるようにし、関心を高めておく。 ◇ことわざや故事成語、慣用句など、細かい区別はせず、それらに興味をもてるようにする。 ◇意味まで知っている場合には、どんな意味かも発表させる。 ◇ことわざは、「生きていく上での知恵や教えを、短い言葉や言い回しで表したもの」と定義する。</p>
2 ことわざの意味と使われ方を考える。 「急がば回れ」 「わらう門には福来たる」	◎文字だけの意味だけに留まらず、そこから派生した意味まで捉えられるようにする。
3 調べたことわざを劇で紹介するという、学習の見通しをもつ。	◎ことわざの意味を調べ、それが伝わるような劇を考えるという単元の見通しをもたせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ことわざの意味がたわるようなげきを考えよう。</div> <p>◎調べた意味を伝えるより、劇で表した方がより場面を想像しやすいことに気付かせる。</p>

<p>4 ことわざを用いた劇を実際に見て、イメージを膨らませる。 「頭かくしてしりかくさず」 「やなぎの下に いつもどじょうはいない」</p>	<p>◎児童にとって理解しやすく、身近に感じられることわざや劇の内容にすることで、より興味をもって取り組めるようにする。 ◇劇をする前にことわざの意味を考えさせることで、観点をもちながら劇を見られるようにする。 ◇自分にも似たような経験がないかを想起させ、この後実際に劇を考える際の参考になるようにする。 ■ことわざを用いた劇を見て、ことわざやその意味に、親しもうとしている。 (関心・意欲・態度：発言・行動観察)</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇今日の学習の感想を記入し、発表させる。 ◇ことわざの意味が分かったか、これから何を努力していくのかを中心に、振り返りをさせる。 ◇次時からは自分たちでことわざの意味を調べたり劇に表したりすることを伝え、学習の意欲が持続するようにする。</p>

7 作品等

いい加減にしなさい。
「堪忍袋の緒が切れる」よ。

宿題はやったの。

宿題はやったの。

宿題はやったの。

A

「堪忍袋の緒が切れる」の意味は、ずっとがまんしていたが、それ以上がまんでできなくなり、いかりがばくはつするということです。

「堪忍袋の緒が切れる」の劇

まだやってないよ。テレビが終わったらやるよ。

まだやってないよ。おやつを食べたらやるよ。

まだやってないよ。野球をしに行ってきます。

B

1 単元名 「5年1組枕草子を作ろう」

2 単元の目標

昔の人のものの見方や感じ方を参考に、自分が感じたり考えたりしたことを文章に書き表すことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 昔の人のものの見方や感じ方を捉え、親しもうとしている。 感じたり考えたりしたことを伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の大体の内容を理解し、昔の人のものの見方や感じ方について考えている。 日常生活を見直し、感じたり考えたりしたことを文章に書き表している。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 単元について

今回の学習指導要領の改訂では言語文化に親しむ態度の育成が重視されており、[第5学年及び第6学年]の[知識及び技能]の(3)我が国の言語文化に関する事項のイ「古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること」とある。

そこで、本単元では四季の変化や日常の気付きを清少納言が繊細な感性でとらえた随筆文、「枕草子」を取り扱うこととした。作品のテーマが季節の感じ方や日常生活での気付きであることから、昔の人のものの見方や感じ方を捉えやすく、親しみをもちやすいと考えた。続いて随筆を書く活動へとつなげる。日常生活の中で体験したことや感じたことを千年前と同じように言葉で書き表すことで、「枕草子」の素晴らしさに改めて気付き、随筆を書く楽しさも味わえる。また、書いた文章を一冊の本にして読み合うことで、友達のもの見方や感じ方にも親しみ、児童の価値観がより広がると考える。

第1時では、既習の「枕草子」の概要を思い出させると同時に、当時の言葉や文化を知り、浸りながら、千年前と現代を比べて共感できるところや違うところについて考えさせる。その後、自分ならばこう思う、自分はこれが好き、という気持ちを高めて「5年1組枕草子を作ろう」という学習課題を知る。第2時では、「枕草子」の価値観を参考にしながら日常生活を見直し、自分が感じたことや考えたことを集める。第3時で文章に書き表し、第4時で書いた文章を読み合うことで、友達のもの見方や感じ方を知り、自分と比べ、新たな気付きや発見に出合わせたい。

(2) 教材について

「枕草子」は四季の変化や日常の気付きを表した随筆文である。一文が短めで読みやすいので、入門期の児童があまり抵抗をもちずに読むことができると思われる。また昔の人のものの見方や感じ方が捉えやすい。さらに、「うつくしきもの」など、現代でも考えやすいテーマを提示することで、千年前の出来事を身近に感じたり、時と共に変化してきた言葉や価値観に気付いたりすることができる考えた。

(3) 具体的な手だて

<p>単元の開発</p>	<p>○児童が言葉に興味・関心をもち、言葉を大切にする単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の変化や日常の気付きを表した「枕草子」を扱うことで、児童が興味・関心をもち、伝統的な言語文化に親しみをもてるようにする。 <p>○日常の生活に生きる単元の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」を書くという学習活動を設定することで、昔の人のものの見方や感じ方を参考にしながら日常生活を見つめ直すことができるようにする。
<p>指導方法の工夫</p>	<p>○主体的に言語活動に取り組むことができる指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5年1組枕草子を作ろう」というゴールを設定することで、学習の見通しをもたせ、主体的に取り組めるようにする。 <p>○語彙を豊かにする指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あはれ」「をかし」などの言葉を取り上げ、今は使われていない言葉や、昔と今で意味が変化している言葉があることに気付かせ、語彙の質を豊かにする。 <p>○個の力を引き出す指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が興味・関心のあるテーマを選択して表現できるようにする。

5 単元の学習指導計画・評価計画（4時間扱い）

時	学習活動	◎研究主題に迫るための手だて ■評価規準（観点：評価方法）
1 本 時	<p>○枕草子の学習を想起する。</p> <p>○枕草子「うつくしきもの」について、内容を予想しながら読み、大まかな内容をつかむ。</p> <p>○「うつくしきもの」について体験や感じたことを話し合う。</p> <p>○「5年1組枕草子を作ろう」という課題を知る。</p>	<p>◎当時の言語や文化に触れ、親しませる。</p> <p>◎内容を予想しながら作品を読ませることで、昔の人のものの見方や感じ方を身近に感じさせたり、共通点や相違点に気付かせたりする。</p> <p>◎自分の体験や自分の考えを発表し、友達に共感させることで、表現したい気持ちを高めさせる。</p> <p>■昔の人のものの見方や感じ方を捉え、親しもうとしている。 (関心・意欲・態度：発言・行動観察)</p> <p>■作品の大体の内容を理解し、昔の人のものの見方や感じ方と自分との共通点や相違点について考えている。(言語：発言・ワークシート)</p>
2	<p>○「心ときめきするもの」「うれしいもの」について内容を予想しながら読み、大まかな内容をつかむ。</p> <p>○書きたいテーマを選ぶ。</p> <p>○自分が選んだテーマについて、体験や感じたことを話し合う。</p> <p>○次回の学習までに書き表したいことを集めておくことを知る。</p>	<p>■昔の人のものの見方や感じ方をとらえ、親しもうとしている。 (関心・意欲・態度：発言・行動観察)</p> <p>◎興味・関心のあるテーマを選択させる。</p> <p>◎体験や感じたことを話し合わせることを通して、自分の日常生活を見つめ直すことができるようにする。</p> <p>■日常生活での体験や感じたことを伝え合おうとしている。(関心・意欲・態度：発言・行動観察)</p>
3	<p>○教師が作った「枕草子」を読み、書き方を知る。</p> <p>○書きためた自分の体験や感じたことを書き表す。</p>	<p>◎モデル文を示すことで、学習意欲を高めるとともに、学習の見通しをもたせる。</p> <p>■日常生活を見直し、感じたり考えたりしたことを文章に書き表している。 (言語：発言・ワークシート)</p>

4	<p>○「5年1組枕草子」を読む。</p> <p>○友達の作品を読み、感想を伝え合う。</p>	<p>◎友達とのものの見方や考え方の共通点や相違点に着目させながら読ませる。</p> <p>■友達のもの見方や考え方に触れ、感じたり考えたりしたことを伝え合おうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度：発言・行動観察)</p>
---	---	--

6 本時の学習（第1時）

(1) 本時の目標

「枕草子」の作品の大体の内容を知り、昔の人のものの見方や感じ方について考えている。

(2) 展開

学習活動	◇指導上の留意点 ■評価規準(観点:評価方法) ◎研究主題に迫るための手だて
1 枕草子の学習を想起する。	◎作品の概要、作者などについて押さえるとともに、「枕草子」は既習の「秋の夕暮れ」等の季節を表したもののだけでなく、日常の気付きについても書かれていることを知らせる。
2 本時のめあてを知る。	清少納言のもの見方や考え方にふれてみよう。
3 「枕草子」には、どんなことが書かれているか予想する。	◇枕草子の中からいくつか例を示して興味をもたせ、最後に「うつくしきもの」について予想させる。 ◎どんなことが書かれているか予想させることで、興味・関心を高め、身近に感じさせる。
4 「うつくしきもの」を読み、大まかな内容をつかむ。	◎「うつくしきもの」とは「かわいいもの」であることを知らせ、昔と今で意味が変化している言葉があることに気付かせる。 ◎初めに絵やイラストを提示して、イメージをもたせやすくする。 ◇本文を提示して音読し、文章に集中させる。 ◎清少納言がどんなところをかわいいと思ったのか考えさせる。 ■昔の人のもの見方や感じ方を捉え、親しもうとしている。 (関心・意欲・態度：発言・行動観察)
5 「うつくしきもの」について自分の体験や考えたことについて話し合う。	◇「うつくしきもの」について想像できることを何人かの児童に発表させてから、自分の体験や経験を振り返らせる。 ◇かわいい「物」や「人」だけでなく、かわいい「様子」や「仕草」についても考えさせる。 ◇自分の体験や考えを友達に話し、友達に共感されることで、考えたことを伝える楽しさに気付かせる。 ◇友達との考えの共通点や相違点に気付かせる。
6 「5年1組枕草子を作ろう」という学習課題を知る。	◎「5年1組枕草子を作ろう」という学習課題を知らせ、学習の見通しをもたせるとともに、意欲を高めさせる。 「5年1組枕草子を作ろう」

<p>7 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>◎清少納言のものの見方や感じ方について振り返らせることで、清少納言と自分との共通点や相違点に気付かせる。</p> <p>■作品の大体の内容を理解し、昔の人のものの見方や感じ方と自分との共通点や相違点について考えている。（言語：発言・ワークシート）</p>
-----------------------------------	--

7 作品例等

児童が書いた文章

うれしきもの

ほしかった物を持ってレジにならんでいるとき。
 ずっと行きたかった場所に行くとき。
 スケートの大会に出られるときを知ったとき。
 何も何も、自分の好きなことはみなうれしい。

心ときめきするもの

おべんとうのご飯に大好きなそばが入っているか考えているとき。
 うらがえしのテストを表にするとき。
 かき氷の氷をくずさないように食べるとき。
 日常にある物。それは心ときめきすること、多し。

うつくしきもの

プチプチをおしたときの小さい音。
 静かにしているとき、時計の針の「チクタク」という音。
 おなかですいたとき、おなかから出る音。
 何も何も、小さい音はみなうつくし。

VI 研究のまとめ

本研究開発委員会の研究内容の「単元の開発」と「指導方法の工夫」の二つの観点から見た、成果と課題は次の通りである。

1 単元の開発

【成果】

- 伝統的な言語文化を扱った単元では、児童に親しみやすい内容の古典作品、身近な場面を扱ったことわざを単元の導入時に提示することで、児童の興味・関心を高めることができた。
- 言葉や古典作品の意味を学ぶだけでなく、学んだことを使って自分なりに表現する活動を取り入れたことによって、学んだ言葉を使ったり、日常の言語生活を見直したりする姿が見られた。

【課題】

- 日本語のもつよさなどに児童自らが気づき、国語を尊重する態度を育成するためには、古典作品独特のリズムに触れさせその特徴を考えさせたり、学習した言葉が普段どのようなときに使われているかを考えさせたりするなど、言葉を客観的に捉える手だてが必要なことである。
- 単元の学習が終わった後も、学んだことを日常の生活に生かせるようにするためには、教師の継続した働き掛けが必要である。

2 指導方法の工夫

【成果】

- 単元の導入で教師が単元の終末で行う活動を明示することで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。
- 言葉遊び等児童が関心をもって取り組める学習活動を取り入れたことにより、児童が楽しみながら言葉を集めたり、比べたりする姿が見られた。
- ペアで学習する時間を意図的に取り入れたことで、自分の考えを相手に伝えたり、分からないことを友達に聞いて学びを深めたりするなど、主体的に自分の力を高めようとする姿が見られた。

【課題】

- 学習のねらいに即して、自分の変容や成長を児童が自覚できるようにするためには、学習のねらいに対応させた振り返りの観点を設定する必要がある。
- 児童が集めた言葉を的確に分類・関連付けできるようにするためには、事前に教師が十分に教材研究を行い、どのように分類・関連付けることが学習のねらいに適しているのかを把握しておく必要がある。
- 獲得した語彙を使って児童に表現させるときには、その表現の仕方が適当であるかを教師が十分に見取る必要がある。

教材との出合わせ方を工夫し、児童が関心をもって取り組める言語活動を設定することで、児童が言語文化に親しんだり、語彙を豊かにしたりする姿が見られた。また、学んだことを生かして表現する場面を取り入れることが日常化につながることも分かった。これらの視点を生かして、日本語のよさ、言葉を大切に使う気持ちに児童自らが気付けるような単元開発、指導方法の工夫を今後も行っていく必要がある。

小学校社会研究開発委員会

目 次

I	主題設定の理由	22
II	研究仮説	22
III	研究構想図	23
IV	研究の内容	23
V	実践	28
VI	研究のまとめ	40

〈小学校社会研究開発委員会〉

研究主題

「社会に見られる課題を把握して、
その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する学習の充実
～主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成を目指して～」

I 主題設定の理由

平成 29 年 3 月公示の新学習指導要領では、小学校社会の教科の目標が次のように示された。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

小学校社会において育成を目指す資質・能力が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って具体的に示されたことは、今次改訂のポイントである。今後は、これらの資質・能力の育成を図るための授業改善や教材開発等についての研究が、全国各地で進められていくと予想される。

そこで、本委員会においては、現行学習指導要領と新学習指導要領の教科の目標を比較し、新たに示された内容について分析を行った。その結果、(2)の「思考力、判断力、表現力等」に関わる内容において、

思考力：社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力

判断力：社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力

表現力：考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力

と捉えることが示されており、中でも、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力については、これまでの学習指導要領においては示されていない内容（＝資質・能力）であることが分かった。

この結果を受け本委員会では、研究主題を「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する学習の充実」と設定し、研究を進めることとした。

II 研究仮説

「社会に見られる課題」を把握する場面を明らかにし、その課題の解決に向け、地域や社会の一員として自分たちにできる社会への関わり方を選択・判断する学習の充実を図ることができれば、児童が主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成することができるだろう。

Ⅲ 研究構想図

<p>〔共通テーマ〕 個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発</p>	
<p>〔児童の実態〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会への関心や、社会参画に対する意識が低い。 ○ 自分の考えに自信をもてない。根拠を示せない。 ○ 社会的事象の特色や意味、相互の関連を考える活動には慣れてきている。 	<p>〔教師の願い〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を把握し、追究して分かったことや、自分の考えを表現させたい。 ○ 多角的に社会的事象を解釈し、社会への関わり方を選択・判断する力を育てたい。 ○ 社会的事象への関心を高め、すすんで社会参画しようとする態度を育てたい。
<p>〔育てたい児童像〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を的確に読み取り、自ら考え、豊かに表現する児童 ○ 社会に見られる課題を捉え、よりよい社会について考え、自分にできることを実践しようとする児童 	
<p>〔新学習指導要領の教科目標より〕</p> <p>(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。</p> <p>⇒これまでの学習指導要領においては示されていない内容（＝資質・能力）</p>	
<p>〔研究主題〕 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する学習の充実～主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成を目指して～</p>	
<p>〔研究の内容〕</p> <p>1 「社会に見られる課題」と「社会への関わり方を選択・判断する姿」の分析</p> <p>(1) 「社会に見られる課題」について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>社会に見られる課題</p> <p>地域社会における安全の確保や、良好な生活環境の維持、資源の有効利用、自然災害への対策、伝統や文化の保存・継承、国土の環境保全、産業の持続的な発展、国際平和の構築などの中で、複数の立場から追究したり、解決に向けて自分たちにできる関わり方を選択・判断したりすることができるもの</p> </div> <p>(2) 社会への関わり方を選択・判断する姿の分析</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>社会への関わり方を選択・判断する姿</p> <p>社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、地域や社会の一員として自分たちにできる社会への関わり方を選択・判断している姿</p> </div> <p>(3) 一覧への整理</p> <p>2 指導例の開発</p> <p>(1) 学習過程の設定</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>問題把握（つかむ）…動機付けや方向付け</p> <p>↓</p> <p>問題追究（調べる）…情報収集や考察・構想</p> <p>↓</p> <p>問題解決（選択・判断する）…まとめや解決の構想</p> </div> <p>(2) 「社会に見られる課題」の提示方法の工夫</p> <div style="margin-left: 20px;"> <p>問題把握の場面で提示→学習問題として追究していく</p> <p>問題解決の場面で提示→新たな「問い」として追究していく</p> </div>	

Ⅳ 研究の内容

- 1 「社会に見られる課題」と「社会への関わり方を選択・判断する姿」の分析
- (1) 「社会に見られる課題」について
- 小学校学習指導要領解説社会編（平成 29 年 6 月）においては、「社会に見られる課題」について、「地域社会における安全の確保や、良好な生活環境の維持、資源の有効利用、自

然災害への対策、伝統や文化の保存・継承、国土の環境保全、産業の持続的な発展、国際平和の構築など現代社会に見られる課題を想定したものであり、「学習内容との関連を重視し、学習展開の中で児童が出合う社会的事象を通して、課題を把握できるようにすることが大切である」と示されている。そこで、この内容を基に実際の授業を分析したところ、児童が出合う社会的事象の中には、「このままごみを出し続けると、埋め立て処分場はあと約 50 年しか使えない」、「自然災害は、いつ発生するか分からない」といったように、その解決に向けて自分がどのように関わっていくかの選択・判断をしやすい課題がある一方で、その解決に向けた社会への関り方を選択・判断しにくい課題や、立場を変えて追究することが難しい課題があることも分かった。この結果を受け、本委員会では「社会に見られる課題」を次のように定義した。

地域社会における安全の確保や、良好な生活環境の維持、資源の有効利用、自然災害への対策、伝統や文化の保存・継承、国土の環境保全、産業の持続的な発展、国際平和の構築などの中で、複数の立場から追究したり、解決に向けて自分たちにできる関わり方を選択・判断したりすることができるもの

(2) 社会への関わり方を選択・判断する姿の分析

小学校学習指導要領解説社会編（平成 29 年 6 月）においては、「社会への関わり方を選択・判断する」について、「社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、習得した知識などの中から自分たちに協力できることなどを選び出し、自分の意見や考えとして決めるなどして、判断すること」と示されている。

また、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成 28 年 8 月）の中では、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことをもとにして社会への関わり方を選択・判断する力として、「構想する力」が示されている。

そこで、本委員会が考える「社会への関わり方を選択・判断する姿」を、次のように定義した。

社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、地域や社会の一員として自分たちにできる社会への関わり方を選択・判断している姿

(3) 一覧への整理

新学習指導要領では、社会への関わり方を選択・判断する学習活動を設定する単位については、各学年の「内容の取扱い」において、概ね次の①又は②のように示されている。

① 自分たちにできることを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること

② 多角的に考えて、これからの産業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること

そこで、本委員会では、各学年のどの単位において、「社会への関わり方を選択・判断する」学習活動を設定することが求められており、授業ではどのような「社会に見られる課題」や「社会への関わり方を選択・判断する姿」を設定することができるのかを分析し、次頁のように一覧へ整理した。

※ は、本委員会で実践を行った単元

学年	内容	内容の取扱い	社会に見られる課題の例	選択・判断する姿の例
第3学年	地域の安全を守る働き	地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	どんなに交通事故を防ぐ取組をしても、交通事故は発生しており、簡単にはゼロにならない。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が交通ルールを守る。 子供110番の家を確認する。 外出する時は防犯ブザーを持つ。 警察官や地域の方に挨拶をする。 交通事故を防ぐ取組を調べる。
	市の様子移り変わり	「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること。	市の人口は、この10年間で急に増えていて、これからも増え続けるかもしれない。	<ul style="list-style-type: none"> 今よりも住みやすい市になるように、私たちが市のまちづくりの計画を調べ、市の発展に協力していきたい。 子供から高齢者、外国人のことまで考えたまちづくりが大切だと思う。
第4学年	人々の健康や生活環境を支える事業	節水や節電、ごみの減量や水を汚さない工夫など、自分たちにできることを考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	東京都（首都圏）は、現在も渇水が起きやすい状況にある。	<ul style="list-style-type: none"> 限りがある水の無駄使いをしない。 家族に水を大切にしよう伝える。 トイレ、シャワーの適量を考える。 節水の取組を調べる。
	自然災害から人々を守る活動	地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	自然災害は、いつ発生するか分からない。	<ul style="list-style-type: none"> 大きな地震に備え、地域のハザードマップを確認しておく。 東京都では、今後も洪水が発生する可能性があるため、避難経路の確認や災害避難セットを家に常備しておく。
	県内の伝統や文化、先人の働き	文化財や年中行事については、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	地域の祭りなどに参加する人の数が減っていたり、後継者が少なくなってしまうたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> 祭りがずっと続くよう、これからも参加していきたい。大人になったら中心になって祭りを受け継いでいきたい。 文化財にはどれも地域の人々の思いや願いが込められている。大切にしたい。
第5学年	我が国の農業や水産業における食料生産	消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業などの発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。	魚が獲れなくなってきたり、これから魚はとれなくなるかもしれない。	<ul style="list-style-type: none"> 獲りすぎないように、獲る量を制限する。 小さい魚が獲れた時は、すぐに海に戻す。 消費者も水産エコラベル等の商品を買う。 獲り続けることができるよう漁業者、研究者、消費者がみんなで協力する。
	我が国の工業生産	消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。	日本国内の工業生産量は、年々縮小傾向である。	<ul style="list-style-type: none"> 消費者や社会のニーズ（安全、利便性等）にあった工業生産を行う。 より環境に配慮した製品づくりを目指して研究開発を続け、技術を向上させる。
	我が国の産業と情報との関わり	産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。	情報の扱われ方によって社会の混乱が起こる可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術を活用することで、生活が便利になっている。もっと情報を有効活用できるようになるとよいと思う。 個人情報をもれなかったり、高齢者や障害者が簡単に操作できたりするとよい。
	我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	森林資源の働きと公害の防止と生活環境については、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	日本の国土の多くは森林が占めており、保全が困難になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 森林保全の取組の中で、募金など自分が関われるものを調べ、実行したい。 どんな木材を使っているかを確認する。 国産木材使った製品や間伐材マークの入った商品を購入するようにする。
第6学年	我が国の政治の働き	国民としての政治への関わり方について多角的に考えて、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。	政治に関わることで、社会をよりよくすることができると考える人が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 選挙に行かなければ、意見が生活に反映されない。私たちの代表者を選挙で選ぶために選挙に行くようにした。 国民が選挙に関心をもつ対策が大切だ。
	グローバル化する世界と日本の役割	世界の人々と共に生きていくために大切なことや、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えたり「選択・判断」したりできるよう配慮すること。	外国の文化や習慣を認めるまでには、時間がかかることもある。	<ul style="list-style-type: none"> 違う国の文化や習慣を受け入れるのに時間はかかるかもしれないが、その国で人気のあるスポーツについて調べ、話題にするなど積極的に関わっていきたい。 日本との違いを認める、その国のマナーに反することはしないようにする。

※ 「我が国の歴史上の主な事象」の学習では、現在の自分たちの生活と過去の出来事との関わりを考えたり、過去の出来事を基に現在及び将来の発展を考えたりするなど、「歴史を学ぶ意味を考える」ように示されている。

2 指導例の開発

(1) 学習過程の設定

本委員会では、上記の一覧を基にした指導例を開発し、検証授業を実施するには、「社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する学習の充実」を図るための学習過程を明らかにする必要があると考えた。そこで、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省・平成28年8月）に示された「社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ」を参考に、学習過程と各過程における具体的な学習活動を設定した（次頁参照）。

(2) 「社会に見られる課題」の提示方法の工夫

次に、「社会に見られる課題」を学習過程のどの場面で提示すると「その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する」ことにつながるのかについての検討を行った。その結果、「問題把握」の場面で「社会に見られる課題」を提示し、学習問題として追究していく方法と、「問題解決」の場面で提示し、新たな問いとして追究することで、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する方法を提案し、その有効性を考察することとした。

「問題把握」の場面で提示… 学習問題を見いだす場面で「社会に見られる課題」を提示することで、児童が学習問題を追究していく際の視点の一つとして、意識できるようにする。

そして、単元の終末（問題解決の場面）において改めて「社会に見られる課題」を提示し、児童が学習問題に対する自分の考えをまとめた後に、社会に見られる課題の解決に向け、学習したことを基に、社会の一員として自分にできる関わり方を選択・判断できるようにする。

「問題解決」の場面で提示… 学習問題に対する自分の考えをもった後に「社会に見られる課題」を提示し、児童が新たな問いとして追究できるようにする。

そして、新たな問いの解決に向け、児童が学習したことを基に、より広い視野から、社会の一員として自分にできる関わり方を選択・判断できるようにする。

本委員会では、上述(1)と(2)を検証するために、以下の4本の指導例を開発するとともに、検証授業と児童の反応を基に、本研究の有効性について考察を行った。

① 第4学年 「水はどこから」 10時間扱い

② 第4学年 「安全なくらし～けいさつの仕事と人々のくらし」 8時間扱い

※ 新学習指導要領では、第3学年の内容(3)「地域の安全を守る働き」に該当する。

③ 第5学年 「水産業のさかんな地域～変わりゆく日本の水産業～」 10時間扱い

④ 第6学年 「日本とつながりの深い国々」 10時間扱い

学習過程

問題把握の場面で提示する例

問題解決の場面で提示する例

問題把握 (つかむ)

動機付け

方向付け

- **社会に見られる課題**を把握する。
 - ・ 気付きや疑問を出し合う。
 - ・ 課題に対する予想を出し合う。
 - ・ 学習問題を設定する。
- 問題解決の見通しをもつ。
 - ・ 学習問題に対する予想を立てる。
 - ・ 調べる方法を考え、学習計画を立てる。

- 学習問題を見いだす。
 - ・ 社会的事象を知る。
 - ・ 気付きや疑問を出し合う。
 - ・ 学習問題を設定する。
- 問題解決の見通しをもつ。
 - ・ 学習問題に対する予想を立てる。
 - ・ 調べる方法を考え、学習計画を立てる。

問題追究 (調べる)

情報収集

考察

- 学習計画に沿って調べる。
 - ・ 様々な資料を活用して調べる。
 - ・ 学校外での観察や調査などを通して調べる。
 - ・ 他の児童と情報を交換する。
- 考察する。
 - ・ 社会的事象の意味や特色、相互の関連を考える。
 - ・ 多角的に考察する。
 - ・ 情報収集した内容を基にそれぞれの考えを話し合う。

- 学習計画に沿って調べる。
 - ・ 様々な資料を活用して調べる。
 - ・ 学校外での観察や調査などを通して調べる。
 - ・ 他の児童と情報を交換する。
- 考察する。
 - ・ 社会的事象の意味や特色、相互の関連を考える。
 - ・ 多角的に考察する。
 - ・ 情報収集した内容を基にそれぞれの考えを話し合う。
- 構想・まとめる。
 - ・ 学習問題に対する自分の考えをもつ。

問題解決 (選択・判断する)

構想・まとめ

- 構想・まとめる。
 - ・ 学習問題に対する自分の考えをもつ。
- **社会に見られる課題**をとおして、**社会への関わり方**について考える。
 - ・ 社会に見られる課題の解決に向けて、学習したことを基にして、社会への関わり方を選択・判断する。

- **社会に見られる課題**を把握し、**社会への関わり方**について考える。
 - ・ 新たな問いを見いだし、学習したことを基にして、解決に向けてできることを選択・判断する。

V 実践

実践1 「水はどこから」(第4学年)

問題把握の場面で提示する指導例

1 単元の目標

- 飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、位置や他地域とのつながり、時期による違いを関連付けて考え、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。
- 飲料水の供給のための事業について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究し、学んだことを基にして、「限りある資源」である水をこれからも利用するために都民としてできることを考えようとしている。

2 開発のポイント

(1) 社会に見られる課題について

本単元では、普段、当たり前のように使っている飲料水は、計画的、協力的に供給されていて、生活に欠かすことができないということを理解するとともに、「水は限りある資源だから、大切に使っていきたい」という態度を育てることを目指している。しかしながら、児童に「水は限りある資源である」ということを実感させることが難しい単元でもある。そこで、社会に見られる課題を次のように設定した。

東京都(首都圏)は、現在も渇水が起きやすい状況にある。

問題把握の場面では、「水が使えなくなると、今の生活はできなくなる」という事実を確認し、水は自分たちの生活に欠かせないものであるという意識をもたせた上で、社会に見られる課題を提示した。そうすることにより、渇水が起きやすい状況でも私たちが飲料水をいつでも使うことができているのは、その事業や対策に関わる人々が様々な工夫や努力を続けているからであるということを理解できるようにした。

そして、問題解決の場面では、どんなに対策や事業を整備したり、関わる人々が努力をしたりしても、雨が降らなければ東京都は水不足になるという事実を再度提示することで、児童は「水は限りある資源である」ということを実感し、節水などの社会への関わり方を選択・判断していくようにした。

(2) 社会への関わり方を選択・判断する姿

「限りある資源」である水をこれからも使っていくために、社会への関わり方を選択・判断している姿として、以下の姿を設定した。

- ・ 水の無駄使いしないようにする。
- ・ トイレ、シャワーの適量を考える。
- ・ 雨水などをためておいて使う。
- ・ 家族にも、水を大切にするように伝えていく。
- ・ 節水の取り組みにはどのようなものがあるのか調べ、挑戦してみる。

3 小単元の指導計画（10 時間扱い）

社会に見られる課題

	ねらい（問い）	○学習活動 ・ 児童の反応	◎資料 *留意点
問題把握・2時間	<p>私たちは、毎日の生活の中で、どのよう なときに水を使っているだろう。</p>	<p>○どのよう なときに水を使っているかを発表する。 ・トイレ ・風呂 ・洗濯 ・料理 ・プール ○水がなくなると、どのよう な生活になってしま いか話し合う。 ・今の生活ができなくなってしまう。</p> <p>東京都は、現在も渇水が起きやすい状況にある。</p> <p>○人口、水道使用量、取水制限の時間数のグラフ から分かることを話し合う。 ・東京でも渇水になって困ったことがある。 ・人口と水の使用量が増えてきている。 ・人口や使用量は増えているが、取水制限になっ た時間は減っている。</p>	<p>◎水を使う場面の図 ◎水の使う場面のコンセプト マップ *コンセプトマップから、生活 との関わりに気付くように する。</p> <p>◎東京大渇水（1964年）資料 ◎東京都の水道使用量、取水制 限になった時間数（1964年 ～2017年） *人口と使用量は増加し、取水 制限が毎年のように行われ ていることをおさえる。</p>
	<p>私たちが、いつでも安全な水を使えるように、だれがどのようなことをしているのだろう。</p>		
問題追究・6時間	<p>水道の水は、どこ から、どのよう にし てやって来るの だろう。</p>	<p>○蛇口までの経路を調べる。 ・水源林→ダム→取水せき→浄水場→給水所→配 水管→家・学校・工場など→蛇口の順で、やっ て来ている。</p>	<p>◎水道施設の写真 *水道施設の写真を順番に並 び替え、水の経路が視覚的 に把握できるようにする。</p>
	<p>水源林やダムに はどのよう な役割 があるの だろう。 (2時間)</p>	<p>○ダムや水源林の役割、ダムや水源林で働く人の 工夫や努力を調べる。 ・たくさんの水を確保するために働いている。 ・計画的にダムを造っている。 ・周りの県とも協力している。</p>	<p>◎ダムや水源林で働く人の話 ◎近代水道年表 ◎関東近県のダムの分布地図 *計画的、協力的に事業が進め られていることを押さえる。</p>
	<p>浄水場の仕組 はどのよう になって いるの だろう。 (2時間)</p>	<p>○浄水場の仕組、浄水場で働く人の工夫や努力に ついて調べる。 ・ダムと同様に計画的に進められている。 ・水をきれいにするためにたくさんの工夫がある。</p>	<p>◎近代水道年表と分布図 ◎浄水場で働く人の話</p>
	<p>給水所や配水管 にはどのよう な役 割があるの だろう。</p>	<p>○給水所や配水管の役割、配水管が整備されてい った様子を調べる。 ・区市町村が大きくなるにつれて伸びている。 ・常に届けられるように管理している。</p>	<p>◎給水管地図 ◎水道局の方の話 ◎漏水検査の写真 ◎配水管工事の立て看板</p>
問題解決・2時間	<p>私たちが、いつで も安全な水を使 えるように、だれがど のよう なことをし ているの だろう。</p>	<p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ・わたしたちの使う水は、水道局の人たちや周り の県が協力して届けられている。だからいつで もきれいな水を使えることが分かった。</p>	<p>*安全、いつでも、大量の視点 に注目して考えるようにする。</p>
	<p>水道の水をこれ から使っていく ために、私たちはど のよう なことがで けるの だろう。</p>	<p>○1994年の水不足の様子、渇水時のダムの写真等 から分かることや考えたことを話し合う。</p> <p>東京都は、現在も渇水が起きやすい状況にある。</p> <p>・今でも東京は毎年水不足になっている。 ・水道事業が計画的に進められ、水道施設が整備 されても、雨が降らないと水不足になる。 ○自らの生活を振り返り、これからの水のよりよ い使い方を考え、発表する。 ・水は、限りがある資源なので無駄使いしないよ うにする。 ・家族にも、水を大切にするように伝えていく。 ・雨水などを溜めておいて、使うようにする。 ・節水の取り組みには、どのようなものがあるの か調べ、節水に挑戦してみる。</p>	<p>◎1994年列島渇水資料 ◎渇水時のダムの写真 ◎現在の貯水率 *渇水は天候に因るところ が大きく、いつ水不足が発 生するか分からないこと を押さえる。</p>

4 考察

(1) 「社会に見られる課題」を提示したとき（第2時）の児童の反応

- ◇ 自分たちが生活している中で、たくさんの場面で水を使っていることが分かった。もし、昔のように水不足になってしまったら、自分は生活できなくなってしまう。自分だけでなく、公園やお店も開けないから困る。
- ◇ 人口が増えて、水を使う量も増えているのに、どうして水不足にならないのだろう。

⇒ 学級の多くの児童がこのような反応であり、児童は、「水は暮らしに欠かせない」、「大量の水が常に私たちのもとへ届けられている」という視点を持ちながら、学習問題を追究することができた。また、「社会に見られる課題」を提示したことにより、児童は「昔のように（＝時間の経過）」や、「人口が増えて、水を使う量も増えている（＝時期による変化）」といった追究の視点に着目することができたと考える。

(2) 単元の終末で見られた児童の反応

① 「社会に見られる課題」について認識を深めた児童の反応

- ◇ 人口が増えていても、水道局の人たちが頑張ってくれているので、たくさんの水が使えることが分かったが、雨が降らないと水不足になることが分かった。
- ◇ 一番人口が多くて、水を使っている東京都が水不足になりやすいと聞いて、怖くなった。自分たちでできることをしなければならぬと真剣に思った。
- ◇ 今朝のニュースで、水不足の事を取り上げていた。自分たちの水が来ている川ではなかったけど、このままだと水不足になるかもしれない。

⇒ 児童の反応からは、水道事業に関わる人々がどんなに工夫や努力をしても水不足になることがあることを理解し、自分たちの水の使い方をもう一度見直さなければならぬことを、必要感をもって考えていると考察することができる。これは、学習した内容を通して「社会に見られる課題」への関心が高まり、実際の社会と学習内容を結び付けることができた児童の姿であると考えられる。

② 「選択・判断」で見られた児童の反応

- ◇ 水を大切にすることは分かっていたけど、友達の家の作戦を聞いてみると、いろいろな方法があることが分かった。家族で新しい方法に挑戦してみたい。

⇒ 家族で取り組める節水の方法を話し合った際の反応である。各家庭でできることを調べ、それを伝え合うことにより、自分の家だけでは気付かなかった取組にも関心をもち、何人もの児童が新しい取組へ挑戦しようとしていた。これは、水不足になる可能性があるという「社会に見られる課題」に対して、水道局の人々の取組ではなく、自分たちの取組で解決しようと選択・判断した姿であると考えられる。

(3) 実践上のポイント～自分で選択・判断した取組への挑戦～

本単元の終末において選択・判断した取組について、夏季休業中に取り組むこととした。家族で協力して取り組んだという児童もいれば、「洗濯に風呂の水を使う」という作戦に取り組んでみたものの、平日は時間がなくて達成できず、「休日に無理なく行うことにした」と生活の実態にあった取組に修正した児童もいた。これらの結果からは、各自が意欲的に取り組んでおり、学習内容を実際の生活にフィードバックできていると考察することができるため、「社会に見られる課題」を適切に選択し、指導計画へ効果的に組み込むことは、児童が主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成につながったと考える。

1 小単元の目標

- 地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり資料などで調べたりして関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解できるようにする。
- 地域の安全を守る働きについて、学習問題の解決に向けて意欲的に追究し、学んだことを基にして、地域や自分自身の安全を守るために地域の中でできることを考えようとしている。

2 開発のポイント

(1) 社会に見られる課題について

本單元では、警察署を中心とした関係機関と地域の人々は、交通事故等が地域で起きないようにするために協力して取り組みを行っているということを理解していく。しかしながら、それらの取組が行われていても交通事故は発生しており、その件数が簡単に「ゼロ」になることはない。そこで、社会に見られる課題を以下のように設定した。

どんなに交通事故を防ぐ取組をしても、交通事故は発生しており、簡単にはゼロにならない。

児童は、幼い頃から家庭や学校で「交通事故や不審者に気を付けよう」と教えられてきている。しかしながら、学年を重ねるにつれ自分の身を守ることにに対する切実感が薄れてきている児童もいる。そこで、問題把握の場面では、「交通事故は、毎日、全国各地で発生している」という事実を確認し、交通事故は私たちの近くでも起きる可能性があるという意識をもたせた上で、社会に見られる課題を提示した。そうすることにより、地域の安全が守られているのは、関係機関と地域の人々が相互に連携して、緊急時の対処や交通事故の防止に努めているからであるということを理解できるようにした。

そして、問題解決の場面では、警察署などと地域の人々どんなに緊急時の対処や交通事故の防止に努めても、交通事故は簡単にはゼロにならないという事実を再度提示することで、児童は自助の大切さを実感し、地域や自分自身の安全を守るためにできる社会への関わり方を選択・判断していくようにした。

(2) 社会への関わり方を選択・判断する姿

交通事故などから私たちや地域の安全を守るために、社会への関わり方を選択・判断している姿として、以下の姿を設定した。

- ・ 交通事件がゼロに近づくよう、一人一人が交通ルールを守る。
- ・ 子供110番の家を確認しておいたり、外出する時は防犯ブザーを持ったりする。
- ・ 警察官や地域の方に感謝し、心をこめて挨拶をしたいと思います。
- ・ 交通事故を防ぐ取組にはどのようなものがあるのか調べ、挑戦してみる。

3 単元の指導計画（8時間扱い）

社会に見られる課題

	ねらい（問い）	○学習活動 ・ 児童の反応	◎資料 *留意点
問題把握・2時間	<p>私たちが生活する地域では、交通事故がどれぐらい起きているのだろう。</p>	<p>○交通事故の発生件数を調べる。 ・交通事故は、私たちの近くでたくさん起きている。 ・交通事故の数は減ってきている。</p>	<p>◎交通事故の発生件数 ◎ニュース記事 *交通事故はいたるところで起きていることを押さえる。</p>
	<p>どんなに交通事故を防ぐ取組をしても、交通事故は発生しており、簡単にはゼロにならない。</p>		
<p>交通事故から私たちを守るために、誰がどのような取組みをしているのだろう。</p>			
問題追究・4時間	<p>事件や事故を防ぐために警察はどのようなことをしているのだろう。 (2時間)</p>	<p>○警察の役割や警察官の仕事を調べる。 ・通信指令室でパトカーの位置を把握して、指示を出している。 ・パトロールや交通整理をしている。</p>	<p>◎警視庁「ピーポ君ピーコちゃんの警察のお仕事ってなあに？」 *事件や事故が起きないように、発生防止に努める仕事が多いことを押さえる。</p>
	<p>事件や事故を防ぐために地域ではどのようなことをしているのだろう。</p>	<p>○地域にはどのような防犯システムがあるのか調べる。 ・区役所が協力しているとは思ったけど、町内会や商店街が協力しているとは思わなかった。</p>	<p>◎地域の防犯システムの写真（ピーポ君110番の家のシール、防犯カメラ） *自分たちの知らないところで協力体制がとられていることを押さえる。</p>
	<p>事件や事故を防ぐために地域の人たちはどのようなことをしているのだろう。</p>	<p>○地域の人たちの活動を調べる。 ・通学路で見守ってくれている人がいる。 ・シルバーさんがどんな思いで毎朝、見守ってくれているか分かった。</p>	<p>◎通学路のボランティア（シルバーさん）の話</p>
問題解決・2時間	<p>交通事故から私たちを守るために、誰がどのような取組みをしているのだろう。</p>	<p>○調べて分かったことを関係図にまとめ、学習問題に対する自分の考えを書く。 ・警察や区役所などの関係機関が連携して設備を整備したり働きかけをしたりしながら、地域の方々とも協力して地域の安全を守っていることが分かった。</p>	<p>*警察、区役所、地域の三つが連携していることを押さえる。</p>
	<p>交通事故を減らすために、私たちはどのようなことができるのだろう。</p>	<p>○これまでの学習を基にして、交通事故を減らすためにできることを考え、発表する。</p>	<p>◎交通事故の発生件数</p>
<p>どんなに交通事故を防ぐ取組をしても、交通事故は発生しており、簡単にはゼロにならない。</p>			
		<p>・<u>交通事件がゼロに近づくよう、一人一人が交通ルールを守る。</u> ・<u>子供110番の家を確認しておいたり、外出する時は防犯ブザーを持ったりする。</u> ・<u>シルバーさんたちにも感謝し、心をこめて挨拶をしたいと思う。</u> ・<u>交通事故を防ぐ取組にはどのようなものがあるのか調べ、挑戦してみる。</u></p>	<p>*警察署などと地域の人々どんなに交通事故の防止に努めても、交通ルールを守らない人がいると、事故は起きてしまうことを押さえる。</p>

4 考察

(1) 「社会に見られる課題」を提示したとき（第1時）の児童の反応

- ◇ 警察が色々パトロールなどを行ってくれるけど、火事と同じように、事故や事件は起こってしまうんだなと思った。
- ◇ 火事と同じでやっぱり減ってはいるが、ゼロにはどうしてもならないから、少しでもゼロにできるように信号を無視せずに（したことないけど）したいと思います。

⇒ 前単元で、「火事はいくら予防してもゼロにはならない」という「社会に見られる課題」を提示したことが、本単元の学習でも生かされている。また、警察の働きがあっても交通事故はゼロにはならないことから、「自分たちには何ができるか」といった自助の考え方をもちながら、学習問題を追究することができたと考える。

(2) 学習の終末で見られた児童の反応

① 「社会に見られる課題」について認識を深めた児童の反応

- ◇ 地域の人たちや警察が守っていて、僕たちも気を付けているのに、ゼロにならないなんて不思議だと思った。
- ◇ Aさんは、20年以上も通学路を自主的に見守ってくれていて、色々頑張っているのだけれど、やっぱり事故はゼロにはならないと知って、Aさんの努力が報われてほしいと思いました。

⇒ 児童の反応からは、警察署などの関係機関や地域の人々など、様々な立場の人たちによる交通事故を防ぐ取組を調べてきた結果、地域の安全を守ることに真剣に取り組んできた人々の思いを理解することができていると読み取ることができる。さらに、そうした人々の取組や思いがあるにもかかわらず、交通事故はゼロにはならないということを認識しつつ、その事実に対して「なぜゼロにならないのだろう？」という疑問がうかがえる。これは、学習した内容を通して「社会に見られる課題」への関心が高まり、どうにかして課題を解決することができないかと、切実感をもって考え始めた児童の姿であると考えられる。

② 「選択・判断」で見られた児童の反応

- ◇ ピーボ君110番の家を調べておく。危険なものがあったり、公園の高い木などは切ってもらったりするなど、大人の人に言って安全を守る。シルバーさんにありがとうの思いを込めて、きちんと挨拶する。

⇒ これまでの学習を基にして、交通事故を減らすためにできることを話し合った際の反応である。本単元を学習する前には、「信号無視をしない」や「ヘルメットをかぶる」など、今までの生活経験の中で知っている知識を基にした反応ばかりであったが、本単元の終末では、学習の中で自分が調べて分かったこと、友達の取組を聞いて知ったことなどの中から、自分のできることを発表していた。中でも、直接事故を防ぐことにはならないが、地域の人に感謝の気持ちをもって生活することを意識する児童の反応が増えていた。これは、地域の人たちが「社会に見られる課題」の解決に真剣に取り組む姿やその思いを児童が真摯に受け止め、自分たちにできる取組を選択・判断した姿であると考えられる。

(3) 実践上のポイント～毎時間、社会に見られる課題に向かい合わせる～

本実践では、問題把握の場面で「社会に見られる課題」を提示し、その後の問題追究の場面においても毎時間「それでもゼロにはならない」と児童に問いかけ続けた。その結果、学習が進み、知識が蓄積されるにつれて、「こんなに努力をしているのにどうして」、「ゼロに近付けるためには何が必要なのか」といった問いが生まれていった。その結果、選択・判断の場面でより、切実感をもって考えることができた。

実践 3

「水産業のさかんな地域～変わりゆく日本の水産業～」 (第5学年)

問題把握の場面で提示する指導例

1 単元の目標

- 我が国の水産業における食料生産について、生産量の変化、生産の工程、人間の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べまとめ、食糧生産に関わる人の工夫や努力を捉え、その働きを考え、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにする。
- 我が国の水産業における食糧生産について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究し、学んだことを基にして、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの水産業の発展について、自分の考えをまとめようとしている。

2 開発のポイント

(1) 社会に見られる課題について

本單元では、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力や工夫をしていることを理解していく。しかしながら、水産業は生産者の減少や高齢化、食のグローバル化、消費量の減少など様々な問題を抱えている。そこで、水産業の現状を理解し、今後の発展についての考えをもつことができるよう、社会に見られる課題を次のように設定した。

魚がとれなくなっていて、今後はもっととれなくなるかもしれない。

問題把握の場面では、「日本人は世界の平均の約3倍の魚を食べている」という事実を確認し、水産物は私たちの食生活に欠かせないものであるという意識をもたせた上で、社会に見られる課題を提示した。そうすることにより、国民の食生活を豊かにそして安定させるため、食料生産に関わっている様々な人々の工夫や努力を理解できるようにした。

そして、問題解決の場面では、水産業関係者が工夫や努力をしても、水産資源が減ってしまえば、私たちは魚を食べられなくなるかもしれないという事実を再度提示することで、児童がこれからの水産業の発展についての自分の考えをもつことができるようにした。

(2) 社会への関わり方を選択・判断する姿

これからの水産業の発展を考える姿として、以下の姿を設定した。

- ・ 漁業者は獲りすぎないように、獲る量を制限する。
- ・ 小さい魚が獲れた時は、すぐに海に戻す。
- ・ わたしたち消費者も「水産エコラベル」が貼られた商品を選んで買うようにする。
- ・ 魚を獲り続けることができるように漁業者、研究者、消費者がみんなで協力する。

3 小単元の指導計画 (8時間扱い)

社会に見られる課題

	ねらい (問い)	○学習活動 ・ 児童の反応	◎資料 *留意点
問題把握・2時間	私たちはどれくらい魚を食べているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本人はどれくらい魚を消費しているか調べる。 ・世界平均の約3倍も魚を食べている。 ・マグロの人気の高い。 ・魚を獲りすぎているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎マグロの漁獲量 ◎水産資源量のグラフ ◎水産資源減少の記事
		<p>魚がとれなくなっていて、今後はもっととれなくなるかもしれない。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ○日本の水産業の様子を概観する。 ・日本の周りには黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎とる漁業の様子の写真 ◎漁業者の話（文章資料） ◎日本の主な漁場（世界地図）
	<p>水産業にかかわる人々は、どのように水産物を確保しわたしたちに届けているのだろう。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対する予想を考える。 ・日本の周辺だけではなく、遠く外国まで行っているのではないか。 ・魚を育てて獲っているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> *調べる視点として以下の2点を押さえる。 ①確保や届けるための工夫や努力 ②獲り続けるための対策
問題追究・4時間	とる漁業はどのように行われているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○とる漁業について調べる。 ・遠洋漁業は世界の国々とのルールのもと何か月もかけて漁をしている。冷凍技術が大切だと分かった。 ・近海の魚を獲る漁業は、一度に多くの魚を獲らないともうけにならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎カツオが回遊する範囲の世界地図 ◎マグロはえ縄漁の様子（映像） ◎カツオ一本釣り漁の様子（映像） ◎漁師の話（映像・文章資料） ◎焼津漁港の人の話（文章資料） ◎漁獲量減少のグラフ *早く輸送するために工夫がされていることを押さえる。
	獲れた魚はどのようにわたしたちのもとへ届くのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○市場の役割について調べる。 ・獲れた魚を水揚げし、せりに出されている。 ・新鮮さを大切に輸送されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎高速道路網（図） ◎市場の様子（せりや輸送など）の映像や写真
	育てる漁業（養殖や栽培）はどのように行われているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○育てる漁業について調べる。 ・高く売れる魚や人気の魚をよりおいしく消費者に届ける工夫だと分かった。 ・育てて放流することは、魚を減らさないための対策になる。 ・エサや稚魚が天然の魚だと知り、結局は海の魚が減ることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎フルーツ魚一覧 ◎養殖業の映像（大分県サバの養殖） *研究開発によって、今まで養殖することができなかった魚が養殖できるようになっていることを押さえる。
	水産資源を守るためにどのような対策が行われているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○水産資源を守るための取組について調べる。 ・ハタハタを増やすための話し合いをして、他の県にも協力してほしい。 ・網の目を大きくして魚が逃げられるようにしている。水産エコラベルがついた魚を買えば協力できるので、もっと広まればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎秋田県ハタハタ漁の漁業制限について（グラフ、文章資料） ◎京都府舞鶴市の取組（映像・文章資料） ◎水産庁の方の話（文章資料） ◎水産物に貼られた水産エコラベル
問題解決・2時間	水産業にかかわる人々は、どのように水産物を確保しわたしたちに届けているのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ・水産業に関わる人たちは、生産性や品質を高めるよう努力したり、輸送する方法を工夫したりして、新鮮な水産物を私たちに届けていることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> *国民の食生活を支える重要な役割を果たしていることを押さえる。
	これからの水産業は、どのようになっていくのだろう。	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">魚がとれなくなってきていて、これから魚はとれなくなるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを基に、これからの水産業の発展について自分の考えをまとめ、発表する。 ・<u>漁業者は、とりすぎないように制限することは、これからも続けるために大事だと思った。</u> ・<u>自分は、消費者としておいしく安いものがほしいけれど、「水産エコラベル」など少し高くてもよい獲り方のものも買うこともできる。</u> ・<u>販売者も「水産エコラベル」の魚を紹介して売っていくとよいと思う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> *これからの水産業の発展のためにはどのようになっていくとよいか、生産者や消費者の立場にたって考えるようにする。 *自分の考えをまとめた後に、グループで話し合うようにする。

4 考察

(1) 「社会に見られる課題」を提示したとき（第1時）の児童の反応

◇ 魚が減ってきていることを知ってびっくりした。もしかすると、このまま減り続けないように人が育てているのかなと思った。わたしは、魚が30年後になくなるかもしれないなら何か協力できることがあるのかなと思った。

⇒ この反応は、これまでの水産業の学習の導入段階では、見ることがなかった反応である。

児童は「社会に見られる課題」への対策を予想しながら、水産資源が減っていることに問題意識をもち、学習問題を追究しようとしている。これらは、問題把握の場面で「社会に見られる課題」を提示したことによるものと考えられる。

(2) 学習の終末で見られた児童の反応

① 「社会に見られる課題」について認識を深めた児童の反応

◇ 漁業の課題や（魚を減らさないようにする）対策を知った。魚を減らさないためには、育てる漁業に力を入れ、とる漁業では、漁獲量を制限した方がよいと思う。漁獲量を制限すると、とる漁業をしている漁業者が困るのではないと思う。育てる漁業にすると、えさを天然の魚にしないといけないから、まだまだ課題があると思う。

⇒ 児童は、第3時に育てる漁業が解決策になると考えていたが、養殖業で使うエサは天然の魚であることを知り驚いていた。そして、水産業者の様々な取組を理解した上で、どうすれば「社会に見られる課題」の解決につながるかを自分なりに考えている姿が見られた。

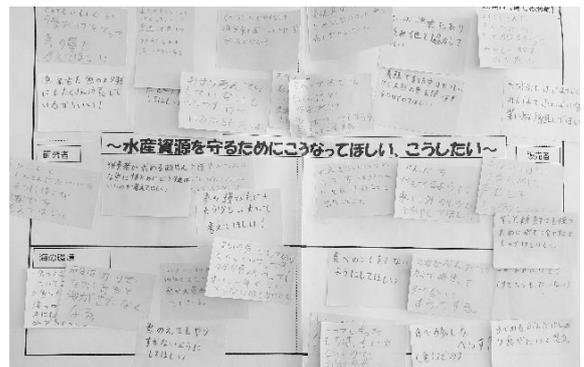
② 「選択・判断」で見られた児童の反応

◇ 今の漁業は日本みんなで考えていかなければいけないことだと思った。養殖業は、今の数を減らさないようにし、とる漁業は禁漁などをして魚の数を増やしてから漁獲量の制限をし、安定させていった方がいいと思った。

⇒ 簡単には解決できないことを理解した児童からは、何をすればよいのかと悩む姿が見られたが、児童の反応からは、これからの水産業の発展に多くの人に関心をもち、共に考えていくことが大切だと考え、選択・判断したと読み取ることができる。これは、魚が獲れなくなるかもしれないという「社会に見られる課題」を提示したことによる成果と考える。

(3) 実践上のポイント～児童相互の思考の「見える化」～

単元の終末において、これからの水産業の発展について考える前に、水産資源を守るためにはどのようなことを望んでいるかを、水産業者、販売者、研究者、消費者（自分）、海の環境という立場から考える学習を設定した。個人で考え、その次に全体で話し合う形式で授業を進めたところ、考え込んでしまい、自分の意見をまとめられない児童が多かった。そこで、改善案として、付箋に書いた自分の考えをグループの台紙に貼っていく形式を取り入れた。その結果、友達との意見交換が進み、グループの話合いも充実した。また、自分の考えをノートにまとめられなかった児童には、キーワードでもよいから付箋へ書くように促すと、書くことができた。そして、グループの台紙に貼られたそれぞれの立場の考えを整理した上で学級全体の話し合いを行うと、水産資源を守るための取組の意味を理解する児童が増えたため、これは、児童相互の思考の「見える化」を図った成果であると考えられる。



それぞれの立場について考えた付箋の記述

1 小単元の目標

- グローバル化する世界と日本の役割について、外国の人々の生活の様子などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べてまとめ、日本の文化や習慣との違いを捉え、国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活は多様であること、スポーツや文化などを通して他国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解できるようにする。
- グローバル化する世界と日本の役割について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究し、学んだことを基にして、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重するために自分ができることを考えようとしている。

2 開発のポイント

(1) 社会に見られる課題について

本単元では、我が国とつながりの深い国の文化や生活について理解するとともに、グローバル化する社会の一員として、「あらゆる民族・人種・宗教の枠を越えて、お互いを尊重し合いながら共に生きていかなければならない」という自覚や態度を育てることを目指している。しかしながら、日本とは違う国々の習慣を理解するだけでは、本当に共生していくことは難しいという一面もある。そこで、社会に見られる課題を次のように設定した。

外国の文化や習慣を認めるまでには、時間がかかることもある。

まず、問題把握の場面では、観光の生活の様子について学級全体で調べ、「日本とつながりの深い国々はどのような生活をしていて、日本とどのような関わりがあるのだろう」という学習問題を見いだした上で、アメリカ、中国、サウジアラビア、ブラジルの中から選択し、追究するようにした。そうすることにより、外国の人々の生活の様子と日本の文化や習慣との違いを捉え、外国の人々の生活は多様であることを理解できるようにした。

問題解決の場面では、学習問題に対する自分の考えをまとめた後に社会に見られる課題を提示した。そうすることにより、児童は外国の習慣を知るだけでは共生は難しいという事実に触れ、それらを解決するために国際交流の役割について調べ、そして、グローバル化する社会をどのように生きていくことが大切なのかを選択・判断していくようにした。

(2) 社会の関わり方を選択・判断する姿の分析

我が国や諸外国の伝統や文化を尊重するために、社会への関わり方を選択・判断している姿として、以下の姿を設定した。

- ・ 違う国の文化や習慣を受け入れるのに時間はかかるかもしれないが、その国で人気のあるスポーツについて調べ、話題にするなどして積極的に関わっていきたい。
- ・ 日本との違いを認める、その国のマナーに反することはしないようにする。

3 小単元の指導計画 (全 10 時間)

社会に見られる課題

	ねらい (問い)	○学習活動 ・ 児童の反応	◎資料 *留意点
問題	日本と外国との関わりはどのようなものなのだろう。	○これまでの学習の中で、外国とどのような関わりがあったかを考える。 ・多くの食料や工業製品の原料を海外から輸入していた。	* 3~6年の社会科を振り返り、世界地図を活用して日本と外国の関わりをおさえる。 ◎外国の暮らしの様子 (写真)

把握・3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から政治の仕組みを学んでいた。 ○日本とつながりのある国について調べてみたいことを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎オリンピックの表彰式（映像） ◎訪日外国人客数グラフ ◎日本を訪れた理由（文書資料）
	<p>韓国の人々はどうの暮らしをしているのだろう。（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○韓国の暮らしの様子を調べる。 ・韓国の歌手が日本で活躍している。 ・日本と韓国の学校制度は似ているけれど、食事の習慣は違うこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> *学級全体で韓国の様子を調べる。 *韓国と日本は昔から深い関わりがあることを押さえる。 ◎君にもできる国際交流（韓国）
<p>日本とつながりの深い国々はどうの暮らしをしていて、日本とどのような関わりがあるのだろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対する予想を考える。 ・文化、貿易、観光、スポーツ等によるつながりがあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> *韓国と同様に、学校生活・文化や交流・産業・衣食住という視点から調べてくことを確認する。
問題追究・3時間	<p>日本とつながりの深い国の人たちは、どのような暮らしをしているのだろう。（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○諸外国の生活の様子について調べ、ワークシートにまとめる。 ・アメリカは他民族国家で多くの人種がいて、日本と違っていた。 ・中国の料理は、地方によって特徴があるが、日本でよく食べられている。 ○調べた内容を伝え合う。 ・サウジアラビアは、石油の産業が発展していて、多くの国に輸出している。 ・どの国も、日本とのつながり方の特徴が違う。 ・日本とは、生活の仕方や様式が違っていて、各国の習慣に関係している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各自の集めた資料 ◎教科書・資料集・図書資料 *それぞれ調べた進捗情報は、タブレット端末に記入するようにさせる。 *日本には、外国の品物や文化が取り入れられていることを押さえる。 ◎ワークシート *諸外国には、日本と異なる文化や習慣があり、日本との関わり方も各国によって違うことを押さえる。 *交流した内容は、ピラミッドストラクチャーを活用してまとめていく。
問題解決・4時間	<p>世界の人々と共に生きていくためには、どのようなことが大切なのだろう。（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ・日本と関係の深い国々は、国によって違う文化や習慣があり、人々は、それらに合わせた生活をしている。 ○文化や習慣の違う人々と生活する際に大切だと思うことを話し合う。 ・お互いの文化や習慣の違いを尊重していくことが大切だ。 ・相手の国を尊重することができる方法は、あるのだろうか。 ○外国の習慣を尊重することは、どのようなことなのかを考える。 ・イスラム教の教えに、ハラールというものがある。 ・豚肉もアルコールも飲食はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> *日本の生活と外国の生活の関連について捉えさせる。 ◎外国に住む日本人の推移（グラフ） ◎訪日外国人客数の推移（グラフ） ◎ハラールについて（自作） ◎日本で生活する上での難しさ（自作） *宗教によって、異なる考え方があることを押さえる。
	<p>国際交流にはどのような役割があるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツを通じた国際交流について調べる。 ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、一人で何かを行動するのは難しいけれど、友達と協力して観戦しに来た外国人に日本のよさを伝えたい。
	<p>私たちはどのようなことができるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を基にして、外国の人々と共生していくためにできることを考え、発表する。 ・<u>違う国の文化や習慣を受け入れるのに時間はかかるかもしれないが、その国で人気のあるスポーツについて調べ、話題にするなどして積極的に関わっていきたい。</u> ・<u>日本との違いを認め、その国の習慣に反することはしないようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> *相手の国の文化や習慣を認めるには、積極的に関わるとともに、自分たちとの違いを認めることも大切であることを押さえる。

4 考察

(1) 「社会に見られる課題」を提示したとき（第8時）の児童の反応

◇ 日本と外国の文化や習慣が違うということを知識として分かっている、その違いを認め合いながら生活していくということには、思っていた以上に難しさがある。それを解決する方法は、どのようなものがあるのだろうか。

◇ 自分たちが、外国に行った時も、その国の習慣に合わせて生活をしていくという気持ちをもつことが必要なかもしれない。それが、相手の国を尊重するということなのかもしれない。

⇒ 第7時にイスラム教の「ハラール」という習慣の事例を取り上げたことにより、「異なる習慣がある」ということを調べる段階で理解していても、その習慣を尊重しながら共に生活をしていくことは難しいということの理解につながったと考える。そして、共に生きることの意味や課題を解決する方法を児童が意識することにつながったと考える。

(2) 学習の終末で見られた児童の反応

① 「社会に見られる課題」について認識を深めた児童の反応

◇ 外国の人が、日本で行っていないことを習慣にしている場合には、その習慣を受け入れるために、私たち日本人の受け入れる準備が不十分なことが多い。まだ、子供の私には、解決するために一人で行動することはできない。しかし、学んだことを大人に伝えたり友達と協力したりして、絵や図を活用してパンフレットなどを作成することはできるかもしれない。分からないことを、そのままにしないで教えてあげることが、相手の国を尊重しながら共に生きていくことだということが分かった。

⇒ 児童の反応からは、文化や習慣の違いは理解しているが、それを越えて共に生きようとするには、互いの文化等を尊重し受け入れていくことの大切さと難しさを感じていると読み取ることができる。これは、第8時に「社会に見られる課題」を新たに提示したことにより、実際の生活の中で日本とは異なる文化や習慣を受け入れることのメリットとデメリットの両面について、切実感をもって考え始めた児童の姿であると考えられる。

② 「選択・判断」で見られた児童の反応

◇ 2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される上で、日本のよさを世界の人々に伝えられるようになりたい。日本を知ってもらい、そのよさを多くの外国の人々に伝えることで、日本という国を理解してくれる人が増える。そのために、日本の歴史や伝統、文化を更に学んで行くことが自分にできることだと考える。

⇒ これまでの学習を基にして、外国の人々との共生を目指した国際交流をしていくためにできることを話し合った際の反応である。スポーツによる国際交流の代表として、人種や民族などを越えて集いながら、「平和」を合言葉にオリンピック・パラリンピック競技大会が行われている。3年後には海外から多くの人々が日本を訪れるため、共に過ごす機会に向けて、自分は何ができるのかを真剣に選択・判断した姿であると考えられる。

(3) 実践上のポイント～課題別学習による学び合い～

第3時から課題別学習を取り入れ、日本とつながりの深い国（中国・アメリカ・サウジアラビア・ブラジル）から一つを選び、調べる視点は第1時で韓国を調べた際の視点（学校生活・文化や交流・産業・衣食住）とし、必要な情報を個人が追究していくようにした。そして第5時には、同じ国について調べたグループの中や、違う国を調べた友達との情報交換の時間を設定し、それぞれ調べたことをピラミッドストラクチャーの形式を活用して話し合いをまとめた。これらの活動によって、対話的な学びが深まるとともに、児童が自分の考えを図で整理して考えることができるようになった。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 「社会に見られる課題」と「社会への関わり方を選択・判断する姿」の分析
- 「社会に見られる課題」とは何か、「社会への関わり方を選択・判断する姿」とはどのような児童の姿なのかを分析しながら教材を開発し、指導計画の作成に取り組んだ。その結果、社会的事象と自分たちの生活や産業等のつながりに関心をもち、これからどのような社会になってほしいかということや、自分たちは社会の一員としてどのように行動できるかということを見習い一人一人が選択・判断する学習を展開することができた。
 - 「社会に見られる課題」及び「社会への関わり方を選択・判断する児童の姿」を一覧表に整理したことは、教師が児童の反応を予想しながら、教材開発や資料提示の工夫をすることにつながった。
- (2) 指導例の開発
- 「指導例」の開発を通して、「社会に見られる課題」を指導計画のどこに位置付けると効果的か、児童の反応を基に検証することができた。
 - 「社会に見られる課題」を問題把握の場面で提示して実践を行った結果、毎時の振り返りに今までの児童の反応より一歩踏み込んだ反応が出てくるが多かった。児童一人一人が「社会に見られる課題」と向き合いながら考える場面で表出するのではないかと考察する。
 - 「社会に見られる課題」を問題把握の場面で提示し、問題解決の場面で再度提示したことは、児童がより切実感をもって、自分は何ができるのかを選択・判断することにつながった。
 - 「社会に見られる課題」を問題解決の場面で提示する場合、その場面のみでの提示であると「社会に見られる課題」への感想のみになり、これまで学習してきたこととうまく結び付けられないことがあることが分かった。学習問題に対する自分の考えをまとめた後の「新たな問い」となるよう、指導計画や指導方法を工夫する必要がある。

2 研究の課題

- 一覧に整理した全ての内容について検証ができていないため、他の単元の実践を通して、本研究の内容を考察していく必要がある。
- 指導計画のどこで「社会に見られる課題」を提示すると有効であるかということについては、更なる検証を進めていきたい。
- 「社会に見られる課題」を設定する際には、発達段階に応じた教師の教材分析も重要であり、学習指導要領の内容との整合性を十分に吟味した上で指導に当たる必要がある。

小学校算数開発委員会

目次

I	主題設定の理由	42
II	研究の方法	43
III	算数科の授業における導入とまとめ・振り返りの教師の意識	43
IV	授業モデルの開発	45
V	授業モデル	46
VI	検証授業	52
VII	成果と課題	60

〈小学校算数開発委員会〉

研究主題 数学的に考える資質・能力の育成を目指して～導入とまとめ・振り返りの指導の改善～

I 研究主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、算数科の目標では冒頭に「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」ことが示され、育成すべき資質・能力の三つの柱に合わせて、(1)では「知識及び技能」に関する目標、(2)では「思考力、判断力、表現力等」に関する目標、(3)では「学びに向かう力、人間性等」に関する目標に整理された。内容に関しては、育成を目指す「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」がより明確化された。

また、問題の解決に向けて「既習の内容を基に見通しをもち、その解決に取り組み、解決過程を振り返ってよりよいものにする」ことや、「数学的な表現を用いて説明したり話し合ったりして、さらに考えを高めていく」など、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりが求められている。

これまで日々の算数科の授業において、児童が既習の内容を基に見通しをもち、問題解決に取り組み、その解決過程を説明したり話し合ったりする問題解決的な授業が展開されてきた。しかし、一方で次のような現状が見られる。

- 授業の「まとめ」の評価においては、知識及び技能の観点に重点が置かれている。
授業において、児童が既習内容を基に課題解決に取り組み、その解決過程や考え方を発表し合い全体で検討を行うが、終末で解決の手順を教師主導でまとめてしまう実態が見られる。解決のための思考力、判断力、表現力等より解決の手順などの知識及び技能の観点に重点が置かれている。
- 児童の振り返りの内容が次時の学習へとつながっていない。
児童が1単位時間の学びの中で、後の学習に生かせる数学的な見方・考え方のよさを実感したり、新たな問いを見いだしたりする。児童が見いだした問いを次時の課題とすることで、更なる問いが生まれ、児童は主体的に解決に取り組むことができる。しかし、1単位時間の中で授業が完結し、児童の振り返りが次時の学習に生かされていない。
- 授業の導入での問題が児童にとって受け身であり、児童自身の問いになっていない。
授業の導入で教師が提示した問題場面や課題を児童と教師、または児童同士が対話していく中で問題が焦点化し、児童自らが主体的に解決を凶りたいと思うような児童自身の問いとなっていくべきである。しかし、導入時に教師が「問い」まで提示してしまうため、児童が主体的に考えたいと思う課題になっていない。

そこで、「数学的に考える資質・能力」の育成のために、次のような授業づくりが必要だと考えた。

- 授業の終末に、知識及び技能の観点に重点を置いた内容のまとめとともに、問題の解決に向けて学び合った思考の過程を振り返らせ思考力、判断力、表現力等に関わる内容のまとめも行っていく。
- 1単位時間の学びを振り返らせ新たな問いを発展的に考えられる態度を育て、次時の導入場面へと問いをつなげていく。
- 教師が提示した問題場面を児童と教師、児童同士が対話を通して問題を焦点化していく。

このような授業づくりを目指すために、本研究では授業における導入とまとめ・振り返りの指導の改善が重要であると考え、研究主題を「数学的に考える資質・能力の育成を目指して～導入とまとめ・振り返りの指導の改善～」とした。

Ⅱ 研究の方法

1 基礎研究

先行研究や教材研究を基に教材の本質を捉え直し、単元を通した児童が働かせる「数学的な見方・考え方」、児童に身に付けさせたい「数学的に考える資質・能力」を明確にする。

2 数学的に考える資質・能力を育成するための授業モデルの作成

「数学的に考える資質・能力」を育成するために、前時のまとめを意識した導入の工夫や思考過程の振り返り、思考力・判断力・表現力等に関わる内容のまとめについて検討し、授業モデルを作成し提示する。

3 授業研究

児童が働かせる「数学的な見方・考え方」、児童に身に付けさせたい「数学的な資質・能力」を明確にし、導入、終末での児童の姿を具体化した上で授業を行う。また、前時の振り返りと本時の導入、本時のまとめと次時の導入の関連について検証を行う。

Ⅲ 算数科の授業における導入とまとめ・振り返りの教師の意識

算数科指導の現状について、都内 184 名の教員を対象に次のような意識調査を行った。

設問 1 どのようにして児童に「本時の課題（問題）」を把握させていますか

教科書の課題（問題）を提示する	前時の反応や感想から提示する	児童とのやり取りの中から作る
48%	27%	25%

設問 2 「授業のまとめ」とする言葉にはどのようなものが多いですか

知識・技能に関するもの	思考力・表現力・判断力に関するもの	両方
50%	20%	30%

設問 3 振り返りをさせるうえで大切にしていることは何ですか

学習のポイント	学習内容	次に考えたいこと
36%	49%	15%

設問 1 では、本時の課題（問題）が児童にとって「与えられたもの」であることが多く、主体的な問題解決にとって望ましいとは言えない状況である。そのため、児童自身が「本時の問題を作り出した。自分たちで設定した。」と実感できる導入時の改善が必要である。

設問 2 より、約半数の教員が授業の終末時において「知識及び技能」に関わる内容をまとめとして扱っていることが分かる。「数学的に考える資質・能力」を育成するためには、問題解決活動の中で「思考力、判断力、表現力等」に関わる内容も児童に意識付けし、「知識及び技能」と合わせてまとめとしていく指導の改善が必要である。

設問 3 では、学習の振り返りを行う段階において学習のポイントや学習内容が重視されており、その時間内で学習が完結してしまっている状況が明らかとなった。授業の終末時に児童に次の「問い」を意識させ、次時の学習へ「問い」つなげていくために指導の改善が必要である。

〈研究構想図〉

平成 29 年度 研究開発委員会 共通研究主題

個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発

【算数の授業の現状】

- 知識及び技能の育成に重点が置かれたまどめに終始している。
- 本時のまとめや振り返りが、次時の学習につながっていない。
- 授業の導入場面での問題が、児童自身の問いになっていない。

【なぜ、このような現状になっているのか……】

- 身に付けさせたい力が知識及び技能に偏っている。児童にとっても指導者にとっても、見方・考え方や思考力・判断力・表現力等の系統性が分かりづらい。
- 本時が「知識及び技能のまとめ」で終わるため、児童が次時に考えたいくなる「更なる問い」が生まれにくい。
- 問題は教師が用意するものという認識が強く、児童は与えられた問題をいかに解くかに終始しがちである。
「児童主体の問いの連続性」が生まれず、導入とまとめが教師主導の授業となっている。

【研究仮説】

次のような授業づくりをすることで、「数学的に考える資質・能力」を育成することができるだろう。

- 本時のまとめを児童とともに進める際、思考力・判断力・表現力等に関わるまとめも重視する。
- 本時のまとめや振り返りから、児童自らが、新たな問題を発展的に考えられるような発問を工夫する。
- 児童自らが本時の問題を見いだしていくために、既習事項の内容や前時のまとめ・振り返りを踏まえた導入の仕方を工夫する。

小学校算数委員会 研究主題

数学的に考える資質・能力の育成を目指して

～ 導入とまとめ・振り返りの指導の改善 ～

【研究の方法と内容】

1 基礎研究

- ・ 先行研究や教材研究を基にした教材の本質の捉え直し
- ・ 育成すべき数学的な見方・考え方、資質・能力の明確化
- ・ 教師の導入時の手だて、児童自ら、問題解決を継続していく振り返り方の検討

2 調査研究

- ・ 「算数科の授業における導入やまとめの仕方」について、教師へアンケート調査を実施し実態を把握

3 検証授業(9月・10月・11月に実施)と指導資料の作成

- ・ 導入とまとめ・振り返りの指導改善のための授業モデルの開発
- ・ 本時(単元)で児童が働かせる「数学的な見方・考え方」、児童に身に付けさせたい「数学的に考える資質・能力」を明確にし、「導入場面」と「終末場面におけるまとめ」について検証
- ・ 各学年の「数と計算」、「図形」の2領域に焦点を当て、指導のポイントを明確化

IV 授業モデルの開発

1 導入場面での課題（問題）提示について

本時のねらいに即して、児童と教師、児童同士の対話を通して、児童自らが課題を見だし、焦点化させていく。

- ア 前時での児童による学習感想からの導入
- イ 前時における児童の発表や作品をもとにした導入
- ウ 既習の内容を関連・発展させた課題（問題）提示
- エ 日常生活と関連した課題（問題）提示
- オ 条件不足・条件過多による課題（問題）提示
- カ 単元のはじめに児童と共に単元全体の学習計画を立てる導入

→【例】長方形や正方形の求積公式から、未習の基本図形（「平行四辺形」「三角形」「台形」「ひし形」など）の面積を求めていく計画づくり。

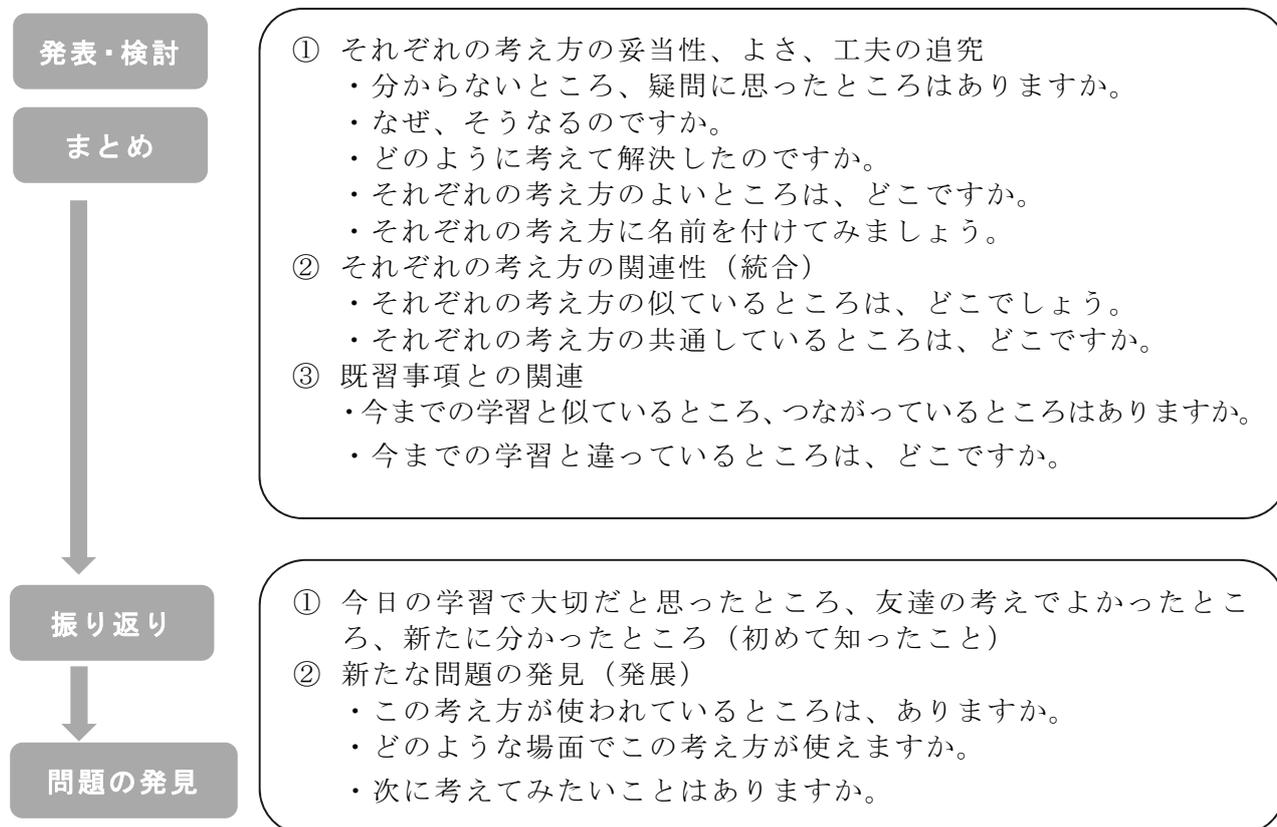
また、児童自らが課題解決後、課題に対して発展的に考えたり一般化を図ろうとしたりする態度を育てていく。

- 【例】
- ・別の方法で考えてみよう。
 - ・別の数値でも試してみよう。
 - ・いつでもできる考え方は、～だ。
 - ・よりよい考え方は、～だ。

2 本時でのまとめ・振り返りの仕方について

いくつかの場面や適用問題の解決後、問題解決の過程を振り返り、まとめをしていく。その際、思考力、判断力、表現力等に関わるまとめを重視する。

さらに、児童が自ら新たな問題を発展的に考えられるような発問を工夫し、振り返りをしていく。



V 授業モデル

1 第1学年

単元名 「ひきざん(2)」

単元の目標 (十何) - (一位数) の繰り下がりのある減法の計算の仕方を、十のまとまりに着目することで計算の仕方を考え理解し、計算が正しくできるようにするとともに、その計算の仕方をを用いることができるようにする。

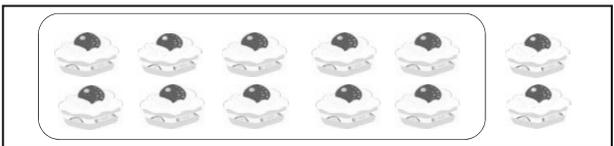
単元の指導計画 (12 時間扱い)

時	学習活動
1	減法が用いられる場面：求残場面 12-9 の計算の仕方を考える。
2	減数が8の場合の計算の仕方を考える。 減加法が使える場合の計算練習
3	減数が7の場合の計算の仕方を考える。 減数が7、6、5の場合の計算練習
4 本時	12-3 の計算の仕方を考える。 減減法が使える場合の計算練習 (本時)
5	14-6 の計算の仕方を考える。 いろいろな方法での繰り下がりのある減法
6	減法が用いられる場面：求差場面
7	問題作りをする。
8~11	計算カードを用いた減法の計算練習をする。
12	学習内容の理解

本時の指導 (4/12 時)

- (1) **目標** 減数を分解して計算する方法 (減減法) があることを知り、計算の仕方について理解を深める。
- (2) **指導のポイント**
 - ・本単元の第1時で、「12-9」を計算する際には、12を10と2に分けて、どちらから9を引くとよいかを考えさせブロック操作をしながら学習を進める。
 - ・本時までには、減数が9、8、7の場合の計算の仕方を扱い、「減加法」の考え方と計算の手順について学習する。
 - ・本時では、減数が3の場合を扱い、今までよりも減数が小さくなったことに着目させ、減減法に気付かせていくようにする。
 - ・実際に減減法の考え方を操作させ、本時の振り返りでは、既習の減加法との違いに気付かせていく。その上で、自分の考えやすい方法で減法に慣れていくことができるようする。
- (3) **展開例**

問 題



10個セットとばらの形での問題提示する。

おかしが12個あります。3個食べると残りは何個でしょうか。

どこから食べようかな。

10のたばから取ろうかな。

ばらから先に2個取ろうかな。

めあて 12-3の計算の仕方を考えよう 既習の考えと関連付ける。

見通し 今までの問題と違うところがありますか。 減数の大きさに着目させる。

今までは、13-9や14-8の問題だった。

12-3だから、今までより小さい数をひくんだな。 ノートに考え方を書かせる。

自力解決

10のまとまりから3をひいて7
7と2をたして9
○○○○○○○○○○ ○○
7 2

ばらの2を先に取ります。
10のまとまりから、あと1をひいて9
○○○○○○○○○○○○○○ ○○○
9

12-3 10-3=7
 / \
10 2 7+2=9

12-3 12-2=10
 / \
2 1 10-1=9

発表・検討 図と式を見て、それぞれの考え方を説明しましょう。 ブロック操作を行い、考え方の理解を図る。

それぞれの考え方をブロックで操作してみましょう。 よさや関連性を追求させる。

それぞれの考え方のよいところはどこでしょう。共通していることは何でしょう。

○どちらも、10のまとまりとばらにしてから計算しています。
○小さい数をひくので、ばらから2をひいて残りの1をひくと簡単に計算できます。
○ばらから2をひく考えは、ひく数をさくらんぼにしていることが分かりました。
○前は、「ひいてたすさくせん」だったけど、今日は、「ひくひくさくせん」でした。

まとめ 筋道を立てて考え方を説明する。
小さい数をひく「ひき算」は、
★ばらから先にひいて、残りを10のまとまりからひく考え方がある。(ひくひくさくせん)
また、10のまとまりから先にひく考え方があり。(ひいてたすさくせん)

確かめ 12-4 13-4を計算してみましょう。どちらのさくせんか説明しましょう。

振り返り (視点) 自分の考えをどのように説明しましたか。
友達の考えでよかったところはどこですか。
次に考えてみたいことは何ですか。 等 減加法、減減法の考え方を選取させていく。

問題の発見 ○ひく数が5や6くらいだったら、どちらのさくせんが便利だろうか。
○くり下がりのあるひき算がはやくできるようになりたい。

2 第4学年

単元名 「四角形を調べよう」

単元の目標 直線の位置関係や四角形についての観察や構成などの活動を通して、直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにする。

単元の指導計画 (16時間扱い)

時	学習活動
1～6	垂直と平行の関係やかき方について理解する。
7 本時	台形と平行四辺形の特徴を調べる。
8	平行四辺形の性質を調べる。
9・10	平行四辺形のかき方を知り、平行四辺形をかく。
11	ひし形の特徴、性質を調べ、かき方を知る。
12	平行四辺形の敷き詰めや四角形を探す活動を行う。
13・14	四角形と対角線の特徴を調べる。
15・16	学習内容の理解を確実にする。

本時の指導 (7/16時)

- (1) **目標** 四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の特徴を理解する。
- (2) **指導のポイント**
 - ・分かったことだけでなく、どのようなことに着目したのかを振り返らせるようにする。
 - ・問題場面の提示の際に使った図形を仲間分けし、新たな問いが生まれるようにする。
 - ・教師が黙ってカードを動かし、児童自身が問題場面を強く意識できるようにする。
- (3) **展開例**

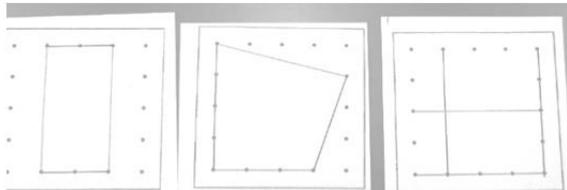
問 題

3枚のカードがあります。

教師が黙って貼り、動かすことで、児童に問題場面を強く意識させる。

カードを並べ替えている。

長方形と四角形に分けている。



何に着目して長方形と言っているのでしょうか。

直角が四つあるから長方形だ。

長方形を見つけるときは、直角(垂直)に注目したのですね。

もっと枚数を増やしてもできそうだ。

既習事項を確認し、見通しをもつときの助けとする。

めあて

仲間分けをして、その仕方を説明しよう。

見通し

垂直には注目したから、他に注目することはないですか。

自力解決

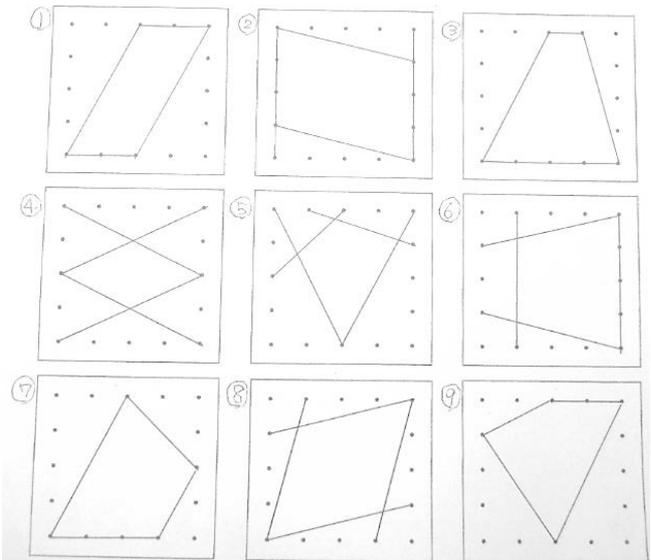
自分で視点を決め、仲間分けの仕方とその理由を説明しましょう。

発表・検討

考えを発表しましょう。

平行があるかないかで2種類に分けました。

平行が1組と2組、ないものの3種類に分けました。



まとめ

どのように考えて解決しましたか。

平行に着目して考えた。

平行の数までは考えていなかった。

向かい合った1組の直線が平行な四角形を台形、向かい合った2組の直線が平行な四角形を平行四辺形という。
★平行に着目すると新しい仲間分けができた。

振り返り

(視点) 友達の考えでよかったところはどこですか。
今までに学習した図形はどの仲間ですか。
次に考えてみたいことは何ですか。 等

児童の言葉から学び方に関するまとめにつなげる。

問題の発見

長方形は平行四辺形と仲間になりそうだ。

平行四辺形にはいろいろな形がある。

平行四辺形をもっとくわしく調べたい。

導入場面で提示した長方形は、どうなのを考えさせることで、新たな問いを見付ける助けとする。

3 第6学年

単元名 「円の面積」

単元の目標 既習の図形の面積の求め方に帰着させることを通して、円の面積について求め方を理解し、計算によって求めることができるようにする。

単元の指導計画 (5時間扱い)

時	学習活動
1	円のおよその面積の求め方を考え、見当を付ける。
2	円の面積を詳しく求める方法を考える。
3	円の面積の公式を作る。
4 本時	円を含む複合図形の面積の求め方を考える。
5	練習とまとめ

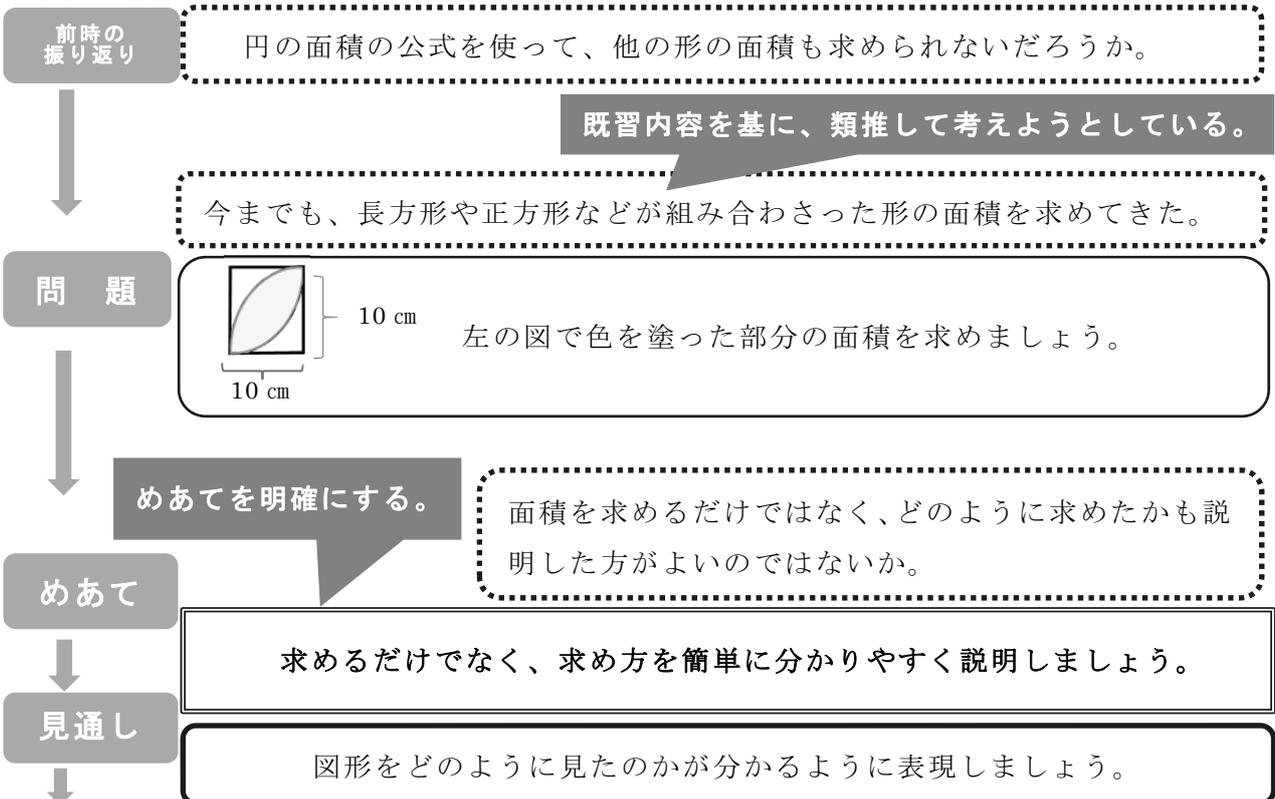
本時の指導 (4/5時)

(1) **目標** 円を含む複合図形の面積の求め方を考える。

(2) **指導のポイント**

- ・ 円の面積を求める公式を作ったことや今までの面積に関する学習を基にし、次に調べてみたいことを児童から見いださせるようにする。
- ・ 分かっていること（既習の図形の面積の求め方）を組み合わせ、円を含む複合図形の面積を求めていく。また、演繹的に考える過程を重視し、まとめでも強調していく。
- ・ 今までの学習とのつながりを振り返り、児童自身が系統性を意識できるようにする。
- ・ 本時の振り返りで、次時で調べたいことや身に付けたいことを考えさせるようにする。

(3) **展開例**



自力解決

自分の考えを友達に分かるように説明しましょう。
↓
一つの方法で考えたら、別の方法でも考えてみましょう。

発表・検討

同じ考え方で解決できる別の形はないか考えましょう。

反応例の提示の仕方を工夫する。

<p>○さん</p>  <p>この2つ分</p> $(10 \times 10 \times 3.14 \div 4 - 10 \times 10 \div 2) \times 2 = 57$	<p>△さん</p>  $10 \times 10 \times 3.14 \div 4 \times 2 - 10 \times 10 = 57$	<p>□さん</p> $100 - 78.5 = 21.5$ $21.5 \times 2 = 43$ $100 - 43 = 57$
---	--	---

○さんと△さんの図と式を見て、それぞれの考えを説明しましょう。

□さんの式を見て、考えを図に表し、説明しましょう。

友達の考えを読み取ることの活動を重視する。

それぞれの考えのよいところはどこでしょう。また、共通していることは何でしょう。

- どれも面積の求め方が分かる図形を組み合わせている。
- 式を丁寧に書くと、どのように図形を見たかが分かる。
- どれも計算で簡単に求めている。

よさや関連性を追究させる。

まとめ

どのような考えで解決できましたか。

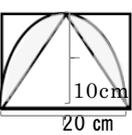
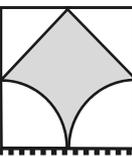
★分かっていることを基にして

円と他の図形を組み合わせると、この図形の面積も求めることができる。

確かめ

同じ考え方で面積を求められる図形はないでしょうか。

一例だけでなく、他の事例でも考える必要性を強調する。

 <p>この図形の色の部分も同じ式で求められる。</p>	 <p>この図形も同じ考え方で求められる。</p>
---	--

知識及び技能の適用だけでなく、思考力・判断力・表現力等についても問う問題を工夫する。

まとめ

他の図形についても考えてみたことから、どのようなことが言えますか。

★面積を求めたい図形が、どのような図形が組み合わせられてできているかを考えることが大切である。

振り返り

(視点) 自分の考えをどのように説明しましたか。
 今までの学習とどのようなつながりがありましたか。
 次に考えてみたいことは何ですか。 等

問題を児童自ら見いだすことを重視する。

問題の発見

もっといろいろな図形の面積を求めてみたい。

VI 検証授業

事例 1

1 単元名 第3学年「かけ算の筆算(1)」

2 単元の目標

- 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方を、九九などの基本的な計算を基に理解し、乗法の計算の仕方について知る。
- 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が確実にできる。
- 簡単な乗法の暗算ができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について、既習の基本的な計算を基にしてできるというよさに気付いている。
数学的な考え方	2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方を、既習の計算を基に図や式などを用いて考えている。
技能	2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が確実にできる。 簡単な乗法について、暗算で答えを求めることができる。
知識・理解	2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算の仕方について理解している。

4 単元の指導計画

時	学習活動
1	○ 2位数×1位数の計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。
2	○ 第1時で考えた「2位数×1位数の計算の仕方」と筆算を関係付ける。
3	○ 2位数×1位数で、十の位に繰り上がる計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。
4	○ 2位数×1位数で、百の位に繰り上がる計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。
5	○ 2位数×1位数で、途中の計算に0が出てくる計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。 ○ 用語「見つもり」を知る。
6 (本時)	○ 3位数×1位数の計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。
7	○ 3位数×1位数で、繰り上がりのある計算の仕方を既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。

8	○ 3 位数× 1 位数で、千の位に繰り上がる計算や空位がある計算の仕方を、既習事項を基に考え、話し合う。 ○ 考え方をまとめる。
9	○ 倍にかかわる問題について考える。
10	○ 買い物の問題場面から、暗算の必要感をもつ。 ○ 暗算の仕方を考える。
11・12	○ 学習内容の習熟・確認を図る。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 3 位数× 1 位数の計算の仕方を考える。
- ・ 3 位数× 1 位数の計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。

(2) 導入とまとめの工夫

ア 導入の工夫

- ・ 前時に児童が各自のノートに書いた振り返りを、本時の導入で共有し、本時の学習課題をみんなでつくる。

イ まとめ工夫

- ・ 学習課題に正対したまとめを、児童自身で書けるように、「3 桁× 1 桁の計算は、」という書き出しだけは指導者から提示する。
- ・ 児童が書いた板書に、指導者が「児童から出た大事なつぶやき、考え方」を強調して加筆することで、習熟の遅い児童でも自分の力でまとめができるようにする。

(3) 本時の展開

	児童の学習活動	指導上の留意点
課題設定	1 課題をつくる。	
	T 前の時間にみんなが書いたノートには、「次の時間に学習したいこと」として、こんなことが書いてありました。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> $3 \text{ 桁} \times 1 \text{ 桁}$ $4 \text{ 桁} \times 1 \text{ 桁}$ $5 \text{ 桁} \times 1 \text{ 桁}$ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> $2 \text{ 桁} \times 2 \text{ 桁}$ $3 \text{ 桁} \times 2 \text{ 桁}$ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カードで提示する。 ・ なぜその計算をしたいのかを問う。「前時より 1 桁増やしたらできそう」「今日の学習ができれば、さらに桁数を増やしても自分で計算の仕方を考えられそうだ」という、前時や次時以降のつながりを意識した発言を引き出す。
	T 今日はどんな学習をしますか。	
	C 「3 桁× 1 桁」か「2 桁× 2 桁」なら、桁数を 1 つ増やしただけだからできそうです。	
①	C 3 桁× 1 桁の計算ができれば、かけられる数が何桁になっても、1 桁をかける計算ができそうです。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題が設定できたら、数値は指導者から提示する。本時は、312×3 の計算を考えることとする。
	課題 3 桁の数× 1 桁の数の計算の仕方を考えよう。	

見 通 し	<p>2 見通しをもつ。</p> <p>T どんな考え方が使えそうですか。</p> <p>C 2桁の数×1桁の数の計算では、2桁の数を何十といくつに分けて考えました。</p> <p>C 筆算の勉強もしました。</p> <p>C 九九を知っていれば、2桁の数×1桁の数の計算もできました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返らせる。 																																					
自 力 解 決	<p>3 各自で学習課題の解決をめざす。</p> <p>C 1 数カードで考える。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</td> <td></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3倍</td> <td style="text-align: center;">3倍</td> <td style="text-align: center;">3倍</td> <td style="text-align: right;">答え 936</td> </tr> </table> <p>C 2 かけられる数である312を、300と10と2に分けて考える。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">$300 \times 3 = 900$</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding-left: 10px;">$900 + 30 + 6 = 936$</td> <td rowspan="3" style="text-align: right; vertical-align: middle;">答え 936</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">$10 \times 3 = 30$</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">$2 \times 3 = 6$</td> </tr> </table> <p>C 3 かけられる数である312を、300と12に分けて考える。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">$300 \times 3 = 900$</td> <td rowspan="2" style="font-size: 3em; padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="padding-left: 10px;">$900 + 36 = 936$</td> <td rowspan="2" style="text-align: right; vertical-align: middle;">答え 936</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">$12 \times 3 = 36$</td> </tr> </table> <p>C 4 筆算で計算する。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="text-align: right;">312</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">× 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">936</td> <td style="text-align: right;">答え 936</td> </tr> </table>	100	10	1		100		1		100				↓	↓	↓		3倍	3倍	3倍	答え 936	$300 \times 3 = 900$	}	$900 + 30 + 6 = 936$	答え 936	$10 \times 3 = 30$	$2 \times 3 = 6$	$300 \times 3 = 900$	}	$900 + 36 = 936$	答え 936	$12 \times 3 = 36$	312		× 3		936	答え 936	<ul style="list-style-type: none"> ・ C 1 ……数カードを使うと、答えは分かるので、どんな操作をしたら答えが分かったのかを考えさせる。 ・ C 2 ……「かけられる数を100のまとまり、10のまとまり、1のまとまり（ばら）に分ける」と表現するところまで求めたい。 ・ C 3 ……「12×3の計算はもう学習しているから、かけられる数を300と12に分けた」と表現するところまで求めたい。 ・ C 4 ……既習の2位数×1位数の筆算から類推して考える児童もいるだろう。筆算のしくみを、あらためて式や言葉で説明させる。 ・ 早く終えた児童は、別の方法で考えたり、別の数値にして自分の考えが通用するのか試したりする。
100	10	1																																					
100		1																																					
100																																							
↓	↓	↓																																					
3倍	3倍	3倍	答え 936																																				
$300 \times 3 = 900$	}	$900 + 30 + 6 = 936$	答え 936																																				
$10 \times 3 = 30$																																							
$2 \times 3 = 6$																																							
$300 \times 3 = 900$	}	$900 + 36 = 936$	答え 936																																				
$12 \times 3 = 36$																																							
312																																							
× 3																																							
936	答え 936																																						
発 表 ・ 検 討 ①	<p>4 筆算以外の考え方を学び合う。</p> <p>T それぞれの考え方のよいところ、同じところはどこでしょうか。</p> <p>C C 1さんとC 2さんは、100のまとまり、10のまとまり、1のまとまり（ばら）で考えています。2桁×1桁の計算の時も、同じような考え方をしました。</p> <p>C C 3さんはC 2さんのように、かけられる数を分けた。でも、C 2さんとちがって、2つの数に分けただけで計算できました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「2桁×1桁の学習の時に使った考え方」であることを、児童の発言から引き出す。 ・児童の板書に、教師が大事なことを加筆して強調しておくことで、後に児童自身でまとめを書く時の助けとする。 																																					

学習課題② 発表・検討②	5 筆算をとりあげる。 T どうしてこのように計算できるのか、説明できますか。	$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$
	新たな課題 3桁の数×1桁の数の計算でも、筆算ができるのか。	
確かめの問題・まとめ・振り返り	6 確かめの問題に取り組む。 (423×2) 7 学習したことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 3桁×1桁の計算は、★2桁×1桁の計算と同じように、 ○100のまとまり、10のまとまり、ばらを基に計算できる。 ○位に分けて九九を使って答えを求めること(筆算)ができる。 </div> 8 振り返りをする。 C 2桁×1桁の計算の時のように、今日もかけられる数を100、10、ばらのまとまりに分けたら計算できました。 C かけられる数の桁数が増えても計算できそうなので、4桁×1桁の計算に挑戦してみたいです。	・3桁×1桁の筆算のしくみも、2桁×1桁の筆算と同じであることを、児童の発言から引き出す。 ・学習課題に正対したまとめを、児童自身で書けるように、「3桁×1桁の計算は、」という書き出しだけは教師から提示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <振り返りの視点> ・自分の考えをどのように説明したか。 ・友達の手でよかったところ ・次に考えてみたいこと </div>	

(4) 板書計画

課題① 3桁の数×1桁の数の計算の仕方を考えよう。

課題② 3桁の数×1桁の数の計算でも、筆算ができるのか。

100	10	1	}	900+30+6=936
100	10	1		
100				
↓ ↓ ↓				
3倍 3倍 3倍				答え 936

100が(3×3)こ分 → 900
 10が(1×3)こ分 → 30
 1が(2×3)こ分 → 6

312	$2 \times 3 = \underline{6}$
$\times 3$	$10 \times 3 = \underline{30}$ の 3
936	$300 \times 3 = \underline{900}$ の 9

まとめ
 3桁×1桁の計算は、2桁×1桁の計算と同じように、
 ○100のまとまり、10のまとまり、ばらをもとに計算できる。
 ○位に分けて九九を使って答えを求めること(筆算)ができる。

事例 2

1 単元名 第5学年「四角形と三角形の面積」

2 単元の目標

○平行四辺形、三角形、台形、ひし形、などの面積について、公式をつくり出してそれらの面積を、計算で求めることができるようにする。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積について、既習の面積の求め方に帰着させて考え、計算で求めようとする。
数学的な考え方	既習の面積の求め方を基に、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を工夫して考え、公式をつくりだすことができる。
技能	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を公式を用いて求めることができる。
知識・理解	平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの計算による面積の求め方を理解する。

4 単元の指導計画

時	学習活動
1	<p>○ 児童と単元計画を立てる。</p> <p>① 図形についての既習を振り返る。 図形の構成要素について定義や性質に着目し既習を振り返る。一般的な「四角形」に、1組平行という条件を加えると「台形」、2組平行という条件を加えると「平行四辺形」となり、四つの角が直角という条件を満たすものが「長方形」など、未習の平行四辺形と既習の長方形の違いは直角にあることに気付かせる。</p> <p>② 面積についての既習を振り返る。 長方形や正方形の面積の求め方を通して、面積の意味を理解し、公式化し、計算で面積を求めることを学習してきた。そのような既習を想起させながら、児童とともに単元計画を立てていく。</p> <p>③ 面積についての未習を確認する。 未習の図形と既習の図形を整理し、分類する。構成要素に着目し、定義や性質を比較し、学習の順番を考えていく。既習の長方形から、条件をゆるくした基本の四角形の順に計画を立てる。また、三角形は、全ての図形に分割して求積できるなどの強みもある。既習を生かす観点から、長方形→平行四辺形→三角形→台形→ひし形という単元計画を作成し、児童が前時の考えを生かし主体的に学習できるようにする。</p>
2 (本時)・3	○平行四辺形の面積の公式を作り出し、面積を求める。
4・5・6	○三角形の面積の求め方を考え、公式を作り出し、面積を求める。
7・8	○台形の面積の求め方を考え、公式を作り出し、面積を求める。
9	○ひし形の面積の求め方を考え、公式を作り出し、面積を求める。
10	○三角形の面積と高さは比例の関係にあることを理解する。(底辺一定)
11	○算数的活動を通して学習内容への興味を広げる。
12・13・14	○学習内容の習熟・確認を図る。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 三角形の面積の求め方を長方形や平行四辺形の求積方法に帰着して考え、筋道立てて説明することができる。

(2) 導入とまとめの工夫

ア 導入の工夫

(ア) 児童が学習の計画を立てる。既習と未習を整理することで、これから学ぶ内容を児童が主体的に検討し、単元計画を立てる。いろいろな図形を提示し、図形の構成要素（頂点・辺・角）に着目し、図形の定義を確認する。条件が似ている図形から求積方法を考えていくなど、学習の見通しをもち、面積において新たな課題となる四角形と三角形の面積の求め方について興味・関心を高めるようにする。

(イ) 前時の振り返りを基に、本時の課題を設定する。平行四辺形の求積方法が分かり、いろいろな平行四辺形でその方法でよいのか検証し、公式にまとめていく。

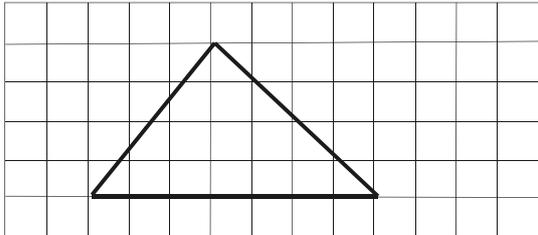
イ まとめ工夫

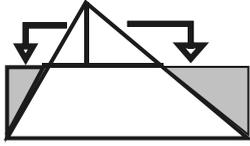
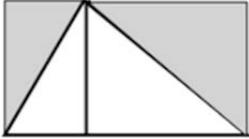
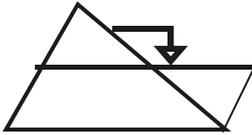
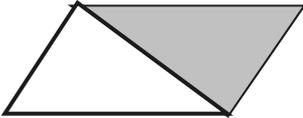
(ア) 本時の問題を解決してきた流れを振り返り、平行四辺形の面積の求め方と比較し、共通した考え方を探っていく。等積変形や倍積変形をすることで、面積の求め方を知っている図形に変形させ、解決できることを確認する。数学的な見方・考え方のまとめを設定する。

(イ) 振り返りでは、今日の問題解決を振り返らせ、次時にどのような学習をする必要があるのか、考えさせる。他の図形で検証する必要があることやより簡単に求積する方法を考えることなど、次時への見通しをもたせる。

(ウ) 適用問題を設定する。本時では、新たに倍積変形の考え方を扱う。この考え方で三角形の面積を求める適用問題を解決し、台形の求積方法へつなげていく。新たに獲得した考え方を活用することで、自分の既習や既有経験として身に付けさせていく。

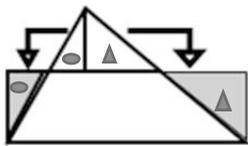
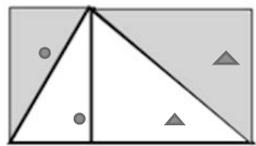
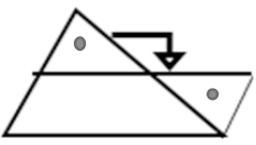
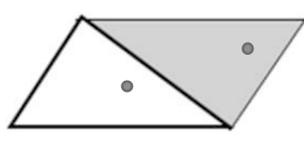
(3) 本時の展開

	児童の学習活動	指導上の留意点
課題確認	<p>1 単元計画を振り返り課題を確認する。</p> <p>T 今日はどんな学習をするのかな。</p> <p>C いろいろな平行四辺形でためしたから、次は三角形だな。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元計画を振り返らせる。 ・ 未習の図形を想起し、学習の見通しをもたせる。 ・ 構成要素に着目させる。 ・ 児童の言葉で課題を考えさせる。
	<p>課題 三角形の面積の求め方を考え、説明しよう。</p>	

見 通 し	<p>2 既習を振り返り、見直しをもつ。</p> <p>T 平行四辺形の面積を求めたときのことを振り返りましょう。</p> <p>C 公式を知っている図形に変えました。</p> <p>C 長方形に見立てました。(目的)</p> <p>C そのために切って移動させました。(操作)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の図形を基にして考えることを確認する。 目的と操作の二つの観点で整理する。 平行四辺形の求積方法に帰着し、三角形の面積の求め方に見直しをもたせる。
自 力 解 決	<p>3 自力解決する。</p> <p>T 三角形の面積を求めましょう。できた人は分かりやすく説明しましょう。</p> <p>C 1 長方形にする (等積変形) $(4 \div 2) \times 7 = 14$</p>  <p>C 2 長方形にする (倍積変形) $4 \times 7 \div 2 = 14$</p>  <p>C 3 平行四辺形にする (等積変形) $7 \times (4 \div 2) = 14$</p>  <p>C 4 平行四辺形にする (倍積変形) $7 \times 4 \div 2 = 14$</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに書くことを基本とし、図・言葉・式を関連付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の考え</p> <p>①作戦名</p> <p>②図</p> <p>③式</p> <p>④説明</p> </div> <p><ヒントカード> 解決の見通しが立たない児童には、平行四辺形のときの学習をヒントに考えさせる。</p> <p><指示カード> ヒントカードでも見通しがもてない場合には、合同な三角形を2枚提示し、考えさせる。</p>
発 表 ・ 検 討	<p>4 発表・検討し、考え方を整理する。</p> <p>T 発表の時間になります。聞く人は、自分の考えと比べながら、友達の発表を聞きましょう。</p> <p>C 1、C 2、C 3、C 4の順で発表する。</p> <p>T それぞれの考え方のよいところはどこでしょうか。また、共通しているところは、何でしょうか。</p> <p>C 面積の公式を習った図形に変えました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変形した図形ごとに等積→倍積の順に発表させる。 図から式を、式から図を読む活動を取り入れ、友達の考えを読み取らせる。 よさや関連性を追究させる。 目的と操作を分けて、整理させる。

	<p>C 長方形と平行四辺形があります。</p> <p>C 面積がそのままの方法と2倍にしている方法があります。</p> <p>C 「$\div 2$」があります。高さを$\div 2$、面積を$\div 2$では、意味が違います。</p>	
ま と め ・ 振 り 返 り	<p>5 数学的な見方・考え方をまとめる。</p> <p>T 今日の問題は、どのようにして解決しましたか。</p> <p>C 答えは 14 cm^2 です。</p> <p>C 面積を求められる図形に変えました。</p> <p>C 長方形と平行四辺形が使えます。</p> <p>C そのために、切って移動作戦や2倍作戦が役に立ちました。</p> <p>C 2倍作戦は、新しい考え方です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の問題解決を振り返り、児童から分かったことや大切だったことを挙げていく。 ・ 今日とはどのような既習の思考を生かしたのか、新たな思考は何だったのか、確認する。
	<p>★面積を求められる図形に変える（長方形・平行四辺形）。そのために、面積は変えないで切って移動したり、面積を2倍にして$\div 2$をしたりする。</p>	
	<p>6 振り返りをし、次時の問題を発見する。</p> <p>T 次はどんな課題に取り組みますか。</p> <p>C 他の三角形でもやってみないと合っているのか分かりません。</p> <p>C もっと簡単にできる方法がいいから、どんな時にも使える公式を見付けたいです。</p> <p>C 台形、ひし形です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しをもたせる。 ・ 個々の問題解決を振り返らせる。

(4) 板書計画

<p>問題</p>  <p>三角形の定義 三角形の性質</p>	<p>課題</p> <p>三角形の面積の求め方を考えよう</p>	<p>まとめ</p> <p>習った図形に変える 長方形・平行四辺形</p> <p>↓</p> <p><方法> 切って移動 2倍にする</p>
	 <p>切る→移動→長方形</p>	 <p>合同2倍→長方形→$\div 2$</p>
	 <p>切る→移動→平行四辺形</p>	 <p>合同2倍→平行四辺形→$\div 2$</p>
		<p>振り返り</p> <p>①大切なこと ②次の学び</p>

Ⅶ 成果（○）と課題（●）

1 導入場面での課題（問題）提示について

- 導入場面で児童自らが課題を見だし、焦点化できるような工夫を整理、類型化することで、児童が主体的に解決を図りたいと思える授業展開にすることができた。
- 単元の初めに児童と共に単元全体の学習計画を立てることで、児童自身が前時とのつながりを意識したり、先の見通しをもったりして学習に取り組むことができた。
- 本時のねらいに即した工夫になるように考えなくてはならない。

2 本時でのまとめ・振り返りの仕方について

- まとめをする際の発問を整理、類型化することで、児童からまとめの言葉を引き出す授業展開にすることができた。
- 知識及び技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等に関わる事柄も重視してまとめることで、既習事項を生かして主体的に問題解決をする児童が増えた。
- 振り返りの際に、新たな問いを発展的に考えられる視点を与えることで、問いの連続性が生まれる学習スタイルが身に付いてきた。
- 児童がまとめをするために、本時での問題解決の過程が明確になるような構造的な板書が必要である。そのために、学び合いの内容をしっかりと板書に残し、共有し、価値付けることが重要になってくる。

「数と計算」「図形」の2領域に焦点を当て、上記1、2の指導の工夫を行ったことで、児童の思考力・判断力・表現力等が高まり数学的に考える資質・能力の育成につなげることができた。さらに他の領域でも実践事例を増やし、導入とまとめ・振り返りの指導の在り方を検証していく必要がある。

小学校理科研究開発委員会

目 次

I	研究の目的	62
II	研究の方法	64
III	研究構想図	65
IV	研究の内容	66
	1 質的な視点について	66
	2 実体的な視点について	67
V	検証授業	68
	事例1 第3学年「物の重さ」	68
	事例2 第5学年「物の溶け方」	72
	事例3 第4学年「金属、水、空気と温度」	78
VI	研究のまとめ	80

〈小学校理科研究開発委員会〉

研究主題

「理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成するための指導の在り方」

研究の概要

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、育成する資質・能力が三つの柱に沿って整理された。また、見方・考え方については、資質・能力を育成する過程で児童が働かせる「物事を捉える視点や考え方」であること、更には教科等ごとの特徴があり、各教科等を学ぶ本質的な意義や中核をなすものとして全教科等を通して整理された。この改訂の趣旨を具現化するには、理科の見方・考え方を意識的に働かせられるように、児童の発言やノートの記述等を価値付けしながら資質・能力を更に伸ばしていく学習活動を取り入れることが重要になってくる。しかし、本研究の調査から見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する指導を行うことにとまどいを感じている教師が多いことが分かった。

そこで、本研究では、新学習指導要領の改訂の趣旨やねらいを理解し、理科の見方・考え方についての基礎研究を行い、理科の見方・考え方を働かせた児童の反応例とその変容について整理した。さらに、資質・能力を育むための指導法の工夫について考え、授業実践を行った。

その結果、各単元を学ぶ本質的な意義を踏まえ、「粒子」領域の各単元でどのような見方・考え方を働かせることが重要であるかをまとめることができた。また、見方・考え方を働かせた児童の具体的な姿、反応を踏まえることで、より児童の思考に沿った指導計画を教師が立案できることが明確になった。さらには、見方・考え方を児童に働かせることによって、資質・能力の育成につながることが分かった。

理科の見方・考え方は、発達の段階や知識の積み重ねにより、領域や学年に応じてより豊かなものになっていくと考える。今後は、「粒子」領域に加えて、他の領域についても研究を広げていく必要がある。

I 研究の目的

平成29年3月に新学習指導要領が告示され、理科の目標が以下のように示された。

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

この目標は、小学校理科においてどのような資質・能力の育成を目指しているのかを簡潔に示したものであり、育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理されている。

また、現行の学習指導要領では、「科学的な見方や考え方」を育成することを目標として位置付け、「科学的な見方や考え方」の中に資質・能力を包括して示してきた。しかし、今回の改訂では、見方・考え方は、資質・能力を育成する過程で児童が働かせる「物事を捉える視点や考え方」として整理され、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することが重要な目標として位置付けられた。

この改訂の趣旨を具現化するには、児童が既にもっている理科の見方・考え方を意識的に働かせられるように、児童の発言やノートの記述等を価値付けしながら資質・能力を更に伸ばしていく学習活動を取り入れることが重要になってくると考える。この学習活動を繰り返すことで、理科の見方・考え方が豊かで確かなものとなっていき、資質・能力の育成につながっていく。

そこで、児童が自然の事物・現象を捉えるための視点や考え方を示し、それを軸とした授業改善に取り組み、理科における資質・能力の育成を図ることがこれからの理科の授業においては必要になってくると考えた。

しかし、都内公立小学校の約100人の教師を対象にアンケート抽出を行った結果、新学習指導要領の理科の見方・考え方について理解していると捉えている教師は約3割程度であった。さらに、理科を専門とする教師の中でも、理科の見方・考え方を児童に働かせるために、どのような手だてや発問をしていけばよいのか、とまどいを感じている教師が約6割程度いることが分かった。

これらの点を踏まえ、新学習指導要領の改訂の趣旨を授業の中で具現化するには、次の三点を明確にしていく必要があると考える。

- (1) 学年が進むにつれて、理科の見方・考え方がどのように豊かになっていくか。
- (2) 小学校理科において、理科の見方・考え方が働いている児童の姿とはどのような姿なのか、どのような発言や記述等を価値付けていくか。
- (3) 理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成するために、どのような手だてを設定し、授業をしていくか。

そこで、研究主題を「理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成するための指導の在り方」と設定するとともに、次の仮説を立て、研究を進めていくこととした。

研究仮説

教材の解釈を通して、理科の見方・考え方がどのように豊かになっていくのかを明らかにし、児童が見方・考え方を働かせている姿を教師が価値付けていけば、資質・能力が育成される授業となるだろう。

Ⅱ 研究の方法

1 教材の解釈

次の二つの方法で、教材の解釈を行う。

- (1) 各単元を学ぶ本質的な意義や学年毎の系統性を踏まえて、「粒子」を柱とする領域の各単元でどのような見方・考え方を働かせることが重要であるかを整理する。
- (2) 児童が理科の見方・考え方を働かせて学習を進めた結果、最終的に目指す姿を整理し、学年が進むにつれて、児童の見方・考え方がどのように豊かで確かなものになっていくかについて明らかにする。

なお、理科の見方については、新学習指導要領解説（理科編）の中で、理科を構成する領域ごとに特徴が示されているので、教材の解釈の対象領域をしぼり、理科の見方・考え方の系統性を意識した研究を進めていくこととする。領域は、平成27年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果、理科を構成する領域の中で一番正答率が低く、児童に身に付けさせる資質・能力が求められている「粒子」を柱とする領域を対象とすることとした。

2 授業実践

理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する授業を目指し、第3学年の「物の重さ」、第4学年の「金属、水、空気と温度」での検証授業を通して、以下の三点に取り組む。

- (1) 「単元のどの場面でどのような理科の見方・考え方を働かせるか」や「理科の見方・考え方が働いた児童の反応例」を整理し、理科の見方・考え方を働かせる手だて（事象提示・教材等の工夫）を設定する。また、それらを基に、児童の思考に沿った指導計画を作成する。
- (2) 「理科の見方・考え方が働いた児童の反応例」に基づいて、授業の中で児童が見方・考え方を働かせている姿を教師が価値付けていく。
- (3) 検証授業後には、児童の発言やノートなどへの記述等から、理科の見方・考え方を働かせることで育成された資質・能力を評価する。

これらの結果を基に、第5学年「物の溶け方」の指導計画づくりを行い、質的、実体的な視点で捉える内容を対象とした指導の在り方について、整理する。

なお、第4学年では、主に実体的な視点に関する児童の実態を把握するために、単元「金属、水、空気と温度」において、発展的な学習を取り入れることとする。

Ⅲ 研究構想図

【理科の目標】（平成 29 年 3 月告示 小学校学習指導要領より）

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。
- (3) 自然を愛する心情や主体的に問題を解決しようとする態度を養う

【理科の見方】

- 量的・関係的な視点で捉えている（エネルギー）
- 質的・実体的な視点で捉えている（粒子）
- 多様性と共通性の視点で捉えている（生命）
- 時間的・空間的視点で捉えている（地球）

【理科の考え方】

- 比較する
- 関係付ける
- 条件を制御する
- 多面的に考える

研究主題

「理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成するための指導の在り方」

研究仮説

教材の解釈を通して、理科の見方・考え方がどのように豊かになっていくのかを明らかにし、児童が見方・考え方を働かせている姿を教師が価値付けていけば、資質・能力が育成される授業となるだろう。

研究の方法

1 教材の解釈

各単元で働かせる理科の見方・考え方を整理する。

理科の見方・考え方はどのように豊かになるのかを明らかにする。

2 授業実践

理科の見方・考え方を働かせるための手だてを設定する。

見方・考え方を働かせる指導の在り方の整理

授業で育成された資質・能力の評価をする。

理科の見方・考え方が働いた児童の価値付けをする。

理科で育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

IV 研究の内容

児童が理科の見方・考え方を働かせて学習を進めた結果、最終的に目指す児童の姿を整理した。以下に、粒子領域における主な見方である質的・実体的な視点について示す。また、「考え方」については比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなどといった、これまでの理科における問題解決の過程の中で培ってきたものを活用していくことができる。

1 質的な視点について

質的な視点について、視点①「物によって、性質は異なるのではないか」と、視点②「物は、温度変化や化学変化が伴うと性質も変化するのではないか」という二つの視点を中心に目指す児童の姿を整理した。

学年	学習内容	対象	対象の変化	質の捉え方	「質的な視点」で捉えている児童の姿	
					視点① 「物によって、性質は異なるのではないか」	視点② 「物は温度変化や化学変化が伴うと性質も変化するのではないか」
3	物と重さ ・体積と重さ	身の回りにある物	なし	密度	「物によって、重さが異なるのではないか」という視点で捉えている。	
4	空気と水の性質 ・空気の圧縮 ・水の圧縮	空気 水	なし	圧縮性	「物によって、押し縮められたときの様子が異なるのではないか」という視点で捉えている。	
	金属、水、空気と温度 ・温度と体積変化 ・温まり方の違い ・水の三態変化	金属 水 空気	温度	温度による体積変化 温度による温まり方 温度による状態変化	「物によって、温度が変化した時の性質の変化は異なるのではないか」という視点で捉えている。	「物は、温度が変化すると状態が変化するのではないか」という視点で捉えている。
5	物の溶け方 ・物が水に溶ける量の限度 ・物が水に溶ける量の変化 ・再結晶 ・蒸発乾固	水に溶ける固体	溶解	溶解度 再結晶 蒸発乾固 均一性	「物によって、水に溶ける量は異なるのではないか」という視点で捉えている。	
6	燃焼の仕組み ・燃焼の仕組み	空気	燃焼	燃焼による空気の組成の変化		「物は、化学変化すると性質が変化するのではないか」という視点で捉えている。
	水溶液の性質 ・酸性、中性、アルカリ性 ・気体が溶けている水溶液 ・金属を変化させる水溶液	水溶液 金属	化学変化	液性	「水に溶けている物によって、水溶液の性質は異なるのではないか」という視点で捉えている。	

2 実体的な視点について

実体的な視点について、視点①「物は存在しているのではないか」と、視点②「物は付け加えたり、取り除いたりしない限り、変化しても存在は変わらないのではないか」の二つの視点を中心に目指す児童の姿を整理した。

学年	学習内容	対象	対象の変化	実体の捉え方	「実体的な視点」で捉えている児童の姿	
					視点① 「物は存在しているのではないか」	視点② 「物は付け加えたり、取り除いたりしない限り、変化しても存在は変わらないのではないか」
3	物と重さ ・形と重さ	物全般	形	重さ	「存在する物は重さがあるのではないか」という視点で捉えている。	「物は形が変わっても、重さは変わらないのではないか」という視点で捉えている。
4	空気と水の性質 ・空気の存在	水 空気	温度 体積	手ごたえ 泡 重さ	「見えない状態で存在しているのではないか」(空気の存在)という視点で捉えている。	*「物は体積が変わっても、重さは変わらないのではないか」という視点で捉えている。
	金属、水、空気と温度 ・水の温度変化による体積変化の時の重さ	金属 水 空気		重さ		
5	物の溶け方 ・重さの保存 ・再結晶 ・蒸発乾固	水に溶ける 固体	溶解	重さ 再結晶 蒸発 乾固	「物(固体)は水に溶けて見えなくなっても、存在しているのではないか」(食塩、ミョウバンなどの存在)という視点で捉えている。	「物は水に溶けて見えなくなっても、重さは変わらないのではないか」という視点で捉えている。
6	水溶液の性質 ・金属を変化させる水溶液	金属	化学変化	蒸発 乾固	「物は化学反応しても、質を変えて存在しているのではないか」という視点で捉えている。	
	・気体が溶けている水溶液	気体		重さ 気体検 知管の 値		

*は、事例3「第4学年検証授業」における発展的な学習で働かせた視点

V 検証授業

事例1 第3学年

1 単元名「物と重さ」

2 単元の目標

物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

ア 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。

イ 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。

(2) 物の形や体積と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現すること。

3 本単元における評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①物の形や体積と重さの関係に興味・関心をもち、すすんで物の性質を調べようとしている。	①物の形や体積と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現している。 ②物の形を変えたときの重さや、物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらを予想したり、考察したりして、自分の考えを表現している。	①てんびんや自動上皿はかりを適切に使って、安全に実験を行い、正確に記録している。	①物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。 ②物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。

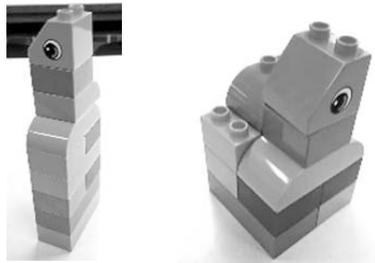
4 本単元で働かせる見方・考え方

本単元で示している次の二つの目標について、本研究で提案する質的・実体的な視点で捉える見方として整理を行い、単元の指導計画の中に位置付けた。

単元の目標(1)アについては、「物は形が変わっても、重さは変わらないのではないか」という実体的な視点②で捉える見方を、(1)イについては、「物によって、重さが異なるのではないか」という質的な視点①で捉える見方を働かせる。

また、考え方については、物の形や体積と重さとの関係について、複数の物の形や複数の同体積の物を比較することで、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現することが大切となる。第3学年という児童の発達の段階から2種類程度の物の重さを比較させることで共通点や差異点について気付くことができるようにする。

5 単元の指導計画（全6時間 本時は4時）

次時	<p>○主な学習活動</p> <p>C：予想される児童の反応</p> <p>C：【見方】・（考え方）が働いている児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ◆評価【評価方法】</p> <p>【見方】・（考え方）を働かせるための手だて</p>
第一次	<p>1</p> <p>○長い形と四角い形のブロックを手に取り、2つのブロックの同じところと違うところについて発表する。</p> <p>C：形が違います。（比較）</p> <p>C：重さは同じに感じます。【実体的①】</p> <p>C：重さは違うように感じます。（比較）</p> <p>○共通点と差異点を基に気付いたことや疑問を小集団で発表し合う。</p> <p>○小集団で出た意見を学級全体に発表する。</p> <p>C：長い形でも、四角い形でも重さは変わらないと思います。</p> <p>C：重さは形によって変わるのか、変わらないのか、調べてみないと分かりません。【実体的②】</p> <p>○考えをまとめて問題を見いだす。</p> <p>C：ブロックは形を変えると重さは変わるのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題 ブロックは形を変えると重さは変わるのだろうか。</p> </div>	<p>・日常生活から考えられそうな事象を提示し、身近なところから考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2種類の形の重さについて、ブロックを手に取って確かめる活動を通して、共通点と差異点に気付かせるようにする。</p> <p>【実体的①】</p>  <p>（比較）</p> </div> <p>◆関心・意欲・態度①【発言・記録分析】</p> <p>・小集団で自分の考えを伝え合うことで、他人の考えとの差異から、疑問を生み出し、問題を見いださせる。</p> <p>◆思考・表現①【発言・記録分析】</p>
	<p>2</p> <p>○予想を立て理由を発表する。</p> <p>C：形を変えると重さは変わると思います。なぜなら、手に取った時に長い形の方が重く感じました。</p> <p>C：形を変えても重さは変わらないと思います。形を変えてもブロックの量は変わらないからです。【実体的②】</p> <p>○検証計画を立てる。</p> <p>C：はかりを使って比べればよいと思います。</p> <p>○ブロックの形を変えて、はかりで重さを測り記録する。</p>	<p>◆思考・表現②【発言・記録分析】</p> <p>・算数科で学習したことから、はかりを使って調べることで、単位を揃えて重さを比べることを考えさせる。</p> <p>◆技能①【記録分析、行動観察】</p>
	<p>3</p> <p>○結果を発表する。</p> <p>C：長い形は100g、四角い形も100gでした。</p> <p>○結果から考察し、発表する。</p> <p>C：ブロックは形を変えても、重さは変わりません。【実体的②】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>結論 ブロックは形を変えても重さは変わらない。</p> </div>	<p>◆思考・表現②【発言分析、記録分析】</p> <p>◆知識①【発言・記録分析】</p>

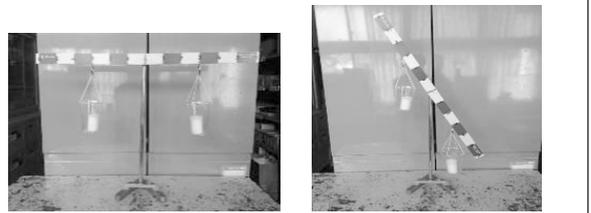
<p>第 二 次</p>	<p>4 本 時</p> <p>○同体積の食塩を載せて釣り合っている簡易天びんと、同体積の食塩と砂糖を載せて釣り合っていない簡易天びんを見て、気付いた点について話し合う。 C：片方の天びんは傾いているけど、もう片方の天びんは傾いていません。(比較) C：傾いている天びんは、どちらかの重さが違うと思います。【質的①】</p> <p>○傾いている天びんの二つの物を比較して、重さの違いについて考える。</p> <p>○考えを小グループで発表し合った後、学級全体で共有する。 C：重さが違う理由は、物が違うからだと思います。【質的①】</p> <p>○気が付いたことから問題を見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題 同じ体積でも物が変わると重さは変わるのだろうか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>食塩と砂糖であることは伝えずに天びんが傾いているものと傾いていないものを、比較させて重さに注目させる。(比較)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ量ずつ容器に入れていることを伝える。また、体積という用語の意味についておさえる。 ・食塩と砂糖を手にとって確かめることで諸感覚を使って重さを感じさせ、共通点と差異点に気付かせる。 <p>◆関心・意欲・態度①【発言・記録分析】</p> <p>◆思考・表現①【発言・記録分析】</p>
	<p>5</p> <p>○予想を立てて、理由を発表する。 C：物が変わると重さは変わると思いますが、天びんが傾いたのは食塩と砂糖のように異なる物が入っていたからだと思ったからです。【質的①】</p> <p>○検証計画を立てる。 C：カップに食塩と砂糖を同じ体積に入れて重さを比べます。 C：食塩も砂糖もカップいっぱいに入れて実験をするとよいと思います。</p> <p>○カップに摺り切り一杯に入れた食塩と砂糖の重さを測り、記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想から検証計画の場面で、食塩と砂糖の重さを比較するには同体積で比べなければならないことに気付かせる。 <p>◆思考・表現②【発言・記録分析】</p> <p>◆技能①【発言分析、行動観察】</p>
	<p>6</p> <p>○結果を発表する。 C：同じ体積にして食塩と砂糖の重さを測ると食塩が○○gで砂糖は□□gでした。</p> <p>○結果から考察し、発表する。 C：同じ体積の食塩と砂糖では、食塩の方が重いです。【質的①】</p> <p>○食塩と砂糖以外のものの重さを測る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>結論 同じ体積でも、物が変わると重さが変わる。</p> </div>	<p>◆思考・表現②【発言分析、記録分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な素材の重さを測り、知識を一般化させる。 <p>◆知識②【発言・記録分析】</p>

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・物の性質と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現している。(科学的な思考・表現)
- ・物の形や体積と重さの関係に興味・関心をもち、すすんで物の性質を調べようとしている。(自然事象への関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動 C：予想される児童の反応 C：【見方】・(考え方)が働いている児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ◆評価【評価方法】 【見方】・(考え方)を働かせるための手だて</p>
<p>○同体積の食塩を載せて釣り合っている簡易天びんと、同体積の食塩と砂糖を載せて釣り合っていない簡易天びんを見て気付いた点について話し合う。 C：片方の天びんは傾いているけど、もう片方の天びんは傾いていません。(比較) C：傾いている天びんは、どちらかの重さが違うと思います。【質的①】</p> <p>○傾いている天びんの二つの物を比較して、何が違うのかを考える。</p> <p>○考えを小集団で発表し合い、学級全体で共有する。 C：よく見ると2種類の粉の粗さが違います。 C：重さが違う理由は、物が違うからだと思います。【質的①】 C：白い粉の種類が違うと思うので、重さも違うと思います。【質的①】</p> <p>○意見を整理して問題を見いだす。 C：物が変わると重さも変わるのだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 同じ体積でも物が変わると重さは変わるのだろうか。</p> </div> <p>○次回の学習内容を知る。</p>	<p>天びんが傾いているものと傾いていないものを、比較させて重さに注目させる。(比較)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>・同じ量ずつ容器に入れていることを伝える。また、体積という用語の意味について押さえる。</p> <p>・食塩と砂糖を手にとって確かめることで諸感覚を使って重さを感じさせ、共通点と差異点に気付かせる。</p> <p>◆関心・意欲・態度① 物の体積と重さの関係に興味・関心をもち、すすんで物の性質を調べようとしている。【行動観察・発言・記録分析】</p> <p>◆思考・表現① 物の性質と重さの関係について追及する中で差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現している。【発言・記録分析】</p>

(3) 本時の評価例

<p><科学的な思考・表現></p> <p>○十分満足できる (A基準) 天びんの傾きから重さが違うことに着目し、粒の大きさが違うなどの差異点や体積は同じであるという共通点に気づき、質的な視点から物の性質と重さについての関係を整理して問題を見だし、表現している。</p> <p>○おおむね満足できる (B基準) 物の性質と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点に気づき、物の性質についての問題を見だしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B基準に高めるための手だて・支援 2種類の粉の様子を観察させ、粉の様子の違いと重さに注目して気づきや疑問を記述していくように助言する。
--

事例2 第5学年

1 単元名「物の溶け方」

2 単元目標

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

ア 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。

イ 物が水に溶ける量には、限度があること。

ウ 物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。

(2) 物の溶け方について追究する中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

3 本単元における評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
①物を水に溶かし、物が溶ける様子に興味・関心をもち、自ら物の溶け方の規則性を調べようとしている。 ②物が水に溶けるときの規則性を適用し、身の回りの現象を見直そうとしている。	①物の溶け方とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。 ②物が溶ける量を、水の量や温度と関係付けて考察し、自分の考えを表現している。	①加熱器具やろ過器具などを適切に操作し、安全で計画的に実験をしている。 ②物の溶け方の規則性を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。	①物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。 ②物が水に溶ける量には限度があることを理解している。 ③物が水に溶ける量は水の量や温度、溶ける物によって違うことや、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができることを理解している。

4 本単元で働かせる見方・考え方

本単元で示している次の三つの目標について、本研究で提案する質的・実体的な視点で捉える見方として整理を行い、単元の指導計画の中に位置付けた。

(1)アについては「物(固体)は水に溶けて見えなくなっても、存在しているのではないか」「物は水に溶けて見えなくなっても、重さは変わらないのではないか」という実体的な視点①②で捉える見方を働かせる。

(1)イについては「物によって、水に溶ける量は異なるのではないか」という質的な視点①で捉える見方を働かせる。

(1)ウについては質的①・実体的な視点①で捉える見方を働かせる。

また、考え方については物の溶け方について追究する中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することが大切となる。実験方法を考えるときには、変化させる条件と変化させない条件を個で考え、小集団や学級での交流を通して全員が見通しをもって観察・実験が行えるようにすることで考え方を働かせるようにする。

5 単元の指導計画（全 14 時間 本時は 4 時）

次時	<p>○主な学習活動 C：予想される児童の反応 C：【見方】・（考え方）が働いている児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ◆評価【評価方法】 【見方】・（考え方）を働かせる場の設定や手だて</p>
第一次	<p>1 2</p> <p>○透明な筒に水を入れ、その中に食塩を入れ溶ける様子を観察し、気付いたことや疑問をまとめるとともに溶けた食塩についてイメージ図を書く。 C：筒の途中で見えなくなり、水に溶けました。 C：2杯目以降は水に溶ける位置が下の方になりました。いくらでも溶けるのか不思議に思いました。 C：もっと溶かしてみたいです。 C：溶かした後、体積が増えました。 C：見えない粒で水の中に存在していると思います。 【実体的①】（比較） ○問題を見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題 溶けて見えなくなった食塩は、なくなってしまったのだろうか。</p> </div> <p>○予想・仮説を立てる。 C：食塩は水の外には出ていないので、水の中に存在していると考えます。【実体的①】 C：体積が増えたので、食塩は水の中で見えない状態で存在していると考えます。【実体的①】 C：溶ける前と後の重さを比較すれば調べられると思います。【実体的②】（比較）</p>	<p>書いたイメージ図を基に、気付いたことや疑問を交流して、実体的な視点で捉え、問題を見いだしていけるようにする。 【実体的①】（比較）</p> <p>・今後の学習で気付きや疑問が想起できるようにする。 ◆関心・意欲・態度① 【発言・記録分析】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想・仮説について話し合わせる中で、実体的な視点で捉える問題につなげていけるようにする。【実体的①②】</p> </div>
	<p>3</p> <p>○前時の振り返りを行う。 ○実験計画を立て、結果の予想をする。 C：水を蒸発させれば固体の食塩が最後に残るのではないかと考えます。【実体的①】 ○実験を行う。前時で食塩を溶かした水から5 mL取り、加熱する。（蒸発乾固） ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：食塩を溶かしたので、水を蒸発させて出てきた白色の固体は食塩だと考えられます。【実体的①】（関係付け） C：水を蒸発させて食塩が出てきたので、重さも増えているのではないかと考えられます。【実体的②】（関係付け）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>結論 水に溶けた食塩は水の中で存在している。</p> </div>	<p>・水が始めの半分ぐらいになったら火を止め余熱で蒸発させるようにする。 ◆技能① 【行動観察・記録分析】</p>
4 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題 食塩を水に溶かすと重さはどうなるのだろうか。</p> </div> <p>○予想・仮説を立てる。 C：食塩を入れた分だけ溶かした後の水が重くなっていると考えます。【実体的②】 C：水は食塩を入れる前より重くなると思いますが、食塩が見えなくなっているのでも2つを足した重さより軽くなると考えます。【実体的①】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>結果を共有し、すべてのグループで同じ結果となり再現性が取れていることを確認できるようにする。（比較・関係付け）</p> </div>

		<p>○実験計画を立て、結果の予想をする。 ○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：重さが等しくなったので、食塩は見えない状態になっても水の中に存在し、重さも変わらないと考えます。【実体的①②】（関係付け）</p> <p>結論 水に食塩を溶かすと溶かした食塩の分だけ重さが増える。</p>	<p>◆思考・表現① 【記録分析】</p> <p>◆知識・理解① 【発言・記録分析】</p>
第二次	5	○1時の溶ける様子を振り返り、問題を見いだす。	<p>・水の量や温度などの条件について確認をする。 ◆技能② 【発言・記録分析】</p> <p>◆知識・理解② 【発言・記録分析】</p>
	6	<p>問題 食塩が水に溶ける量には限度があるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 ○実験計画を立て、結果の予想をする。 ○水の条件について考える。 ○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：50mL・室温の水に溶ける食塩の限度は15g～20gであると考えられます。（関係付け）</p> <p>結論 食塩が水に溶ける量には限度がある。室温の水50mLには15g～20gの食塩が溶ける。</p>	
	7	<p>○前時の学習より問題を見いだす。</p> <p>問題 他の物【ミョウバン】も、50mL・室温の水に溶ける量に限度があるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 C：食塩とは違う物なので限度はないと思います。【質的①】（比較） C：ミョウバンにも溶ける量には限界があると思います。食塩と違うものなので限界の量が食塩とは違うと思います。【質的①】（比較）</p> <p>○実験計画を立て、結果の予想をする。 C：水の量や温度は食塩で調べた時と同じにする必要があると思います。（比較） ○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：食塩と比べて、溶ける量が少なかったです。また、溶ける量に限度がありました。【質的①】（比較）</p> <p>結論 他の物【ミョウバン】が50mL・室温の水に溶ける量は5g以下で、限度がある。</p>	<p>物による水に溶ける量の違いについての考えを取り上げ、質的な視点で捉えられるようにする。【質的①】</p> <p>食塩と同じように実験方法をそろえるようにする。【質的①】（比較）</p> <p>◆思考・表現① 【発言・記録分析】</p> <p>◆知識・理解② 【発言・記録分析】</p>

第 三 次	8 9	<p>○第二次の学習を振り返り、問題を見いだす。</p> <p>問題 水により多くの物を溶かすにはどうすればよいのだろうか。</p> <p>C：水の量を増やせば、物が溶ける量も増えると思います。 C：水の温度を上げれば、物が溶ける量が増えると思いません。</p> <p>小問題① 水の量を増やすと、食塩やミョウバンの溶ける量は増えるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 C：食塩もミョウバンも水の量を2倍にすれば溶ける量も2倍になると思います。 C：両方とも溶ける量は増えると思いますが、食塩とミョウバンは違う物なので増え方が違うと思います。【質的①】</p> <p>○実験計画を立て、結果の予想をする。 C：変える条件は水の量で、2倍の100mLにして、変えない条件は水の温度で、室温にします。(条件制御)</p> <p>○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：食塩もミョウバンも水の量を2倍にすると溶ける量も2倍になりました。 C：ミョウバンは水の量を増やしても、食塩と比べて溶ける量は多くありませんでした。【質的①】(比較)</p> <p>小結論① 水の量を増やすと、食塩やミョウバンの溶ける量が増える。</p>	<p>物による水に溶ける量の違いについての考えを取り上げ、質的な視点で捉えられるようにする。【質的①】</p> <p>水の条件(変える条件、変えない条件)について確認をする。(条件制御)</p> <p>◆思考・表現② 【発言・記録分析】</p>
	10 11	<p>小問題② 水の温度を上げると、食塩やミョウバンの溶ける量は増えるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 C：水の量を増やした時と同じように、水の温度を上げると食塩もミョウバンも溶ける量は増えると考えます。 C：両方とも溶ける量は増えると思いますが、食塩とミョウバンは違う物なので増え方が違うと思います。【質的①】</p> <p>○実験計画を立て、結果の予想をする。 C：変える条件は水の温度で、40℃にします。(条件制御) C：変えない条件は水の量で、50mLにします。(条件制御)</p> <p>○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：水の温度によって食塩の溶ける量は、あまり変わりませんでした。【質的①】(比較、関係付け) C：水の温度によってミョウバンの溶ける量は、2倍よりも多くなりました。水の温度を上げるともっと溶けるのではないかと考えました。(比較、関係付け)</p> <p>小結論② 水の温度を上げると、ミョウバンの溶ける量は増えるが、食塩の溶ける量は変わらない。</p>	<p>物による水に溶ける量の違いについての考えを取り上げ、質的な視点で捉えられるようにする。【質的①】</p> <p>水の条件(変える条件、変えない条件)について確認をする。(条件制御)</p> <p>◆思考・表現② 【発言・記録分析】</p> <p>◆知識・理解③ 【発言・記録分析】</p> <p>・食塩については溶解度曲線を用い確認ができるようにする。</p>

	<p>結論 水の量を増やしたり温度を上げたりすることでより多くの物を溶かすことができる。しかし、物によって溶ける量が異なる。</p> <p>○ミョウバンを溶かしたビーカーを観察し、次時の学習の見通しをもつ。</p>	
12 13	<p>○前時を振り返り、問題を見いだす。 C：白い物はミョウバンで、水溶液が冷えてミョウバンが出てきたのではないかと考えます。【実体的①】（関係付け）</p> <p>問題 ミョウバン水を冷やすと、溶けているミョウバンを取り出すことができるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 C：ミョウバンは、温度によって溶ける量が違うので、温度が下がったことで一度溶けたミョウバンが出てきたのではないかと考えます。【実体的①、質的①】</p> <p>○実験計画を立て、結果の予想をする。 ○実験を行う。 ○結果を記録し、発表する。 ○考察を書き、発表する。 C：出てきた白い物は、ミョウバンしか溶かしていないのでミョウバンだと考えられます。【実体的①】（関係付け）</p> <p>結論 ミョウバンは、温度によって溶ける量が違うので、ミョウバン水を冷やすと、溶けているミョウバンを取り出すことができる。</p>	<p>完全に分離されたイメージをする児童もいるため、食塩の実験を振り返り、ろ液にミョウバンが溶けていることを蒸発乾固で確かめられるようにする。【実体的①】</p> <p>◆技能① 【行動分析・記述分析】</p> <p>◆知識③ 【発言・記録分析】</p>
第四次	<p>○身の回りの物が溶ける現象について、物が溶ける決まりを使って説明する。</p>	<p>◆関心・意欲・態度② 【発言・記録分析】</p>

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・物の溶け方とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。(思考・表現)
- ・物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。(知識・理解)

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動 C：予想される児童の反応 C：【見方】・(考え方)が働いている児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ◆評価(評価方法) 【見方】・(考え方)を働かせるための手だて</p>
<p>問題 食塩を水に溶かすと重さはどうなるのだろうか。</p> <p>○予想・仮説を立てる。 C：付け加えたり、取り除いたりしていないので、食塩を入れた分だけ溶かした後の水が重くなっていると考えます。【実体的②】</p>	<p>前時を想起させることで、水に溶けて見えなくなっても食塩として存在しているという、実体的な視点が働かせるようにする。【実体的①】</p>

<p>C：水は食塩を入れる前より重くなると思いますが、食塩が見えなくなっているの二つを足した重さより軽くなると思います。【実体的①】</p> <p>○実験計画を立て、結果の予想をする。</p> <p>C：水と食塩の重さを足した重さになっていると考えると。水 100 g、食塩 20 g = 120 g【実体的②】</p> <p>C：水と食塩を足した重さより少し軽くなっていると考えると。水 100 g、食塩 20 g < 120 g【実体的①】</p> <p>C：溶かす容器を密閉すると、外部からの影響を受けなくなると。 (条件制御)</p> <p>○実験を行う。</p> <p>○結果を記録し、発表する。</p> <p>C：溶かす前と溶かした後の重さは等しくなりました。</p> <p>○考察を書き、発表する。</p> <p>C：重さが等しくなったので、食塩は見えない状態になっても水の中に存在し、重さも変わらないと。【実体的①②】(関係付け)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>結論 水に食塩を溶かすと溶かした食塩の分、重さが増える。</p> </div>	<p>◆思考・表現① 物の溶け方とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現している。【記録分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水 100m L に 20 g の食塩を溶かすようにする。 ・メスシリンダー、電子天秤の使用方法を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>結果を共有し、すべてのグループで同じ結果となり再現性が取れていることを確認できるようにする。(比較・関係付け)</p> </div> <p>◆知識① 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。【発言・記録分析】</p>
---	---

(3) 本時の評価例

<p><科学的な思考・表現></p> <p>○十分満足できる (A基準)</p> <p>前時を想起し、溶かして見えなくなっても、水の中に食塩が存在していることを関係付けて考え、食塩を溶かす前の全体の重さと溶かした後の重さを比較すればよいことを表現している。</p> <p>○おおむね満足できる (B基準)</p> <p>前時を想起し、溶かして見えなくなっても、水の中に食塩が存在していることを関係付けて考え、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B基準に高めるための手だて 前時の蒸発乾固の実験で、見えなくなっても存在していたことを想起させる。 <p><自然事象についての知識、理解></p> <p>○十分満足できる (A基準)</p> <p>予想・仮説や結果、考察を振り返り、物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。</p> <p>○おおむね満足できる (B基準)</p> <p>物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B基準に高めるための手だて 実験結果や考察の交流を通して、問題に対する結論を導出できるようにする。
--

事例3 第4学年

本事例では、第4学年における実体的な視点で捉える児童の実態を把握することを目的とし、「物が温度の変化により体積が変化したときの重さの変化」について考える発展的な学習を行い、その結果をまとめた。

1 単元名「金属、水、空気と温度」

2 単元目標

金属、水及び空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
金属、水及び空気は、温めたり冷やしたりすると、それらの体積が変わるが、その程度には違いがあること。
- (2) 金属、水及び空気の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、金属、水及び空気の温度を変化させたときの体積の状態の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

3 単元の指導計画（全11時間 本時は第三次の1時）

次	学習内容	働かせる見方
第一次 (3時間)	・空気の体積は温めると増え、冷やすと減る。	空気の温度と体積変化を、質的な視点で捉える。
第二次 (3時間)	・水の体積は温めると増え、冷やすと減る。 ・温度による水の体積変化は空気より小さい。	水の温度と体積変化を、質的な視点で捉える。
第三次 (2時間)	・物が温度により体積変化しても重さは変わらない。	水温を変えたときの体積変化と重さを、実体的な視点で捉える。
第四次 (3時間)	・金属の体積は温めると増え、冷やすと減る。 ・温度による金属の体積変化は水より小さい。	金属の温度と体積変化を、質的な視点で捉える。

4 本時の指導（7/11）

- (1) 本時の目標
・体積変化した水の重さについて、根拠に基づいて自分なりの予想・仮説を設定し、自分の考えと照らし合わせながら友達のことを聞いて判断し、図や文章に表現できる。
- (2) 本時の展開

○主な学習活動	◆評価【評価方法】
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">【見方】（考え方）を働かせるための手だて</div>	
○前時の学習を振り返る。 ○問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 問題 水の温度変化により体積が変わると、重さも変わるのだろうか。 </div>	温度を変化させて体積が変化した水の重さと、温度を変化させる前の水の重さとの違いに着目させ、実体的な視点で捉える見方を働かせる問題づくりにつなげられるようにする。 【実体的②】（比較）
○予想・仮説を設定し、小集団や学級全体で考えを発表し合う。 ○検証計画を立案する。 ○結果の見通しをもつ。 ○小集団で準備し、実験する。 ○結果をモデル図や文章で表す。	第3学年「物と重さ」等の既習内容や生活経験を踏まえ、予想・仮説を設定させる。 【実体的②】（関係付け） ◆科学的な思考・表現② 水が温度により体積変化したときの様子と重さを関係付けて、それらについて予想や仮説をもち、表現している。 【発言・記録分析】

5 実体的な視点で捉える児童の実態

本授業において、児童がどのように実体的な視点を働かせることができたか、児童の発言やノート記録から検証した。

予想	予想・仮説の理由	考察（児童のノート記録より）
重さは重くなる	<ul style="list-style-type: none"> 水の体積が増えているから、重さも重くなると思う。【実体的②】 	<ul style="list-style-type: none"> 水が温まることで体積が増えているのに、重さが変わらないことにびっくりした。水を冷やして体積が減っている状態でも重さは変わらないのだろうか。
	<ul style="list-style-type: none"> 水は温めると重くなり、冷やすと軽くなると思う。体積が増えるなら、その分重くなるはずだから。【実体的②】 	<ul style="list-style-type: none"> ガラス管の中で体積が増えた分だけ重くなると思っていたから意外に思った。
重さは変化しない	<ul style="list-style-type: none"> 体積が変化するだけで、水の重さは変わらないと思うから。【実体的②】 	<ul style="list-style-type: none"> 水を温めることによって体積が増えても、重さとの関係がないことが分かった。
	<ul style="list-style-type: none"> 体積が変化するのは水が膨らんだり縮んだりするからだと思う。【実体的②】 	<ul style="list-style-type: none"> 温めることで水が膨らんでも、重さは変化しないことが分かった。
	<ul style="list-style-type: none"> 家で冷たい水を温めたことがあるが、重さは変わらなかったように感じたから。【実体的②】（関係付け） 	<ul style="list-style-type: none"> 水は温めても重さが変化しないことが確かめられた。水を冷やした時も同じ結果が得られるのだろうか。
	<ul style="list-style-type: none"> 水を追加していないので、体積が増えても水が増えることにはならないから。【実体的②】 	<ul style="list-style-type: none"> 水は追加しない限り、温めて体積が増えても重さは変わらないことが分かった。
	<ul style="list-style-type: none"> 水が温められて体積が増えると重さも重くなるとするならば、ダムに日光が当たって水が温められたとき、ダムの底が重さで耐えられなくなると思うから。【実体的②】（関係付け） 	<ul style="list-style-type: none"> 水を温めて体積が増えても、重さが変化しないことが確かめられて安心した。

今回の実験では、事象提示として、フラスコの先のガラス管にラップフィルムをし、閉じ込めた空間の中で水を温めて体積を変化させた。これにより、水の温度の変化により体積が変化したときの重さの変化について実体的な視点で捉えた予想・仮説を立てた児童が多く見られた。また、「水が蒸発した分、重さが軽くなるのではないか」といった予想・仮説を立てていた児童が、友達と予想・仮説の交流をすることにより、実体的な視点で捉えた予想・仮説に考えを見直すことができた。

また、児童の考察にもあるように、「温度の変化により体積が変化したときの、重さの変化」について、実体的な視点で捉えさせることで、児童は水の温度変化による体積変化についての考えを深めていた。児童によっては、「水が冷えたときの重さはどうなるのだろうか。」という気付きも出てきた。今回の実験で得られたことを既習内容とし、水を冷やして体積が変化したときの温度変化や、金属、空気の温度変化により体積が変化したときの重さについて実験したいという思いが出てきたことは、児童の思考に広がりが出てきたと捉えることができる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 教材の解釈

各単元を学ぶ本質的な意義を踏まえて、「粒子」を柱とする領域の各単元でどのような理科の見方・考え方を働かせることが重要であるかを整理した。

ア 見方・考え方は、問題解決の活動を通して、育成を目指す資質・能力としての「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」とは異なることを教師が意識することが重要であることについて理解が深まった。

イ 理科の見方・考え方を働かせた具体的な姿、反応を授業前に想定することで、理科の見方・考え方を働かせている児童の発言や記述等を教師が意図的に取り上げることができた。学級全体で理科の見方・考え方が働いている児童の発言を価値付けることで、どの児童も理科の見方・考え方を働かせることにつながった。また、見方・考えを働かせた具体的な姿、反応例を踏まえると、より児童の思考に沿った指導計画を教師が立てられるようになった。

ウ 児童が理科の見方・考え方を働かせて学習を進めた結果、最終的に目指す姿を整理し、学年が進むにつれて、児童の見方・考え方がどのように豊かで確かなものになっていくかについて明らかにできた。系統性がはっきりとしたことで、各単元でどのような見方・考え方を働かせるのか、教師がより意識できるようになった。

(2) 授業実践

教師が理科の見方・考え方を働かせられるような手だてを設定し、児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題解決の活動を行うことで、理科における資質・能力の育成につながった。例えば、第3学年「物と重さ」では、2種類の粉（砂糖と食塩）を比較して重さについて問題を見いだす場面において、「粉をよく見ると粒の大きさが違うので種類が違うのではないか。」「粉の種類が違くと、同じ体積では重さが変わるのではないか。」という考えをもつことができた。このように、質的な視点を働かせている児童は、その疑問から問題を見いだすことができ、思考力・表現力の育成につながった。また、第4学年「金属、水、空気と温度」では、実体的な視点で捉える見方を働かせる学習に取り組んだ。水の温度変化による体積変化と重さの関係について確かめることにより、児童の実体的な視点に関する実態を把握することができた。

2 研究の課題

本研究では、「質的・実体的」な視点を中心に、児童が見方・考え方を働かせた姿を明らかにし、授業改善に取り組んできた。しかし、今回の実践だけでは事例が少なく、理科学習全般の指導法の改善にまでは迫ることができていない。「量的・関係的」な視点や「多様性と共通性」の視点、「時間的・空間的」な視点等の他の視点で捉える見方についての研究や中学校までの系統性を意識した指導計画の作成など、実践を広げていく必要がある。

小学校体育開発委員会

目 次

I	研究の目的	82
II	研究の視点	84
III	研究の方法	84
IV	研究構想図	85
V	研究の内容	86
VI	実践事例	94
VII	研究のまとめ	100

〈小学校体育研究開発委員会〉

研究主題

「豊かなスポーツライフの基礎を培う運動遊びの学習」

I 研究の目的

1 現状と課題

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について

(中央教育審議会答申 平成 28 年 12 月 21 日) より抜粋 (以下「答申」と表記。)

- ・習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題がある。
- ・運動する子とそうでない子供の二極化傾向が見られる。
- ・子供の体力について、低下傾向に歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和 60 年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られる。

- (2) 幼児期運動指針 (文部科学省 平成 24 年 3 月) より抜粋

- ・生活全体が便利になったことは、歩くことをはじめとした体を動かす機会を減少させた。
- ・一般的な生活をするためだけであれば、必ずしも高い体力や多くの運動量を必要としなくなっており、そうした大人の意識は、子供が体を動かす遊びをはじめとする身体活動の軽視につながっている。
- ・都市化や少子化が進展したことは、社会環境や人々の生活様式を大きく変化させ、子供にとって、遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間の減少、そして交通事故や犯罪への懸念などが体を動かして遊ぶ機会の減少を招いている。
- ・体を動かして遊ぶ機会が減少することは、児童期、青年期への運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成の阻害に止まらず、意欲や気力の減弱、対人関係などコミュニケーションを上手く構築できないなど、心の発達にも重大な影響を及ぼすことにもなりかねない。

2 三つの資質・能力の育成に向けて

- (1) 体育科の目標 (小学校学習指導要領 平成 29 年 3 月)

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する上で、体育や保健の見方・考え方を働かせること、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通していくことが示されている。

(2) 体育の見方・考え方（小学校学習指導要領解説体育編 平成 29 年 7 月）

小学校においては、運動やスポーツが楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目するとともに、「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図している。

小学校から高等学校における 12 年間の学びの中で、体育の見方・考え方を働かせ、豊かにしていく必要がある。特に小学校段階では、児童の発達の段階に留意し、大切にす視点を明らかにした上で、その視点を意図した授業を展開できるようにしていくことが重要となる。

(3) 課題を見付け、その解決に向けた学習過程

（小学校学習指導要領解説体育編 平成 29 年 7 月）

運動や健康についての興味や関心を高め、運動や健康等に関する課題を見付け、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、課題を修正したり、新たに設定したりして、仲間と共に思考を深め、よりよく課題を解決し、次の学びにつなげることができるようにすることを示している。課題を見付け、その解決に向けて取り組む学習過程においては、自分や仲間が直結する課題を比較、分類、整理することや、複数の解決方法を試し、その妥当性を評価し、他者との会話を通して、よりよい解決策を見いだしていく主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が期待される。

体育学習を展開するにあたり、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を明らかにして学習に取り組んでいく必要がある。小学校第 1 学年及び第 2 学年（以下、「低学年」）の運動遊びの学習においても、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を明らかにし、その学習過程を意図した授業を展開する中で、資質・能力を相互に関連させて高めていくことが重要となる。

3 研究主題設定の理由

答申では、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成が重視され、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」（以下、「三つの資質・能力」）を育成することが目標として示されている。

本委員会では、子供たちの個々の能力を最大限に伸ばすためには、体育科、保健体育科で育成を目指す三つの資質・能力を確実に身に付けられるようにすることが必要であると考えた。特に、低学年の学習内容である運動遊びは、体育科、保健体育科の 12 年間の学習の始まりであり、各運動領域の基盤である。その際、体育の見方・考え方を働かせながら、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を展開することが重要な視点となる。教科体育との出会いである運動遊びの学習で、児童が夢中になり、楽しさを目いっぱい味わう中で、三つの資

質・能力を身に付けていくことが、上記の課題を解決し、豊かなスポーツライフの実現に向けての一つの分岐点となり得る。

幼児期からの接続を踏まえ、もう一度、運動遊びの授業の本質を考えるとともに、児童の視点から運動遊びの授業を捉え直していく。運動遊びの授業を抜本的に改善することで、児童は三つの資質・能力を確実に身に付け、豊かなスポーツライフを実現するための基礎を培うことができると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の視点

本委員会では、運動遊びの授業を本質から捉え直し、運動遊びの授業を抜本的に改善するために、以下の視点から研究を進めた。

1 運動遊びの授業づくりの提案

- ・ 体育の見方・考え方を働かせた運動遊びの学習
- ・ 運動遊びにおける学習過程
- ・ 運動遊びにおける環境の充実

2 運動遊びの実践教材集の開発

- ・ 児童が動きを身に付けられる易しい運動例
- ・ 児童が運動を遊びとして行えるようにするための指導例

III 研究の方法

1 基礎研究

新学習指導要領の実施に向けた国の動向や東京都の教育施策への理解を深めるとともに、研究の基盤に据えるため、文献や先行研究等を参考に基礎研究を進めた。

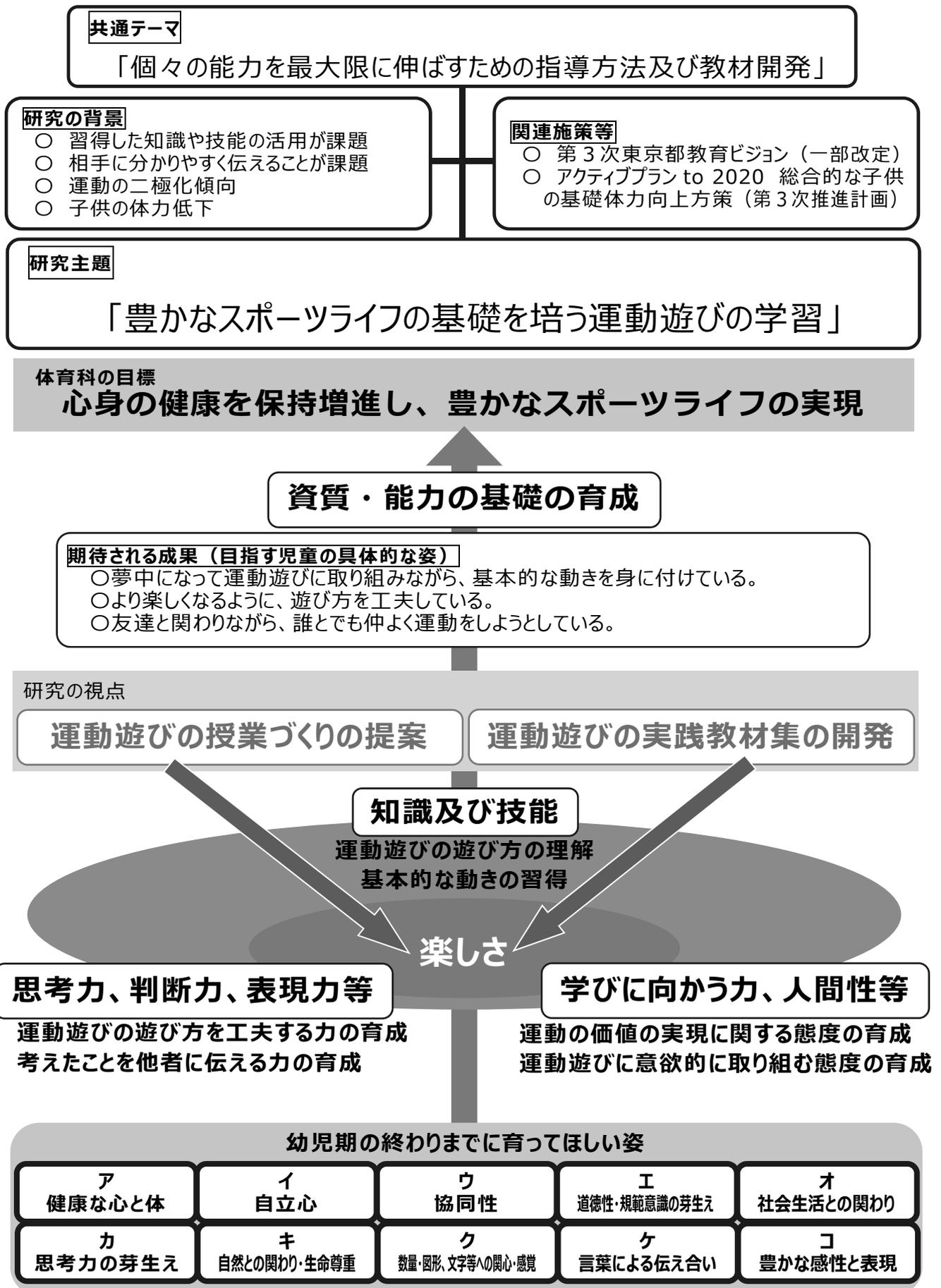
2 授業づくりの提案・実践教材集の開発

運動遊びの授業を本質から捉えなおすために、幼児期との接続、小学校における体育の見方・考え方、運動遊びにおける課題を見付け、その解決を目指す学習過程を明らかにすることをベースに研究を進め、運動遊びの授業づくりの提案及び運動遊びの実践教材集を開発した。

3 授業実践・効果検証

提案する運動遊びの授業づくり、開発した実践教材集を活用し、7回の授業実践を行い、提案内容の効果検証を行いながら、研究内容の充実を図った。

IV 研究構想図



V 研究の内容

1 運動遊びの授業づくりの提案

(1) 体育の見方・考え方を働かせた運動遊びの学習

ア 各種の運動の中心的な楽しさ

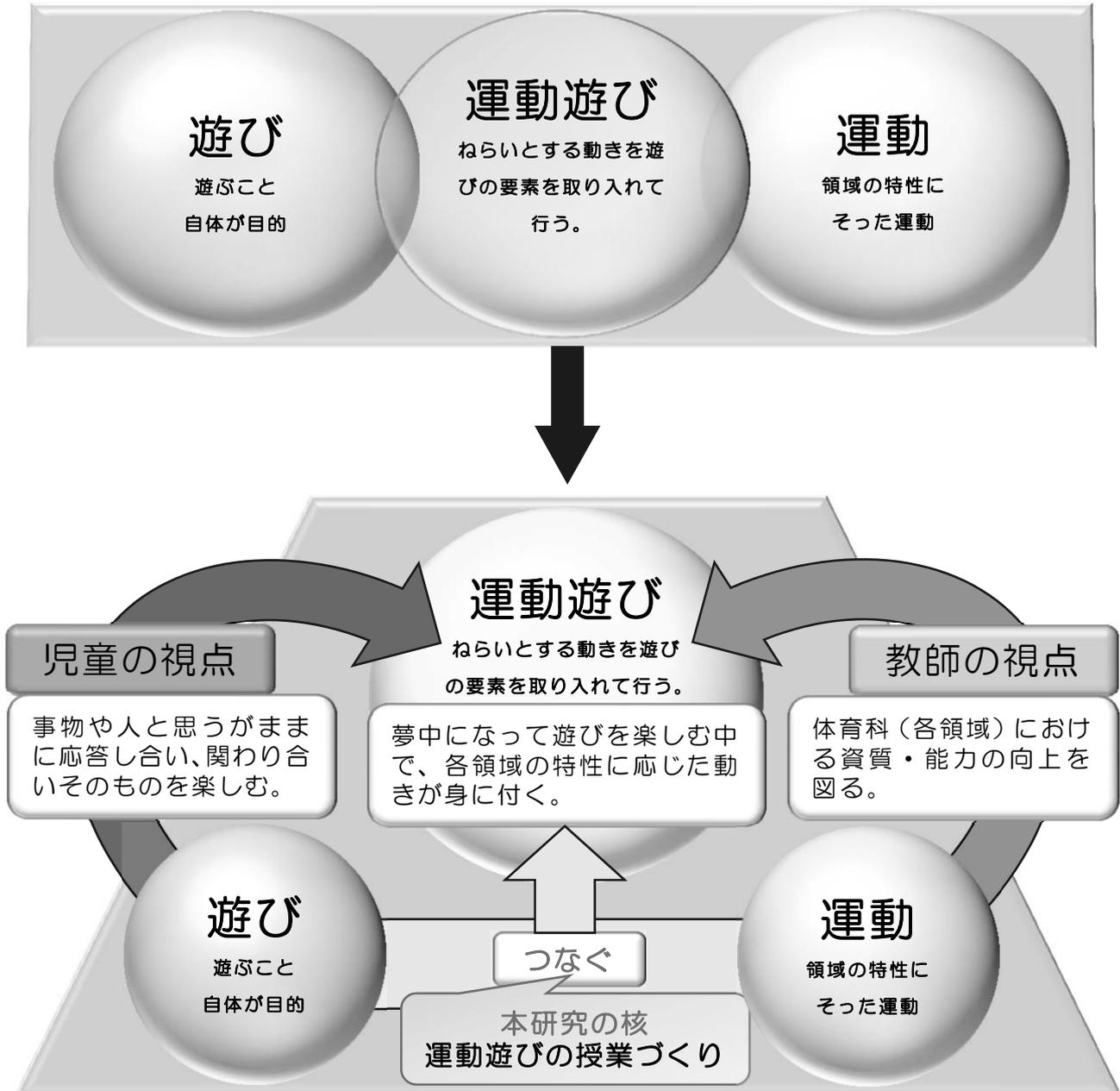
運動遊びの学習では、各領域に応じた動きの面白さや運動の楽しさに触れることが大切である。児童は、易しい運動に出会った際に動きの面白さを感じ、動きの面白さの積み重ねが、運動の楽しさを導くことができる。各種の運動の中心的な楽しさを、以下のようにまとめた【図表1】。

領域		主な動きの面白さ	運動の楽しさ
体づくりの運動遊び	体ほぐしの運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 伸び伸びと体を動かす。 今できる動きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きを行うこと。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	多様な動きをつくる運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> バランスを取る。 体を移動する。 用具を使う。 力試しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きを見付け、試すこと。 いろいろな動きができること。 用具等を使って動きを工夫すること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
器械・器具を使った運動遊び	固定施設を使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 高いところに登ったり、下りたりする。 逆さになる。 ぶら下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな動きをすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	マットを使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 丸まって転がる。 体を伸ばして転がる。 逆さになる。 体を反らす。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな姿勢で転がること。 逆さになったり、体を支持したりすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	鉄棒を使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 逆さになる。 ぶら下がる。 跳び上がる。 跳び下りる。 揺れる。 回転をする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな姿勢でぶら下がったり、揺れたりすること。 跳び上がったたり、跳び下りたりすること。 易しい回転をして下りること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	跳び箱を使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 跳び乗る。 跳び降りる。 またぎ乗る 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな姿勢で跳び越すこと。 跳び乗ったり、跳び下りたりすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
走・跳の運動遊び	走の運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな方向に走る。 障害物を跳び越える。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなコースで速く走ること。 障害物にひっかからないようにリズムよく走ること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	跳の運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 前方、上方に跳ぶ。 片足、両足で跳ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 高く・遠くに跳んだり、連続して跳んだりすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
水遊び	水の中を移動する運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 水につかる。 水の中を移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水の中で体を自由に動かすこと。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	もぐる・浮く運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> 水にもぐる。 水に浮く。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな姿勢でもぐったり、浮いたりすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
ゲーム	ボールゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ボールを投げる。 ボールを蹴る。 ボールを捕る。 ボールを転がす。 ボールを止める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りにボールを操作すること。 ボールを投げたり、蹴ったり、打ったりしてゲームをすること。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	鬼遊び	<ul style="list-style-type: none"> 逃げる。 追いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 空いている場所を見付けて、速く走ったり急に曲がったり、身をかかわしたりして逃げる。 友達と関わり合って遊ぶこと。
表現リズム遊び	表現遊び	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物になりきる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物の特徴を捉えて、なりきって体を動かすこと。 友達と関わり合って遊ぶこと。
	リズム遊び	<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って体を動かすこと。 友達と関わり合って遊ぶこと。

【図表1 各運動遊びの動きの面白さ、運動の楽しさ】

イ 運動遊びの捉え

運動遊びは、遊びと運動の間に、はじめから存在しているものではない。本研究では、運動遊びそのものは、児童の遊びへの欲求と領域の特性に合った運動とをつなぐ教師のアプローチがあってはじめて運動遊びとなると考えた。【図表 2】



【図表 2 運動遊びの捉え】

ウ 幼児期における遊び、小学校における運動遊びと運動

○ 幼児期における遊び

遊びの本質は、人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方で応答し合うことに夢中になり、時の経つのも忘れ、その関わり合いそのものを楽しむことにある。すなわち遊びは遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生み出すことが目的ではない。

(幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 中央説明会資料 平成 29 年 7 月)

○ 小学校における運動遊び

児童の発達の段階を踏まえ、ねらいとする動きを遊びの要素を取り入れて行うものであり、児童が成功体験を得やすいように課題やルール、場や用具等が緩和された体づくりの運動遊び、器械・器具を使つての運動遊び、走・跳の運動遊び、水遊び、ゲーム及び表現リズム遊びを指す。

(小学校学習指導要領解説 体育編 平成 29 年 7 月)

○ 小学校における運動

児童の発達の段階を踏まえ、設定される運動であり、児童が成功体験を得やすいように、(児童の発達の段階と運動の特性を踏まえ) 課題やルール、場や用具等が緩和された体づくり運動、器械運動、走・跳の運動(陸上運動)、水泳運動、ゲーム(ボール運動)及び表現運動を指す。※()内は第 5 学年及び第 6 学年

(小学校学習指導要領解説 体育編 平成 29 年 7 月)

幼児教育は、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践することが何よりも大切であり、教師は、幼児の自発的な遊びを生み出すために必要な環境を構成することが求められている。幼児教育において育みたい資質・能力は、遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育てていく。低学年の児童は、幼児と同じような発達の特性をもっており、具体的な体験を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み替えながら学んでいる。このような発達の特性を十分に理解し、各領域における運動遊びに取り組みさせる中で、運動の楽しさを十分に味わわせることが、見方・考え方を働かせる上で重要な視点と捉えた。

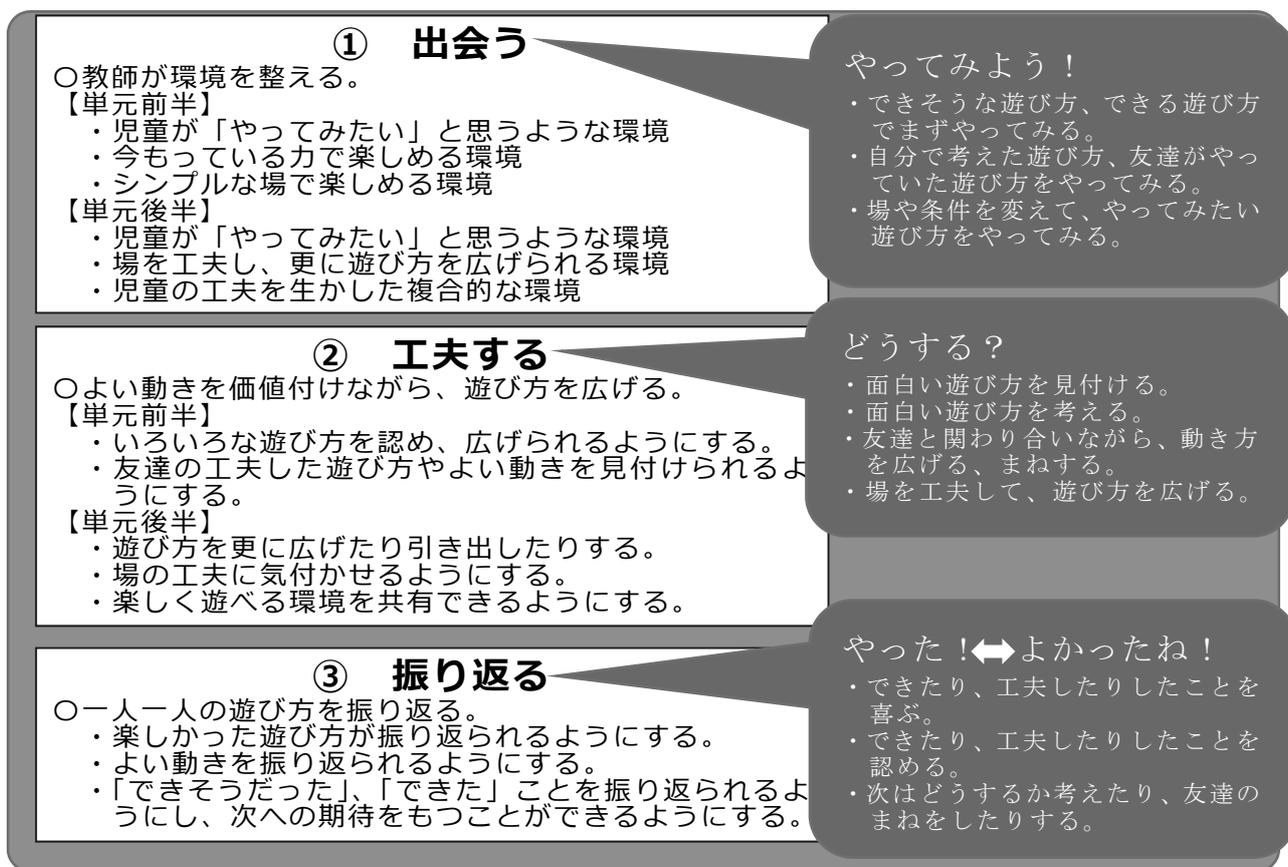
(2) 運動遊びにおける学習過程

ア 運動遊びにおける学習過程の考え方

低学年では、その内容も全て運動遊びとして示されている。これは、児童が易しい運動に出会い、伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わう遊びであることを強調したもので、各領域においても同様の趣旨である。入学後の児童が就学前の運動遊びの経験を引き継ぎ、小学校での様々な運動遊びに親しむことをねらいとしている。

第 3 学年以上の学習では、「自己の運動の課題を見付け…(中略)」、「自己やグループの運動の課題を見付け…(中略)」と記されているように、運動の課題を自ら見付け課題を解決する学習過程が求められる。一方、低学年の運動遊びの学習では、「各種の運動遊びの行い方を工夫する…(中略)」と記されているように、遊び方が重要となる。今もっている力で楽しんだり、友達が考えた楽しみ方から自分に合った楽しみ方を選択できたりするように学習環境を整えていくことが大切であり、運動遊びの学習では、運動遊び

に楽しく取り組む中で、運動課題を解決していく学習過程が求められる。本研究においては、以下の流れを「運動遊びにおける学習過程」【図表3】とし、授業実践に取り組んでいく。



【図表3 運動遊びにおける学習過程】

イ 課題を解決する学習の必要性について

三つの資質・能力は、学校教育において重視すべき三要素とも共通している。学校教育法第21条に掲げる目標を達成する際に、留意することが次のように規定されている。

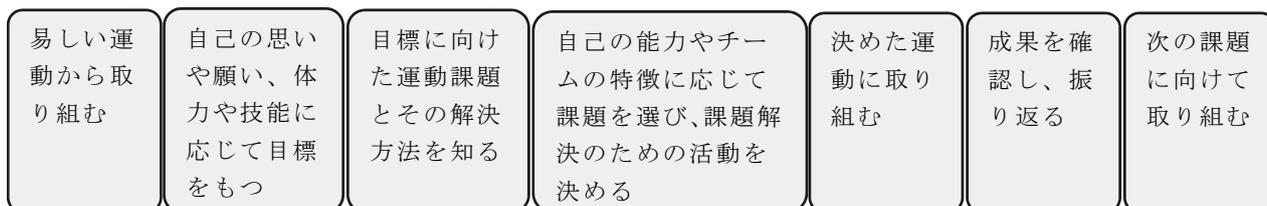
生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

(学校教育法第30条第2項)

前述の体育科の目標においても、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、三つの資質・能力を育成することが明記されている。

ウ 課題発見・解決の学びのプロセスについて

答申の別添12-3において、学びのプロセス例が以下のように示されている。【図表4】



【図表4 個や集団の学びのプロセスの例】

運動遊びの学習においても、学びのプロセスに沿った学習を展開し、三つの資質・能

ウ 運動遊びにおいて大切にしたい教師の言葉掛け【やさしい言葉】

本委員会では、児童が遊びたくなり、遊び方を工夫したくなるような、教師の言葉掛けを充実させていく。【図表6】

運動遊びでは、児童の自発的な学びを認め称賛する言葉掛けや児童の自己決定や対話を促すような言葉掛けを数多く行う中で、運動の楽しさを十分に味わわせていく。教師が一方的に遊び方を示すのではなく、動きを見取り、児童から出た遊び方を称賛したり、よい動きを価値付けたりしていく。そのことで、児童はより遊び方を工夫し、夢中になって運動遊びに取り組むことができる考えた。

学習過程	言葉掛けの視点	言葉掛けの例
① 出会う	やさしい課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇で遊んでみましょう。 ・今日は〇〇して遊んでみましょう。
	やさしい場の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな場がありますが…何ができそうですか。 ・他にどんな場で遊んでみたいですか。
② 工夫する	称賛と児童の対話を促す言葉掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの遊び方、面白そうですね。友達にも教えるとよいですね。 ・上手にできていたね。どうしたらできましたか。
	称賛と児童の自己決定を促す発問	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうな遊び方ですね。他の遊び方もありそうですか。 ・上手にできていましたね。〇〇もできそうですか。もう1回やってもできそうですか。
③ 振り返る	称賛と児童の対話を促す言葉掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく遊べましたね。今日はどんな遊び方がありましたか。どんなよい動きがありましたか。
	称賛と児童の自己決定を促す発問	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな楽しい遊び方がありましたね。次はどんな遊び方をしますか。 ・なるほど、〇〇さんは、こんな動きを意識したからできたんですね。みんなはどうですか。

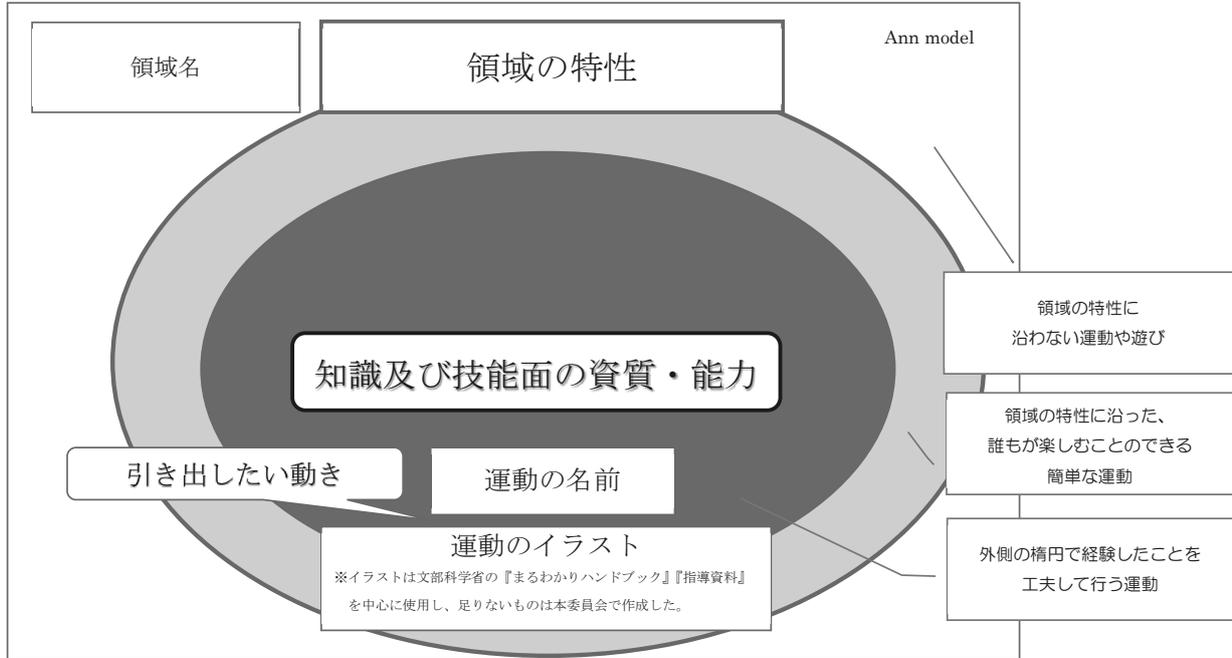
【図表6 言葉掛けの考え方】

2 運動遊びの実践教材集の開発

(1) 開発の目的

三つの資質・能力を育む運動遊びの授業づくりに向けて、実践教材集を開発した。上段は、児童が動きを身に付けられる易しい運動例「Ann (Asobini naru neta) model」【図表7】を、下段は児童が運動を遊びとして行えるようにするための指導例【図表8】を示している。

(2) Ann model 解説



【図表7 Ann model】

(3) 児童が運動を遊びとして行えるようにするための指導例の解説



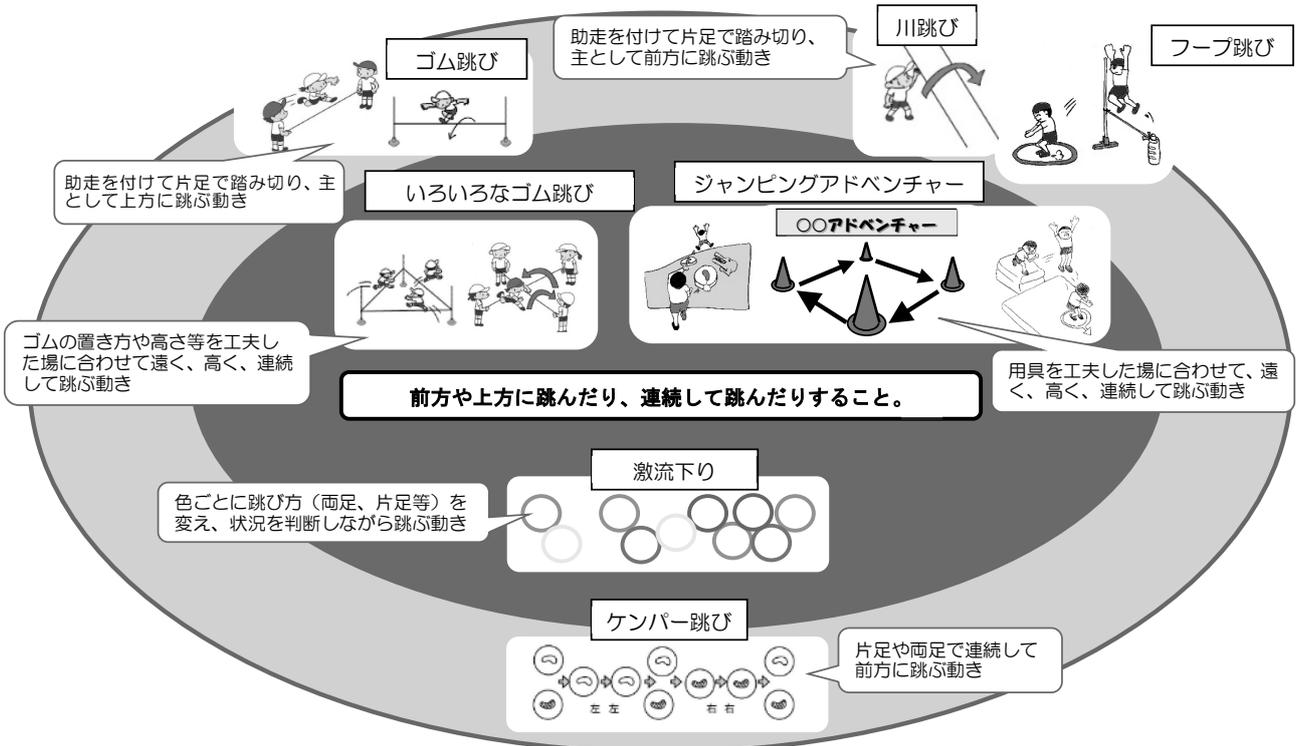
【図表8 児童が運動を遊びとして行えるようにするための指導例】

(4) 運動遊びの実践教材集

Ann model

走・跳の運動遊び
「跳の運動遊び」

特性
調子よく跳ぶことが楽しい。
体を巧みに操作しながらより遠く、より高く跳んだり、連続して跳んだりすることが楽しい



【図表 9 実践教材集例 上段 (走・跳の運動遊び 跳の運動遊びの例)】

「ゴム跳び」を基にした「跳の運動遊び」の単元のイメージ

単元前半	① 誰もが楽しむことのできる環境を整え、遊びのきっかけをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ゴム跳び」を思うがままに遊び、楽しめる環境を整えて、遊び込む時間を確保し、児童の自由な発想の中で多様な遊び方を引き出す。 【出現が予想される遊び方】 足を交える(両足、左足、右足) 跳ぶ向きを変える 跳ぶ人数を変える 数えて跳ぶ ゴムの高さを変える 助走を付ける 姿勢を変える 複数のグループが合わさる 等 ◆児童が遊びやすいように用具を工夫する。 (ゴムに持ち手を付ける、音の鳴るものを付ける等) 		<p>言葉掛け例 ○ゴム跳びで遊んでみましょう。 ○どんな跳び方ができますか。</p>
	② 遊び方を工夫できる環境を整えて、さらに動きを引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ◆①の児童の発想を生かして、いろいろな跳び方で遊べる場を設定する。 ◆友達の遊び方を紹介、称賛する中で、さらに遊び方を広げる。 ◆よい動きを見つけたら、称賛して価値付け、みんなで共有する。 <p>【運動の場の設定の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前方に跳ぶ動き「びよ〜んと遠くへ跳ぶ心地よさ」 ○上方に跳ぶ動き「ふわっと高く跳ぶ心地よさ」 ○連続して跳ぶ動き「リズムよく跳ぶ心地よさ」 		<p>言葉掛け例 ○上手にできましたね。今どうやって跳んだのですか。 ○他にどんな跳び方ができそうですか。</p>
単元後半	<ul style="list-style-type: none"> ◆場を工夫することで、児童が運動遊びにより夢中になって楽しむ環境を整える。 ◆友達の遊び方を紹介、称賛する中で、さらに遊び方を広げる。 ◆よい動きを見つけたら、称賛して価値付け、みんなで共有する。 <p>【場の工夫の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より遠くに輪を置く。 ・複数の輪から選ぶ。 ・ケンパーで置く。 ・色で着地を変える。 ・ゴムの数を増やす。 ・メリーゴーランドのようにする。 ・跳び箱の高さを変える。 ・着地の位置に輪を置く。 		<p>言葉掛け例 ○楽しそうな場ですね。どんな工夫をしたのですか。 ○〇〇さんの跳び方、どこがよいと思いますか。 ○次はどのように遊べますか。</p>	

【図表 10 実践教材集例 下段 (走・跳の運動遊び 跳の運動遊びの例)】

※イラストについては、文部科学省の「教師用指導資料 小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック」「多様な動きをつくる運動(遊び)パンフレット」「学校体育実技指導資料」から使用したり、本委員会で作成したりした。

VI 実践事例

1 第1学年 器械・器具を使つての運動遊び

- (1) 単元名 マットを使った運動遊び
 (2) 単元の目標

【技能】

- ・マットを使った運動遊びを楽しく行い、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすることができるようにする。

【態度】

- ・マットを使った運動遊びにすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【思考・判断】

- ・器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

(3) 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・マットを使った運動遊びにすすんで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、マットの準備や片付けをしようとしている。 ・運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具を変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ・マットを使った運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転などができる。
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ① マットを使った運動遊びにすすんで取り組もうとしている。 ② 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ③ 友達と協力して、マットの準備や片付けをしようとしている。 ④ 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① マットを使った運動遊びの遊び方を知っている。 ② マットの並べ方や、赤玉、ゴムなどを置くなど場を工夫して、いろいろな遊び方を見付けている。 ③ 友達のよい動きを見付けている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① ゆりかごや前転がり、後ろ転がりやだるま転がり、丸太転がりなどいろいろな方向へ転がることができる。 ② 背支持倒立やうさぎ跳び、かえるの足打ちや壁登り逆立ち、支持での川跳びやブリッジなど手で支えて体の保持や回転などができる。

(4) 指導と評価の計画

単元の時数配分	前半			後半		
	1	2	3	4	5	6

【単元前半】

指導のねらい	転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりする動きの面白さを十分に味わう中で、遊び方を広げる。	
学習過程	学習活動	運動遊びの授業のポイント (ゴシック体は運動遊びに係るポイント)
出会う	1 運動遊びの場をつくる。 2 準備運動をする。 3 学習の流れと運動課題を確認する。 (第1時のみ、マットの上で遊ばせる。)	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの持ち方や移動の仕方を確認する。 ・グループでどの場をつくるのかを明確に示す。 ・誰にもできて、手で体を支える感覚を味わえるようにする。
	ころがってみよう。(第2、第3時は、ころがったりさかきになったりしよう。)	
工夫する	4 運動遊びの場で転がる(逆さの)動きを楽しむ。 ・長くつなげたマット ・広いマットを横に並べたマット ・横をより広くしたマット ・縦と横で間を空けて並べたマット	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し転がったり、友達と一緒に転がったりするなど遊び方を工夫できる場を設定する。 ・よい動きをしている児童には、「楽しそうな遊び方ですね」と言葉掛けをする。 ・ねらいに合った動きを共有するために、児童のよい動きを称賛し、価値付ける。
	5 それぞれのマットで転がる動きを紹介する。	
振り返る	6 遊び方を考えたり選んだりしながら、転がる(逆さ)動きを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方を工夫している児童を称賛する。
振り返る	7 片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったこと、もっとやってみたいこと、友達のよい動き等を伝え合うことで学びを価値付け、次時につなげる。
	8 整理運動をする。	
	9 振り返りをする。	

◎評価の重点

観点	努力を要する児童への手だて	
関心・意欲・態度	①	肯定的な言葉掛けを行ったり、教師と一緒に体を動かしたりする。
	③	協力して準備や片付けをしている児童を称賛し、価値付ける。
思考・判断	①	友達がどんな遊び方をしているのか参考にできるように対話を促す。
	③	よい動きをしている友達のまねをするように促す。
技能	①②	体を丸めて揺れたり、勢いを付けたりするようにアドバイスをする。

【単元後半】

指導のねらい	場を工夫して運動遊びをすることの楽しさを味わいながら、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転する動きを身に付けることができるようにする。	
学習過程	学習活動	運動遊びの授業のポイント (ゴシック体は運動遊びに係るポイント)
出会う	1 運動遊びの場をつくる。 2 準備運動をする。 3 マットを使った運動遊びを楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの持ち方、運び方や配置の仕方を確認する。
	4 学習の流れと運動課題を確認する。 もっとたのしいマットのあそびかたをかながえよう。	
工夫する	5 グループで遊ぶ場所を決め、赤玉などの用具を置くなど場を工夫し、マットを使った運動遊びを楽しむ。 ・赤玉やゴムをよけて転がる。 ・坂道マットの上で転がる。など	<ul style="list-style-type: none"> ・赤玉やゴムの位置、坂道の場所など児童の発想を生かして、場を工夫できるようにする。 ・遊び方が工夫できるように、児童が興味をもつような用具を提示する。 ・遊び方を工夫している児童を称賛する。
	6 それぞれのマットの動きを紹介する。	
	7 それぞれ遊びたい場を選び、運動遊びを楽しむ。	
振り返る	8 片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮して片付けができるように言葉を掛ける。 ・楽しかったこと、もっとやってみたいこと、友達のよい動き等を伝え合うことで次時や他の単元に生かせるようにする。
	9 整理運動をする。 10 振り返りをする。	

◎評価の重点

観点	努力を要する児童への手だて	
関心・意欲・態度	②④	順番やきまりを守って、安全に仲よく運動している児童を称賛し、価値付ける。
思考・判断	②	遊び方を引き出すために用具や場の使い方をアドバイスする。
	③	よい動きをしている友達のまねをするように促す。
技能	①②	体を丸めて揺れたり、勢いを付けたりするようにアドバイスをする。

(5) マットを使った運動遊びにおける指導の手だて

やさしい課題

- 思うがままに遊べる環境を整えることで、環境に応じて体を巧みに操作しながら遊ぶことを繰り返し、ねらいとする動きが身に付くようにする。
 - ・最初の時間にマットの上で自由に遊ぶ時間を設定する。その中から、「転がる」動きや「逆さ」になる動きなど、ねらいとする動きを取り出し、いろいろな遊び方ができるようにする。
 - ・第1学年では、「丸太転がり、前ころがり、後ろ転がり」などのいろいろな向きへの転がり方や「壁登り逆立ち」を中心的に取り組み、第2学年では、「支持での川跳び、腕立て横跳び越し」に取り組む。
- 準備運動の中に「ゆりかご」や「かえるの足打ち」などを取り入れ、感覚づくりができるようにする。

やさしい場

- 単元前半では、今もっている力で取り組めるシンプルな場とし、児童の発想や願いを基に、下記のような遊びの場をつくる。児童と一緒にネーミングを考えても楽しく取り組める。
 - ・長いマットを縦に2枚つなげた場（ながながマット）
 - ・マットを横に2枚つなげた場（ひろびろマット）
 - ・広めのマット2枚とマット1枚を横につなげた場（スーパーひろびろマット）
 - ・マットの縦1枚・マットの横2枚・マットの縦1枚・マットの横2枚を、間隔を空けて並べた場（とびとびマット）
- 単元の後半では、安全で扱いやすい紅白玉やゴム、踏み切り板などの用具を使い、児童が場を工夫して更楽しく遊べるようにする。
 - ・用具を岩や川といった障害物に見立て、ストーリーを設定するなどしても楽しく遊ぶことができる。

やさしい言葉

① 出会う

○やさしい課題の提示・やさしい場の提示

- ・児童がやってみたいという学習意欲を高める。
 - 「マットを使って遊んでみましょう。」「今日は転がりながら遊んでみましょう。」
 - 「マットの上で、どんなことができそうですか。」

② 工夫する

○称賛と児童の対話を促す言葉掛け

- ・よい動きや楽しい遊び方を称賛し、児童の対話を促す。
 - 「上手ですね。どうやったらくるっと回れましたか。」
 - 「面白そうな遊び方ですね。友達にも教えてあげましょう。」

○称賛と児童の自己決定を促す言葉掛け

- ・よい動きを価値付けたり、楽しい遊び方を紹介したりすることで、よい動きを取り入れたり、遊び方を工夫したりできるようにする。
 - 「楽しそうな遊び方ですね。もっと楽しい遊び方もありそうですか。」
 - 「上手にできていましたね。他の転がり方もありそうですか。」

③ 振り返る

- ・よい動きや楽しい遊び方を称賛し、よい動きを価値付けたり、楽しい遊び方を紹介したりすることで、次時への学習意欲を高める。
 - 「楽しく遊べましたね。どんな転がり方がありましたか。」
 - 「上手に回れましたね。くるっと回るとよいですね。」

2 第1学年 表現リズム遊び

(1) 単元名 表現遊び・リズム遊び

(2) 単元の目標

【技能】

- ・表現リズム遊びを楽しく行い、表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え全身で踊ることがリズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ることができるようにする。

【態度】

- ・表現リズム遊びにすすんで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【思考・判断】

- ・簡単な踊り方を工夫できるようにする。

(3) 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> ・表現リズム遊びにすすんで取り組もうとしている。 ・きまりを守り、誰とでも仲よく踊ろうとしている。 ・運動をする場の安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びやリズム遊びの行い方を知るとともに、動きを広げるためのいろいろな動きを見付けている。 ・題材やリズムの特徴を知るとともに、それに合った動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え全身で踊ることができる。 ・リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ることができる。
学習 活動 に 即 した 評価 規準	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな動物になりきって踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりすることにすすんで取り組もうとしている。 ②学習のきまりを守り、誰とでも仲よく踊ろうとしている。 ③友達とぶつからないように、安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①表現リズム遊びの遊び方を知っている。 ②リズムに合った動きや動物の特徴に合った動きをいろいろ見付けたり、選んだりしている。 ③友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①表現遊びでは、動物のいろいろな題材の特徴や様子を具体的な動きで捉え、全身の動きに高・低の差や速さの変化を付けて即興的に踊ることができる。 ②リズム遊びでは、軽快な「ロック」や「サンバ」の音楽に乗って弾んで自由に踊ったり、友達と調子を合わせたりして楽しく踊ることができる。

(4) 指導と評価の計画

単元の時数配分	前半				後半	
	1	2	3	4	5	6

【単元前半】

指導のねらい	軽快なリズムに乗った動きや動物のいろいろな特徴を捉えた動きで即興的に踊ることができるようにする。					
学習過程	学習活動			運動遊びの授業のポイント (ゴシック体は運動遊びに係るポイント)		
出会う	1 運動遊びの場をつくる。 2 心と体をほぐす。 3 学習の流れと運動課題を確認する。 4 リズム遊びを行う。 リズムに乗っておどってみよう			<ul style="list-style-type: none"> 全身を使って大きく動くことを助言し、心と体をほぐすことを意識するような言葉掛けをする。 本時の学習内容を掲示して確認する。 児童の内発的動機付けを生かす環境を整える。 第1時での児童の多様な遊び方や願いを基にした環境を用意する。 動きの面白さを味わえる場を設定し、領域の特性にそった運動遊びとなるようにする。 		
工夫する	5 よい動きをしていた児童の動きをまねする。 6 「ロック」、「サンバ」を踊る。			<ul style="list-style-type: none"> リズムに乗って遊べている児童や遊び方を工夫している児童を称賛し価値付ける。 		
出会う	7 表現遊びを行う。 動物になりきっておどってみよう ○いろいろな動物の動きをみんなでやってみる。(1時間に三つ)			<ul style="list-style-type: none"> 児童の内発的動機付けを生かす環境を整える。 第1時での児童の多様な遊び方や願いを基にした環境を用意する。 動きの面白さを味わえる場を設定し、領域の特性にそった運動遊びとなるようにする。 		
工夫する	8 急変の場面を入れて即興的に踊る。 9 本時で行った三つの動物の中から選んでもう一回踊る。			<ul style="list-style-type: none"> 動物の特徴を捉えて踊っている児童や遊び方を工夫している児童を称賛し価値付ける。 		
振り返る	10 振り返りをする。			<ul style="list-style-type: none"> 遊び方について何が楽しかったのか振り返る。 		

◎評価の重点

観点	努力を要する児童への手だて	
関心・意欲・態度	①	具体的な写真や動画を見せ、興味や関心を高める。
	③	全身で踊ってもぶつからない程度の広さの場を用意する。
思考・判断	①	友達がどんな遊び方をしているのか参考に対話できるように促す。
	②	題材の特徴的な動き、リズムに乗った動きとなるように友達のよい動きを紹介する。
技能	①②	よい動きをしている友達のまねをするように促す。

【単元後半】

指導のねらい	面白かったリズムに乗った動きや動物の動きで、即興的に踊ることができるようにする。					
学習過程	学習活動			運動遊びの授業のポイント (ゴシック体は運動遊びに係るポイント)		
出会う	1 運動遊びの場をつくる。 2 心と体をほぐす。 3 学習の流れと運動課題を確認する。 4 リズム遊びを行う。 ダンスパーティーで遊ぼう			<ul style="list-style-type: none"> 場を工夫することに目を向けられるように運動課題を明確にする。 よい動きへの言葉掛けを繰り返し、よい動きを意識できるようにする。 よい動きを見取り、価値付ける。 		
工夫する	5 よい動きをしていた児童の動きをまねする。 6 「ロック」「サンバ」を踊る。			<ul style="list-style-type: none"> 児童の発想を生かした場にしていくことで、主体的に取り組めるようにする。 		
出会う	7 表現遊びを行う。 動物ランドで踊って遊ぼう ○今まで変身してきた動物の動きをみんなでやってみる。			<ul style="list-style-type: none"> よい動きを見取り、価値付ける。 		
工夫する	8 動物ランド踊って遊ぶ。 ○それぞれの動物エリアを回っていき、簡単なお話づくりをする。			<ul style="list-style-type: none"> 児童の発想を生かした場にしていくことで、主体的に取り組めるようにする。 児童が特徴を捉えやすかった動物、もっとやってみたく思った動物を題材とする。 		
振り返る	9 振り返りをする。			<ul style="list-style-type: none"> 楽しかった遊び方やよい動きを伝え合うことで、工夫する楽しさやよい動きを共有できるようにする。 		

◎評価の重点

観点	努力を要する児童への手だて	
関心・意欲・態度	②	安心感をもって運動に取り組めるように、グループ等を決める。
思考・判断	③	よい動きをしている友達の動きを見付けられるような言葉掛けを行う。
技能	①②	急変場面の動きを選べるようにしたり、教師の動きのまねをしたりする。

(5) 表現リズム遊びにおける指導の手だて

やさしい課題

【リズム遊び】

- やや速いテンポの曲（BPM140～150）をかけると踊りやすく、どんな動きにも合いやすい。
 - ・スキップなどの弾む動きを中心に、ねじる・回る・移動する動きを、つなげたり繰り返したりしながら即興的に踊れる題材を精選する。
 - ・友達と手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手を「叩き合ったり」、「ハイタッチ」しながら即興的に踊れるような課題を設定する。

【表現遊び】

- 実態に合った、特徴が捉えやすい題材を設定する。
 - ・題材の特徴を捉えて、跳ぶ・回る・ねじる・這う・軽く・重く・高低差・速さ等がある動きが表れるようにする。

やさしい場

- 単元前半では、児童の実態に応じて、児童が全身で踊ってもぶつからない程度の広さの場を用意する。
- 表現遊びの単元後半では、児童が踊りたい題材をいくつかに絞り、場ごとに題材の小テーマを変えて行うなどの工夫を児童から引き出していく。
- リズム遊びの後半では、児童が踊りたい曲をメドレーで流し、誰もがダンスを踊れるような場にする。

やさしい言葉

① 出会う

- やさしい課題の提示・やさしい場の提示

- ・児童がやってみたいという学習意欲を高める。
「動物になりきってみましょう。」、「リズムに乗って踊ってみましょう。」

② 工夫する

- 称賛と児童の対話を促す言葉掛け

- ・よい動きや楽しい遊び方を称賛し、児童の対話を促す。
「リズムに乗っていて楽しそうですね。どうしたらリズムに乗れるのですか。」
「動物になりきっていますね。どうしたら動物になりきれのですか。」

- 称賛と児童の自己決定を促す言葉掛け

- ・児童のよい動きを称賛し価値付けることで、よい動きを他の児童に広め取り入れられるようにする。
「ゾウの重い感じが表れていますね。のしのに歩いていますよ。」
・急変場面の言葉掛けを行うことで、単元後半では児童の動きに変化を生み、児童が即興的に動きを工夫することができるようにする。
「大きな風が吹いてきましたよ。」、「食べ物を発見しましたよ。」

- ・オノマトペを使うことで、動物の特徴を捉えやすくしたり、大きく体を動かしやすくしたりできるようにする。

「グルっと」、「ピョーン」、「グーン」、「のしのに」、「ひらひら」、「チョッキンチョッキン」

③ 振り返る

- ・よい動きや楽しい遊び方を称賛し、よい動きを価値付けたり、楽しい遊び方を紹介したりすることで、次時への学習意欲を高める。

「ゴリラになりきっていましたね。次はどんな動物になりたいですか。」

Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 幼児期の遊び、小学校における運動遊びと運動を分析することで、本委員会が考える運動遊びの本質の捉えを示すことができた。運動遊びの本質に迫る学習過程を設定し、授業を展開したことで、児童の視点から授業づくりを進め、楽しさを十分に味わわせることができた。教師主導ではなく、低学年の児童の視点に立った授業づくりを進めることで、主体的・協働的な学習を展開し、三つの資質・能力の育成につながった。
- (2) 運動遊びにおいて、環境を充実させることが大切であると分かった。本委員会では、「やさしい課題」、「やさしい場」、「やさしい言葉掛け」の三つの視点から環境を整え、児童の一人一人を大切にしたい授業づくりを支えることができた。児童一人一人が夢中になって運動に取り組むことで、よい動きの習得や友達との関わりの充実につながり、個々の能力を最大限に伸ばす上で有効であった。
- (3) 児童が動きを身に付けられる易しい運動例、児童が運動を遊びとして行えるようにするための指導例を具体的に示したことで、実際の授業に生かせる資料を作成することができた。この資料を活用することで、豊かなスポーツライフの基礎を培う運動遊びの学習の充実を図ることができた。

2 研究の課題

- (1) 領域によっては、動きが広がりすぎてしまい、特性から外れた動きが広がる場面も見られた。味わわせたい動きを明確にすることや、1単位時間で児童からどのような動きが見られるのかというイメージをもち、授業を展開していく必要がある。
- (2) 本委員会では、低学年の児童の視点に立った運動遊びの授業づくりを展開したことで、児童は夢中になって運動遊びに取り組んでいたが、一人一人が三つの資質・能力を確実に身に付け、個々の能力を最大限に伸ばすことができたのか、更に、実践と検証を重ねる必要がある。そのためにも、児童が豊かなスポーツライフの基礎を培うための資質・能力を身に付けた姿を具体的に示していく。

小学校道徳研究開発委員会

目 次

I	研究の目的	102
II	研究の仮説	103
III	研究の方法	103
IV	研究の内容	105
	実践事例 1	107
	実践事例 2	110
	実践事例 3	113
	実践事例 4	116
V	成果と課題	119

〈小学校道徳研究開発委員会〉

研究主題

「子供が主体的に学び、自己の生き方についての考えを深める道徳科の指導法の開発
～対話な学習を通して～」

研究の概要

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としている。

また、道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。その道徳性を養うために行う道徳科における学習とは、「道徳的諸価値について理解する」、「自己を見つめる」、「物事を多面的・多角的に考える」、「自己の生き方についての考えを深める」ことの具体的な目標による学習を指す。これら、道徳科の目標を理解し、現代における教育的諸課題を踏まえ、研究主題を上記のように設けた。

研究主題である、「自己の生き方についての考えを深める」ためには、主体的に学ぶことが大前提である。主体的な学びは児童一人でも可能であるが、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで、学びを深めることができると考えた。

そこで、対話的な学習の場を意図的に設けて授業実践を行い、検証し、指導法の開発を進めることとした。

I 研究の目的

社会のグローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要である。こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たすことが求められている。

このような背景の中で、小学校では平成30年度より、中学校では平成31年度よりこれまでの道徳の時間が「特別の教科 道徳」として教育課程に位置付けられた。今回の改正は、いじめ問題への対応や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものである。「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」という中央教育審議会の答申（平成28年12月）を受け、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一

人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道德」、「議論する道德」へと転換を図るものである。

以上のことを踏まえ、児童が、指導内容を自分との関わりで捉え、切実感をもって学習することや、多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢が求められていることから、本研究主題を設定した。

本研究では、道徳科の学習における主体的な学びを、「児童がねらいとする道徳的価値について、物事を様々な角度から考察し、自分のこととして捉え学ぶこと」と定義付ける。この主体的な学びは、児童が自分一人で道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することでも可能である。しかし、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から考察し、自分なりに考えを深めるためには、他者の多様な考え方や感じ方に触れることが重要である。よって、自己の生き方についての考えを深めていくためには、他者と対話的に学習することが必要なのではないかと考えた。

そこで、学習過程に意図的に対話的な学習を取り入れることを通して、自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業を実現するための指導法について、研究することとした。

II 研究の仮説

道徳の学習における児童の主体的な学びに、対話を学習過程に意図的に取り入れることで、児童は自己の生き方についての考えを深めていくだろう。

III 研究の方法

1 基礎研究

本研究の基礎研究の目的は、児童が主体的に学び、自己の生き方についての考えを深めさせることができる対話的な学習を開発する視点を導き出すことである。

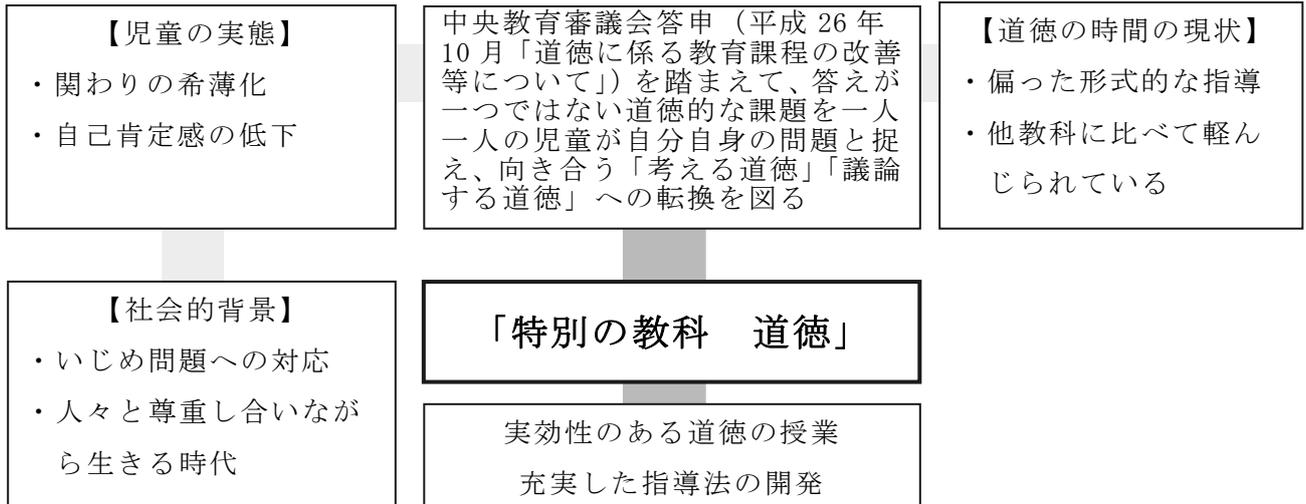
そのために、まずは小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年 6 月）、中央教育審議会答申等から、道徳科における対話の意義について調べ、ねらいとする道徳的価値について、対話が自分の考えを広げたり深めたりすることに有効であることを明らかにする。

それらを根拠として、本研究での道徳科における「対話」の定義や目的、意義を設定する。その上で、対話的な学習の枠組みや具体的な学習活動や指導法を開発する視点を明らかにする。

2 授業研究

基礎研究で設定した開発の視点をもとに、具体的な学習活動や指導法について考案したことを対話的な学習を授業の導入・展開・終末に位置付けて実施し、実際の授業における児童の姿からその効果について検証する。

3 研究構想図（研究計画）



研究主題

子供が主体的に学び、自己の生き方についての考えを深める
道徳科の指導法の開発 「対話的な学習を通して」

研究仮説

道徳の学習における児童の主体的な学びに、対話を学習過程に意図的に取り入れることで、児童は自己の生き方についての考えを深めていくだろう。

研究内容

【基礎研究】

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成 29 年 6 月）、中央教育審議会答申等から対話的な学習の教育的効果や意義について調べ、指導法の開発を行う。

【授業研究】

考案した「対話的な学習」を授業に位置付けて、検証授業を行い、成果と課題を明らかにする。

<検証授業> 7月、9月、10月、11月（4回実施）

<検証方法> 「対話的な学習」における学習状況を把握し分析する。

有効的な「対話的な学び」の指導法

目的に応じた対話的な学習を取り入れた授業展開

研究成果の活用

開発した指導方法の工夫を全学年において活用し、普及・啓発を図る。

IV 研究の内容

1 基礎研究

(1) 道徳科における「対話」の意義

(前略) 社会を構成する主体である一人一人が、高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある。 …… (略) ……

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (文部科学省 平成 29 年 6 月)

以上から、道徳科において「対話」は、児童の資質・能力の育成のために、重要な役割を果たすものである。

(前略) iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現
② 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の視点からは、子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることが求められる。 …… (略) ……

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ (第 2 部) (情報、主として専門学科において開設される各教科・科目、道徳教育) (文部科学省 平成 28 年 8 月)

また、上記より対話は、自分自身の道徳的価値の理解や生き方を広げたり深めたりすることが期待される。そのためには、対話の指導法を考える必要がある。

そこでこれらの文献を基に、本研究における「対話」を定義し、研究内容を検討した。

(2) 本研究における「対話」の定義

ア 定義

ねらいとする道徳的価値について、児童が教師や児童と思考を交流すること

イ 目的

対話を通して、ねらいとする道徳的価値について自分の考えを広げたり深めたりさせ、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

ウ 意義

児童が教師や他の児童と思考を交流することで、自分一人で道徳的価値について考えるよりも、多様な考えを知ることができる。それは、自分の考えを整理したり、より確かなものにしたりにつながる。また、新たな考えが生み出されるよさもある。そのため、本研究における対話によって、ねらいとする道徳的価値について児童は、自分の考えを広げたり深めたりし、自己の生き方を深めていくことが期待される。

(3) 開発の視点

上記を踏まえ、本研究では、対話的な学習を授業に位置付けるために、「教師との対話」「児童間の対話」という二つの学習活動を設定した。そして、開発する内容は、具体的な学習活動、指導法やこれらの一単位時間における導入・展開・終末での位置付けとした。

ア 教師との対話

(ア) 定義

「教師との対話」とは、児童に考えさせること（問う）、考えを引き出すこと（聴く）とした。

(イ) 開発の視点

- ① 学ぶ必要感をもたせる発問（児童へのアンケート調査に基づいた問い）
- ② 考えを深める補助的な発問（・考えの理由を引き出す問い ・考えを深める問い）

イ 児童間の対話

(ア) 定義

「児童間の対話」とは、児童同士による考えの交流とした。

(イ) 開発の視点

- ① 形態（・意図的な座席配置 ・人数構成「ペア・グループ・全体」）
- ② 方法（・フリートーク「向かい合う、訪ね歩く」・役割演技）

2 授業研究

(1) 検証の在り方

ア 検証目的

本研究が定義した「主体的な学び」を実現するために開発した対話的な学習によって、児童は自己の生き方についての考えを深めることができたか。

イ 検証の視点

- (ア) 開発した対話的な学習での期待する児童像をもとに、児童の学習状況を把握する。
- (イ) (ア)で期待する児童像の児童が、どのように自己の生き方についての考えを深めたか、分析する。

[自己の生き方についての考えを深める児童の姿]

- ・児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めている。
- ・自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめている。
- ・これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めている。

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（文部科学省 平成29年6月）より要旨抜粋

ウ 検証方法

- (ア) 検証授業を4回行う。（2年、4年、5年[2回]）
- (イ) 児童の学習状況を検証の視点で把握し、授業者及び開発委員で分析する。
（座席表を使って個の学習状況の把握（発言や対話活動の様子）、ワークシートへの記述）

(2) 実践事例

実践事例 1 第 5 学年

1 主題名 もっと仲良くなるために B[友情、信頼]

教材名 「友の肖像画」 「小学校道徳の指導資料とその利用 3」 (文部省 昭和 55 年)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする内容

友達は自分の人生に大きく影響を与える存在であるため、健全な友達関係を育てていくことが求められる。この時期の児童には、互いに磨き合い、高め合うような真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていけるようにすることが大切である。なかでも友達との相互の信頼関係は、よりよい友達関係を構築する土台となるものである。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとする。そのため、友達関係で悩むことが今まで以上に見られるようになり、このことが不安な学校生活につながる状況がみられる。

そこで、本授業では児童が友達との信頼関係を更に深いものにしていけるよう、友達を信頼する大切さに加え、難しさにも気付かせる。そして、これまでの友達との付き合い方について自分自身の課題について考えさせたり、よさについて認めさせたりしていきたい。

(3) 教材「友の肖像画」について

病気のため仲よしだった二人が離ればなれになり、時間とともに和也が相手と疎遠になっていく中で、相手は和也のことをずっと思い続けていたという話である。

この教材で、友達を信頼する難しさに気付かせたい。そのために和也が肖像画を見た時の気持ちや思いを考えさせる。そして、電車の中で僕が考えたことを問うことで、これからの友達との関わりに大切なことを考えさせていく。

3 開発の視点

(1) 教師との対話

導入段階で、児童に「学ぶ必要感をもたせる」ことで、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考える構えが生まれる。そこで、「学ぶ必要感をもたせる発問」として、「(これらを実現するために)今の自分に大切なことはどんなことだろうか。」と発問することで、自分のことについて考えていく意識を引き出していく。

(2) 児童間の対話

展開段階の後半で、自分の友達との関わり方について考えを広げたり深めたりするために、他者と、友達との関わり方について対話する学習を設定する。

具体的には、ペアで行う。対話の際には、他者の考えについて質問(「どうしてそう思ったの」「なんで、そう考えたの」)や受容(「なるほどね」「ふーん、そんなことがあったんだ。私もね…」)することで、自分の友達との関わり方についての考えを広げたり深めたりできることを指導する。

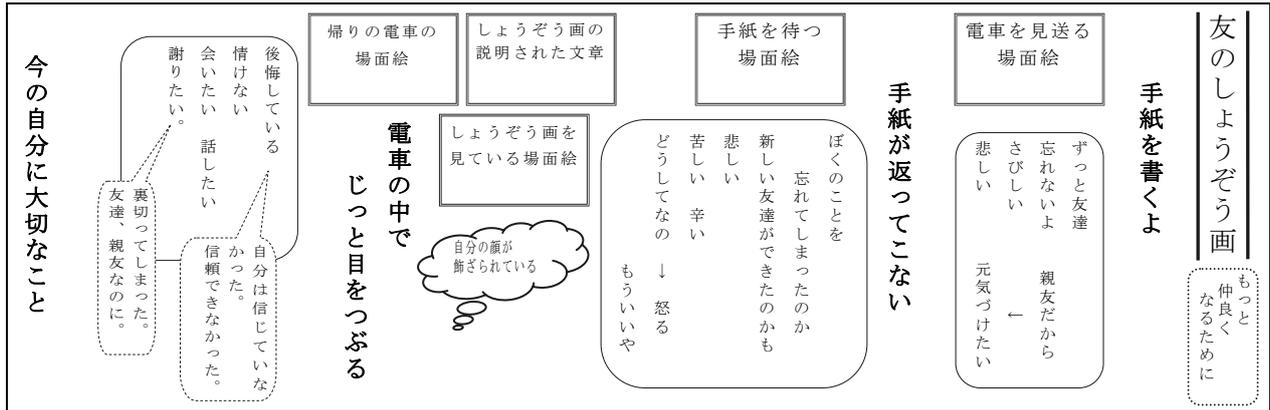
4 本時の学習

(1) ねらい 友達を信頼する大切さや難しさに気付かせ、友達を信頼する態度を育てる。

(2) 展開

	○主な発問 ・ 児童の心の動き	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>1 学習問題を知る</p> <p>○友達ともっと仲良くなるにはどんなことが大切でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す ・遊ぶ ・お互いを知る ・相手を信じる <p>○それらを実現するには、今のあなたに大切なことは、どんなことでしょうか。</p>	<p>◇発言しやすい雰囲気をつくる。</p>
展開	<p>2 教材の範読を聴き、話し合う</p> <p>○手紙を書くよと、僕はどんな気持ちで言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さびしい、悲しい。 ・ずっと友達。親友だ。 ・忘れない <p>○手紙が返ってこないことに、僕はどんな気持ちになったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして返事が返ってこないのだろう。 ・僕のことを忘れてしまったのかな。 ・悲しいなあ。手紙を何通も書いたのに。 <p>◎電車の中で僕はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからはずっと手紙を書いていこう。 ・友情を育んでいこう。 ・信頼を深めるためにも相手のことを考えていこう。 	<p>◇友達である相手との約束が果たされないときの気持ちについて考えさせる。</p> <p>◇友達のことを信頼していなかったことが明らかになった時の気持ちを考えさせる。</p> <p>☆電車の中で僕が考えたことを考えることができたか。(発言・挙手)</p>
	<p>3 自分のことを考える</p> <p>○これまでの友達との関わり方を振り返り、もっと仲良くなるために、今の自分に大切なことを考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私には、相手の話をしっかり聞くことが大切だと思いました。 ・自分は相手を信頼していなかったからだと思います。自分に必要なのは、相手を信じて、自分のことを話す勇気だと思いました。 	<p>◇ペアで対話を行う。考えの理由を聞いたり受容したりするように指導する。</p> <p>☆仲良くなるために、今の自分に大切なことを考えることができたか。(ワークシート)</p>
終末	<p>4 教師の説話</p>	<p>◇友達と信頼し合った経験を話す。</p>

5 板書記録



6 考察

(1) 教師との対話

導入では「友達ともっと仲良くなるには、どうしたらいいと思いますか」と発問すると「お互いを知る」、「相手を信じる」との意見があり、これまでの体験から友達との関わりを想起することができていた。

その上で、「それらを実現するに、今、自分に大切なことはどんなことだと思いますか。」と問うと、考え込む様子が見られた。「うーん」となってみたり、「えっ」と言葉を漏らしたり、先程の発問とは違ってすぐに反応が出てこなかった。これは、「今の自分がもっと仲良くなるためにはどうしたよいか」と思いを巡らせていたり、このようなことを考える機会がなかったりすることが理由と考えられる。

また、授業後の児童対象アンケートにおいても「『今の自分に大切なことは何か』と問われたことで、これからどんなことを考えていけばいいのか、よく理解できた」と記述した児童がいた。

この「学ぶ必要感をもたせる発問」によって、児童は、本時の学習課題である「今の自分が友達と仲良くなっていくために大切なこと考える構え」を整えることができたと考えられる。

(2) 児童間の対話

交流する対象を一人にしたことで、相手が明確となり、個の学びを確実にすることができた。さらに「どうしてそう思ったの」「なんで、そう考えたの」「なるほどね」、「ふうん、そんなことがあったんだ。私もね…」と質問したり受容したりする言葉を指導したことで、深い学びにつながる対話を成立させることができた。

特に、友達との関わり方について、今の自分に必要だと考えた理由を聞かれたことで、自分を更に見つめる児童の様子がうかがえた。また、ワークシートには、対話の前後の記述に変化が見られ、友達との関わり方についての考えを広げたり深めたりすることができていた。

展開段階の後半で行う自分の生き方についての対話活動は、自分のことを素直に話すよさを確認できた一方で、プライバシーに関わることでもあるため、教材や主題、学級の児童の実態によっては、慎重に学習を進めていくことが必要であると感じた。

実践事例 2 第 2 学年

1 主題名 温かい心で B [親切、思いやり]

教材名 「くまくんの たからもの」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分に置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が必要であり、相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。この段階においては、自分中心の考え方をすることが多いが、家族だけでなく、地域や学校、友達との関わりが増え、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにする。また、相手のことを考え、優しく接することが求められる。その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的な行為をできるようにすることが大切である。

(2) 児童の実態

親しい友達が困っていたり、悲しんだりしている時に優しく声をかけることができる。また生活科では、様々な 1 年生との交流学习があり、1 年生が楽しめるように、困らないように、グループで計画・運営し、優しく声をかけて関わる姿が見られる。そこで、親しい友達だけでなく自分が関わる様々な人にも目を向けられるように、また教師から設定された機会でなくても、人が困っている状況を見かけた時には、主体的に温かい心で接し、親切にできるように指導していきたい。

(3) 教材について

2 年生にとっては、1 年生や幼い子に対して、お世話をしたり、困っている時に助けたりする経験があるため、実際と同じ状況ではないにしろ、理解しやすい内容だと考える。宝物が自分にとって大切な物であることを十分に押さえた上で、それを捨ててまでもくまくんはねずみの子を助けようとする強い意志について、役割演技を通して理解させる。そうすることで親切にすると相手の喜びが自分の喜びになるだけでなく、自分の心も温かくなることに気付かせ、温かい心で接し親切にしようとする心情を育てたい。

3 開発の視点

(1) 教師との対話

ア 導入の工夫

導入では、児童に本時に興味をもたせ、自分の関わりとして授業に臨めるような工夫をしたい。そこで、教材の登場人物であるくまくんのことを紹介し、後の役割演技で使う実物の鞆を提示する。「皆ならどんな宝物を入れる？」と聞くことで、教材への意識付けになるだけでなく、中心発問で役割演技をする際に、その鞆を使える意欲につながる。また、主人公が宝物を捨ててまでねずみの子を救う葛藤に共感できるようにしたいと考えた。

イ 教材提示の工夫

教材の内容が児童の心にしっかりと届かなければ、授業が成り立たず、ねらいに迫ることができないと考える。そこで手作りの紙芝居を作成し、舞台を用意して教材提示を行う。そうすることで児童を教材の温かい世界に引き込むことができると考える。

ウ 終末の工夫

終末では、「思いやり」は「自分の思いを相手に与える」という語源を話し、どうすることなのかを問うことで、道徳的価値を自分なりに発展させていこうとする意欲につなげて終わらせる。

(2) 児童間の対話

ア 話し合い活動の工夫（役割演技）

中心発問は、鞆の宝物を出し、ねずみの子を入れる場面に設定する。代表児童にくまのお面と鞆を身に付けさせ、教師がねずみのぬいぐるみを動かして役割演技を行う。

「せっかく集めた宝物なのにいいの？」などと問い返すことで、ねらいに迫らせた。演技後、代表児童と他の児童に考えを聞く。

4 本時の学習

(1) ねらい 身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

	○主な発問 ・児童の心の動き	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	1 自分の宝物を発表し合う。	◇くまくんが新しい鞆を持ち宝物を見付けに行くことを話し、自分の宝物を聞くことで教材への意識付けを図る。
展開	2 教材を読んで話し合う。 ○鞆が宝物でいっぱいになったときどんな気持ちでしたか。 ・いっぱい集まって嬉しい。 ・自分だけの大切な宝物。 ・宝物で何をしよう。 ◎鞆をさかさまにふったときどんな気持ちだったでしょうか。 ・せっかく集めた宝物だけど仕方ない。 ・ねずみの子の方が大切。 ・また集めればいい。	◇本時はくまくんの気持ちを考えることを確認する。 ◇くまくんは新しい鞆を持って葉っぱやどんぐりを見付けに行くことを確認する。 ◇宝物を集めて喜ぶ気持ちを考えさせる。 ◇代表児童がくまくん、教師がねずみの子役で役割演技を行い、演技後周囲の児童からも考えを聞く。 ◇集めた宝物よりもねずみの子を助けたいという思いに共感させる。 ☆上手に登れずどうするか悩むくまくんの気持ちを捉えられたか。（発言）
	○どんぐりをもらった帰り道どんなことを考えていたでしょうか。 ・ねずみの子を助けられてよかった。	◇親切にすると心が温くなる気持ちに気付かせる。

	<p>3 自分のことを振り返ろう。</p> <p>○困っている人の力になってよかったと思うことはありますか。</p>	<p>◇ワークシートを用意する。机間指導し、なかなか書けない児童に助言する。</p> <p>☆今までを振り返り、身近な人に温かい心で接し親切にしようとする気持ちが高まったか。(ワークシート)</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇「思いやり」の語源を話し、価値への余韻を残す。</p>

5 板書記録

6 考察

(1) 教師との対話

導入で実物の鞆を見せ、「自分ならどんな宝物を入れたいか」を発問することや教材提示を手作り紙芝居で読み聞かせすることで児童が授業に引き込まれ、その後の展開で主人公に自分と照らし合わせながら語る姿が見られた。

(2) 児童間の対話

鞆やねずみの人形などの実物教材やお面を用意することで役割演技への意欲につながった。役割演技中で演じている児童は教師とのやり取りの中で考えを深め、見ている児童は演じている児童の考えを聞きながら、考えを深めていた。役割演技の後に、周りの児童に「どんな気持ちで鞆を逆さまにしたのか。」を発問した時に「自分だったら嫌だから助ける。」とねずみの立場を自分と照らし合わせて考え、発言する姿が見られた。低学年でも、ペアで役割演技をさせたり、一人一人が捨てる動作化をさせたりすることで主体性が増したと考える。また、役割演技後に児童の発言を広げたり、「本当に宝物を捨てられるか。」と問い返したりすることも有効だと考える。

話合いの中で友達の発言に対して、児童間で「よいことを言うね。」などの評価するつぶやきなどの、ねらいに迫る発言が増え、対話的な学習が進んだ。

実践事例3 第4学年

1 主題名 感動することのよさ D [感動、畏敬の念]

教材名 「しあわせの王子」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間がよりよく成長していくためには、美しい心や温かい心もつことが大切であると考えます。人間は、美しい行いを垣間見るときに、自分自身にその美しい心が伝わり、感動を抱いたり、心を温めたりすることができる。その感動を自分のものとしながら、繰り返し感動を抱いていくことによって、自らも美しい心をもって、人や動植物に接したり、立ち振る舞ったりして、よりよい人格が完成していくようになると思います。

(2) 児童の実態

中学年のこの時期には、人の心や生き物の行動を含めた気高さにも気付くようになります。美しいものや気高いものに意識的に触れようとする態度を育て、こうした体験を積み重ねることによって、想像する力や感じる力がより豊かになっていく。

本価値についての指導は、各教科等の授業の中で価値に対する指導の機会は少ない。また、別葉に照らし合わせると、「感動、畏敬の念」に関わる価値の指導までには至っていない。以上のような児童の実態から、本時では道徳教育として、「補うこと」を意図して授業を行う。人の心の奥深さ、清らかさ、人の心の優しさや温かさなどを、今回の道徳授業を通して、美しいものや気高いものに感動する心を育てていきたい。

(3) 教材について

本教材は、銅像の王子と、渡り鳥のツバメの物語である。銅像の王子は、町の様子を見て、困っている人々を助けたいと考える。寒い所では生きることができないツバメは、暖かい所へ飛んでいこうとするのだが、王子と出会うことによって、町の人々のために尽くすことになる。

ツバメの気持ちを自分のこととして自我関与を通して考えることができる教材である。ツバメが王子の温かい心に惹かれ、町の困っている人々のために、ひたむきに尽くす姿に触れながらねらいに迫り、他者理解を伴いながら自己の道徳的価値を深めていくことによって、児童の感動する心を育てていきたい。

3 開発の視点

(1) 教師との対話

全体での話し合いの場面では、教師が意図をもった補助的な発問をすることで、より深くねらいとする道徳的価値について、自分のこととして捉えて考えを深められるようにする。

第2発問「ツバメはどうしてそこまで王子や町の人を助けようとするのだろうか。」

中心発問「(板書と照らし合わせながら)感動したところは、どこかな。」

(2) 児童間の対話

限られた短い時間の中で多様な考えを求めるのは困難なため、事前に発問に値するアンケートを取ったものを提示することによって、多くの考えを知る。直接的な児童同士の対話ではないが、互いを知るといふ対話と考えることができる。

第1発問では、教材に触れた余韻に浸りながら、互いの考え方や感じ方を比較させるためにペアトークを取り入れる。第2発問と中心発問では、道徳的価値に関わる考え方や感じ方の多様性について考えさせるために、学級全体での話し合い活動を行う。

4 本時の学習

(1) ねらい 美しいものや気高い心に感動する心情を育てる。

(2) 展開

	○主な発問 ・児童の心の動き	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>1 人を感動させるものについて考える。</p> <p>○心にジーンとくるときや、感動したりするときは、どんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力して目標が達成したとき ・人を助けている姿を見たとき 	<p>◇事前に行ったアンケート結果を示す。</p> <p>◇黒板の左端に掲示する。</p> <p>◇主題名を板書して、教材名を貼る。</p> <p>◇教室の電気を消して、映写とBGMによる読み聞かせの準備をする。</p>
展開	<p>2 教材「しあわせの王子」を読んで話し合う。</p> <p>○ツバメが王子の頼みを聞いて迷ったのは、どのような気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南の国へ行かねばならない。 ・王子が悲しそうにしている。 ・1回くらいならいいか。 <p>○ツバメは、どのような思いから王子に「いつまでもそばにいますよ」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が見えない王子の代わりになる。 ・王子のために尽くそう。 ・自分が村人のために働こう。 <p>◎「王子さま、もうお別れです。さようなら。」と言ったときのツバメは、どのような気持ちに包まれていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力の限界が来た。 ・よくここまで頑張ることができた。 ・王子の代わりになることができた。 ・町の人々が幸せになれてよかった。 	<p>◇ツバメの気持ちを考えていくことを伝える。</p> <p>◇読み聞かせた後、余韻を保つ。</p> <p>◇児童が発言する際に、教室の電気を灯す。</p> <p>◇児童の発言を集約してから板書する。</p> <p>◇断りたい気持ちと断りきれない気持ちとに分けて板書する。</p> <p>◇児童の発言を集約してから板書する。</p> <p>◇王子の温かい心に触れたツバメの心を考えさせることによって、ツバメの気高さについて気付かせる。</p> <p>◇人々のために尽くし続けた使命感について考え、感動する心を高めさせる。</p> <p>◇それぞれの場面において、感動したところを挙げさせ、黒板にサイドラインを引く。</p> <p>☆ツバメの心情を通して、美しい心や気高い心について考えることができたか。 (発言)</p>

	3 自分が感動したことについて考える。 ○このお話を通して、感じたこと、感動したことは、どのようなことですか。 自分自身の生活に振り返って考えてみましょう。	◇発表は、児童の了承を得ておいてから意図的指名する。その際、道徳的価値を多面的に取り上げられるようにする。 ☆美しい心や気高い心に感動することついて、自分との関わりの中で振り返ることができたか。(ワークシート)
終末	4 教師の説話を聞く。 ○この学級にも感動がありますね。	◇児童を通して、感動した経験を語る。 ◇余韻を残して終える。

5 板書記録

6 考察

(1) 教師との対話

児童間の話し合い活動において、児童に自分のこととして捉えさせ、多面的・多角的に考えを繰り出していくために、臨場感ある教材提示を行ってより教材に浸ることができるようにした。BGMを活用することにより臨場感を高め、大型テレビ画面への映写による児童の視覚への働きも活用して、感動を更に高めさせることができた。児童はツバメの気持ちを自分のこととして捉えながら、話し合いを行っていった。しかし、教師による発言を極力減らして児童間の対話を重点に置いたため、児童の思考をより深めていくには至らなかった。児童の発言を基に、児童の考えを教師が受容するだけではなく、ポイントとなる児童の考えを取り上げて補助的な発問を行うと、児童の思考をより深めることができたと考えられる。

(2) 児童間の対話

事前にアンケートの結果を示すことによって、児童が他者の一人一人の考えを知ることができ、自己への振り返りにもつなげることができた。しかしながら、事前のアンケートによる児童の感動した体験を、更に高めるには至らなかった。ツバメの気高さをという面をしっかりと児童が押さえてから自分自身のことについて振り返るようにすべきであった。

ペア学習では、自分の考えを明確にしながら相手に伝え聞くことができた。全体での話し合いにおいては、他者の考えを聞きながら自分の考えと照らし合わせて発言していく様子が見られ、多面的・多角的に考えを積み重ねていくことができた。板書に児童の考えをもっと反映させると、視覚を通して児童間の対話が明確になると考えた。

実践事例 4 第 5 学年

1 主題名 美しい心 D [感動、畏敬の念]

教材名 「ひさの星」

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

科学が万能であるかのような錯覚をしかねない今日の社会においては、科学の発展を期待し理性の力を信じることと同時に、人間の力では到底説明することができない美への感動や、崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめ直すことが求められている。

高学年の段階においては、それぞれがもつ感性や知性から、様々なことに気付き深く感じることができるようになってきている。よって、互いに、どんなものに感動したり畏敬の念を抱いたりするのか共有したり語り合ったりすることや、文学作品、美術、音楽などの美しいものとの関わりを通して、感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりする経験を大切にしていきたい。その中で自己を見つめ、人間としての在り方についての考えを深めさせたい。

(2) 児童の実態

児童は家庭生活や様々な教育活動を通して、美しいものや人間の力を越えたものに関わり感動する経験をたくさんしていると考えられる。そこで、本時は深化を意図して授業を行う。人間のもつ心の崇高さや偉大さに焦点を当て、感動する心についてじっくり考える中で、人間としての在り方についても考えさせたい。

(3) 教材について

目の前の相手を助けるために、自分の利害を考えずにとっさに行動するひさの姿に感動する村の人々に自我関与し話し合わせることを通して、人の心の美しさや気高さに感動する気持ちについての考えを深めさせたい。

3 開発の視点

(1) 教師との対話

全体での話し合いの場面では、教師が意図をもった補助的な発問をすることで、より深くねらいとする道徳的価値について自分との関わりで捉えて考えを深められるようにする。

第 1 発問：「ひさは自分の命を粗末にするような人なのではないでしょうか。」

第 2 発問：「優しい人はみんな星になるのかな。」

中心発問：「ひさの行いについて、村の人はどう感じていたのでしょうか。」

振り返り：「〇〇さんの言うような気持ち、感じたことがある人はいますか。」

(2) 児童間の対話

ア グループトーク

第 1 発問でひさのことについて心に残ったことを 4 人一組で交流させる。教材に触れた余韻に浸りながら言葉にさせることで、自分との関わりでねらいとする道徳的価値について考えさせる。

イ ペアトーク

第 2 発問では、互いの思いや考えを聞き合う中で、自分の思いや考えを確かなものに

するために、ペアトークを取り入れる。

ウ 自由な交流の時間

振り返りをノートに書かせた後、自由に交流する時間を設ける。いろいろな友達の考えや感じ方に触れたり、自分の考えや感じ方を伝えたりする中で、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることにつなげたい。

4 本時の学習

- (1) ねらい 人間の美しい心や気高さに感動する心を大切にしようとする心情を育てる。
 (2) 展開

	○主な発問 ・児童の心の動き	◇指導上の留意点 ☆評価
導入	1 感動した作品について話し合う。 ○感動した本や映画について教えてください。	◇事前にアンケートを取り、すぐに想起できるようにする。 ◇どんな話なのか尋ねながら、ねらいとする道徳的価値への導入を行う。
展開	2 「ひさの星」を読み、話し合う。 ○ひさについて心に残ったところを教えてください。 ・ひさは優しいなと思いました。 ・ひさが命を捨てても人を助けたところ。 ○なぜひさは星になったのでしょうか。 ・他の人にはない優しさをもっているから。 ・小さな命を救ったから。 ・みんなを見守りたいから。 ◎「ひさの星」を見つめながら人々はどんなことを思ったでしょう。 ・ひさのことを忘れないよ。 ・ひさのような優しい人になりたい。 ・ひさのことを誇りに思うよ。 ・ひさのことを尊敬している。 3 自分を振り返る。 ○みなさんはどんな人の姿に感動を覚えますか。感動したときのことを教えてください。 ・最後まであきらめずに戦いぬく、スポーツ選手を見て、自分もあきらめない気持ちをもとうと思った。 ○みんなの話聞いて、どんなことを考えましたか。	◇教材の世界に浸らせるために、プロジェクターで絵を映し出し、黒板シスターで教材提示を行う。 ◇教材の余韻に浸らせながら自分との関わりで、ひさについて考えさせるためにグループトークを行う。 ◇交流の様子を聞き取り、板書をする。 ◇人がもつ心の美しさや気高さについて考える。 ◇考えをまとめさせるためにペアトークを行った後、全体で話し合わせる。 ◇人の心の美しさや気高さに触れたときの気持ちについて話し合わせる。 ☆人の心の美しさや気高さに触れたときの気持ちについて考えることができたか。(発言、挙手) ◇じっくりと振り返ることができるよう、道徳ノートに書かせる。 ◇いろいろな友達の感じ方に触れたり自分の感じ方を伝えたりするために、自由に交流する時間をとる。 ☆人の心の美しさや気高さに感動する気持ちについての考えを深められたか。(発言、ノート)

終末	4 教師の説話を聞く。	・児童の姿に感動したときの話をする。
----	-------------	--------------------

5 板書記録

◇どんな人の姿に感動しますか。

- ・仲間を救う姿
- ・あきらめない人の姿
- ・勇気をもって行動する人の姿
- ・前向きな人の姿

命の恩人
＝
星のよう
に輝く
他の人に
はない
みんなを
見守る

安心
優しさや勇気を
語り継ぐ

すごい
尊敬
あこがれ

ごめんね

自分たちもひさ
のようになりたい

ありがとう

ひさが
見守っている

感動する人の姿

ひさの星

ドラマ 本

ひさに
ついて
心に残っ
たこと

- ・優しい
- ・自分よりまわりの人
- ・言い訳をしない
- ・人のことを思っって行動

6 考察

(1) 教師との対話

第1発問では、児童の「命を犠牲にしてまで男の子の命を救った。」「自分のことよりも人のことを思って行動する。」などの発言に対して、「ひさは自分の命を粗末にするような人なのかな。」と切り返しの発問を行った。すると多くの児童が即座に首を横に振り、「命を大切に人だからこそ、人の命も大切にできる。」などの意見が返ってきた。振り返りでは、「〇〇さんのような気持ちになったことあるかな。」と切り返すことで、自分の経験を更に想起する姿が見られた。全体での話合いでは、児童の伝えたい思いや考えを補足したり、互いに聞き合い友達の考えについて思考させたりするために、教師の介入が必要になることがある。そこで、意図的に切り返しの発問を投げかけることで、より自分の事として、友達の考えについて思考したり、ねらいとする道徳的価値について考えたりすることができるようになると考える。

(2) 児童間の対話

グループやペアでの交流では、相手の話に関心をもって聞き合う姿が見られた。さらに、相手の思いや考えについて、感想を返すことも指導してきたので、自分とは違う考えに「ああ〜。」と声を漏らしたり、「〇〇さんと似ていて〜」と関連付けて話したりする姿も見られた。グループやペアトークなどのような少人数での交流は、より相手の思いや考えに耳を傾け聞くようになる。また、聞くことと同時に自分との関わりで考えをもち、考えを深めていく手だてになる。ただ、第2発問のペアトークでは、自分の考えをもつ時間を十分に取らなかったため、相手の考えに流されてしまう児童が見られた。時間配分や人数、場面を吟味することで、自分との関わりで考えを深めることにつなげられる。

V 成果と課題

四つの授業実践では、対話的な学習を行うことで自己の生き方についての考えを深める児童の姿が見られた。そこから分析し、成果と課題を以下のようにまとめた。

1 教師との対話

(1) 必要感をもたせる発問構成

導入は、主題に対する児童の興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る段階であり、自分との関わりで捉えるような発問や声掛けを行った。「自分なら何を入れるか」「今の自分に大切なことは何か」を問うことで、課題意識をもってその後の展開に取り組むことができた。

(2) 教材提示

児童はそれぞれ異なった経験をもつため、教材を通して共通の話合いの場を設定する必要がある。教材の内容を自分との関わりで考えられるようにするためには、読み聞かせる際に紙芝居による提示やBGMの活用をすること、実物を提示することなど教材の内容の特色を生かした工夫を凝らすことで、児童を教材の世界に浸らせ、話し合う意欲を高めることができた。

(3) 問い返し・切り返しの発問

児童の発言に対して、真意を深めたり、同様な考えや経験がないか広げたりする切り返しの発問を行った。互いの考えを聞き合い、友達の考えについて思考したり、ねらいとする価値についてより自分との関わりで考えたりすることができた。

2 児童間の対話

(1) アンケート

事前にアンケートを取ることで、価値に対する児童の内面的理解を深めることができた。そのことで、より児童の実態に合ったねらいや発問を設定することができた。アンケート内容を関連付けながら、自己の振り返りを深められるような展開を吟味していく。

(2) 体験的学習

役割演技を行うことで演じている児童は、登場人物になりきり、自分との関わりで考えを深めることができた。また、それを見ている児童も登場人物を身近に感じて、考えることができた。

隣の児童とペアで役割演技を行ったり、全員で登場人物と同じ動作を行ったりすることで、より自分との関わりで考えを深めることができたと考える。

(3) ペアトーク・グループトーク

全体での話合いの前に少人数の話合いの場を設けることで、一人一人が自分の考えを表現したり、そのことで自信をもったりする機会を与えることができた。また、意見を一方的に伝え合う形にならないように、相手の考えを関連付けたり、質問したりするよう指導することで、より相手の意見に耳を傾け、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。そのためにも、自分の考えをもつ時間を確保してから話合いを行わないと、相手の考えに賛同するだけで終始してしまうこともある。

3 自己の生き方の考えを深める児童の姿

導入での教師との対話により、ねらいとする道徳的価値に対して、児童は自分自身の問題として受け止め授業に臨むことができていた。このことは、自分との関わりで学習を進めていく構えを作ることとなった。

話合いの場面においては、教師との対話や児童間の対話を通して、他者の多様な考え方や感じ方に触れることができた。このことは、児童が物事を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から自己を見つめ、考えを広げたり深めたりする姿につながったと考える。

以上のような教師との対話と児童間の対話を行うことで、振り返りの場面では、次のような児童の反応が見られた。

- ・ 「これまで僕は、友達と楽しく遊べば仲良くなると思っていたけれど、今日の学習で、和也のように友達のことを信じることをしてこなかったように思う。だから、これから僕は友達のことを信じていけるようになることが大切だと思いました。（5年生）」
- ・ 「小さい子が転んで泣いている時に、声をかけて保健室に連れていきました。ありがとうと言われて心が温かくなったので、困っている人がいたらまた、助けたいです。（2年生）」
- ・ 「お母さんが大変な思いをして、ようやく弟が生まれました。生まれた弟を見たとき、とても感動しました。その時の気持ちを大切にしていきたいです。（4年生）」
- ・ 「私は、病気に前向きに立ち向かう人の姿に感動したことを思い出しました。自分だったら、くじけてしまいそうだけど、その人の明るく生きる姿が心に残っています。（5年生）」

これらはまさに、自分の経験を想起し、伸ばしたい自己を見つめたり、これからの課題や目標を見付けたりする児童の姿だと考える。

小学校外国語活動開発委員会

目 次

I	研究の目的	122
II	研究の方法	123
III	研究の内容	123
1	研究構想図	123
2	基礎研究	124
3	教材分析	125
4	開発研究	126
	実践事例 1	130
	実践事例 2	135
IV	研究のまとめ	139

〈小学校外国語活動開発委員会〉

研究主題・副主題

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～絵本の効果的な活用を通して～」

研究の概要

小学校における外国語教育は大きな変革期を迎えようとしている。新学習指導要領が示され、平成 32 年度より中学年において外国語活動が年間 35 単位時間、高学年において教科としての外国語科が年間 70 単位時間実施されることとなる。また平成 30 年度からの新学習指導要領への移行期における学習指導の在り方も示され、第 3 学年から第 6 学年までに、それぞれ 15 単位時間を増やし、新学習指導要領の内容の一部を必ず取り扱うこととされている。

本研究では、移行期に取り扱う内容として示された絵本の指導に着目した。なぜなら、絵本教材は、現行学習指導要領下で活用されている文部科学省配布教材「Hi, friends!」に取り入れられているだけでなく、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教材として、平成 28 年度に新たに文部科学省より配布された「Hi, friends! Story Books」にも、そして、平成 30 年度からの移行期間に向けて提供される新教材にも取り入れられているからである。しかしながら、絵本を活用した指導事例や実際の授業実践等は少なく、また実践については学年が上がるほど少なくなるという調査結果がある。

そこで、指導経験の少ない教師も含めた小学校の学級担任が、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に向けて、絵本を活用した授業実践に取り組むことができるよう、絵本の効果的な活用法や具体的な指導法及び絵本の単元計画の開発を行った。

I 研究の目的

絵本教材は、現行学習指導要領下で活用されている文部科学省配布教材「Hi, friends!」にも取り入れられており、平成 28 年度には、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教材「Hi, friends! Story Books」として、「In the Autumn Forest」及び「Good Morning」が全小学校に DVD で配布された。「Hi, friends! Story Books」の内容は、新学習指導要領の趣旨に即して作成された新教材にも取り入れられており、移行期間にも取り扱うこととされている。

言語習得の観点から大きな教育効果が得られるとされている絵本教材であるが、外国語活動における絵本に関する先行研究は非常に少なく、効果的な指導法を検討するにも材料がない状況であった。そこで本研究では改めて先行研究の調査を行い、外国語活動における絵本の取扱いの実態を把握した上で、学習指導要領の趣旨に沿って、絵本を効果的に活用する指導法を検証することとした。本研究においては、絵本を効果的に活用することにより、児童がより主体的にコミュニケーションを図ろうとすると考え、研究主題を「主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～絵本の効果的な活用を通して～」とし、絵本の効果的な活用に向けて指導の視点を整理し、「Hi, friends! Story Books」として配布された絵本の単元計画の開発を行う。

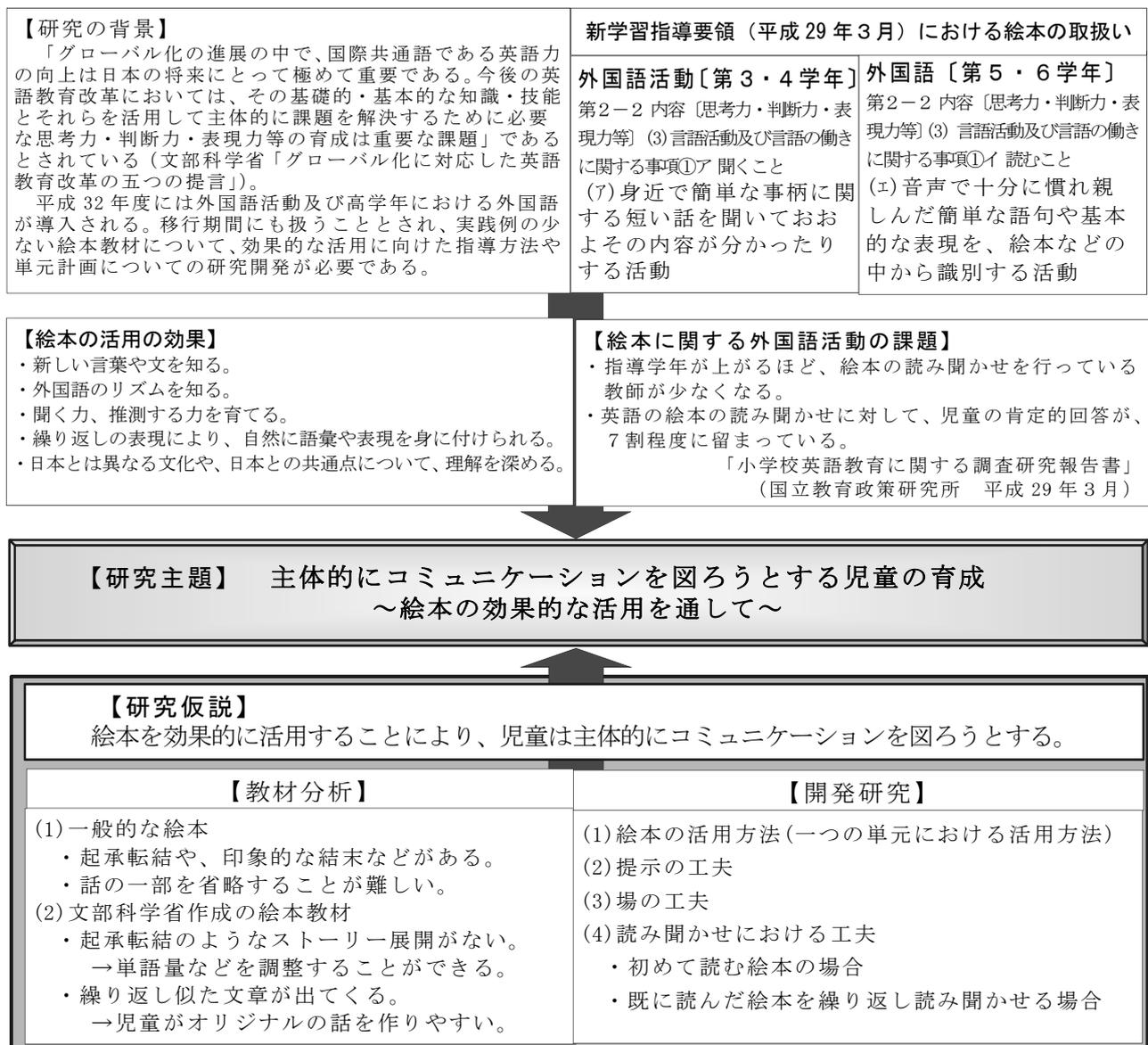
II 研究の方法

本研究では、基礎研究として先行研究の文献や資料を収集・分析し、外国語活動における絵本の活用の現状や課題を明らかにした。また、絵本の活用の現状について、「小学校英語教育に関する調査研究報告書」（国立教育政策研究所 平成 29 年 3 月）から分析を行い、外国語授業等における絵本の活用状況や教師の意識等、絵本活用に関わる課題について明らかにした。さらに「小学校学習指導要領解説」、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」等から絵本を活用した学習の効果について分析しまとめた。

これらを踏まえて、文部科学省作成の絵本教材「In the Autumn Forest」「Good Morning」と一般的な絵本それぞれの特徴について分析を行い、指導の効果を高めるための絵本の活用方法や読み聞かせの工夫等について視点を明確にした。これらの視点を授業実践において検証し、その成果を基に二冊の絵本を活用した単元計画の開発を行った。

III 研究の内容

1 研究構想図



2 基礎研究

本研究では、先行研究の文献や資料を収集・分析することを通して、外国語活動における絵本の活用の現状や課題を明らかにしていくための基礎研究を行った。

まず、英語教育における絵本の活用についての研究は、大学を中心としていくつか論文があり、第二言語習得の観点から絵本の有効性の記述が見られた。

次に、学習指導要領等から、絵本活用の効果等に関する記載を確認した。「小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成 29 年 6 月）」及び「小学校学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 6 月）」には、絵本活用の効果等として次のように示されている。

- ・絵本には、内容理解を促すための絵や写真がふんだんに使用されているということのほか、主題やストーリーがはっきりしており、同じ表現が意図的に繰り返し示されているという特徴がある。
- ・絵本の読み聞かせは「おおよその内容が推測できるよう、具体的な場面設定をすること」や「理解を促す手立てを講じ、「聞いて分かった」という喜びや達成感を味わわせることに有効」である。
- ・絵本を用いた学習については、ストーリーを予想しながら聞いたり、聞こえた語句を言ったりすることで、楽しみながら主体的に聞かせる活動をすることもできる。

また、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（文部科学省 平成 29 年 6 月）には、絵本活用により期待できる効果として、次のように示されている。

- ・読み聞かせ活動では、児童が指導者の英語を聞き、絵の助けを借りて「英語を聞いて意味が分かる」体験をすることができる。
- ・良質なまとまりのある英語をインプットできる。
- ・絵本には同じ表現が繰り返し出てくるため、自然に語彙や表現を身に付けやすい。

これらの内容を検討し、絵本活用の効果を、本研究として次のとおりまとめた。

- ・新しい言葉や文を知る。
- ・外国語のリズムを知る。
- ・聞く力、推測する力を育てる。
- ・繰り返しの表現により、自然に語彙や表現を身に付けられる。
- ・日本とは異なる文化や、日本との共通点について、理解を深める。

次に、小学校における絵本の活用の現状について、「小学校英語教育に関する調査研究報告書」（国立教育政策研究所 平成 29 年 3 月）から分析を行った。

表 1、2 は、教師に対する調査「あなたは外国語活動・外国語科の授業で次のような活動を行っていますか」の結果である。これによると、英語での「絵本の読み聞かせ」活動は「単語や英文を書く」活動に次いで少なく、指導学年が上がるに従って、行っていると回答する教師が少なくなることが分かる。

表 1 授業での活動内容

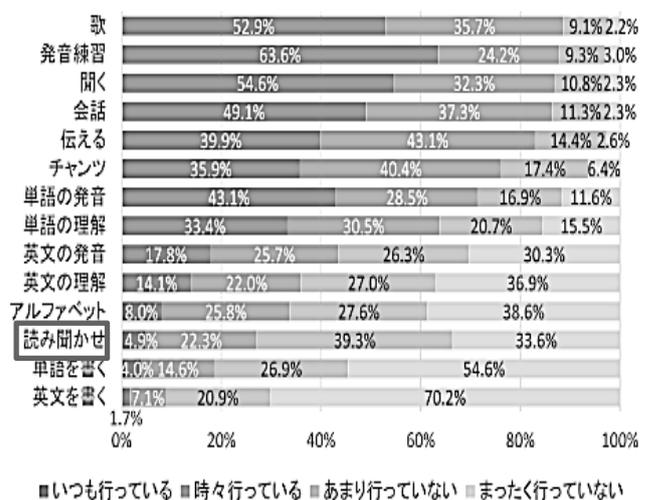


表2 指導学年別で見た授業での活動内容

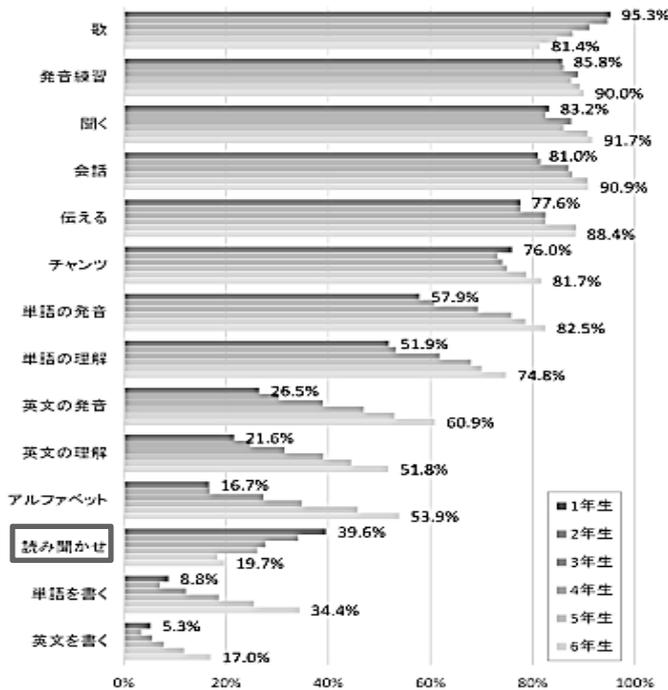


表3 授業内容への要望

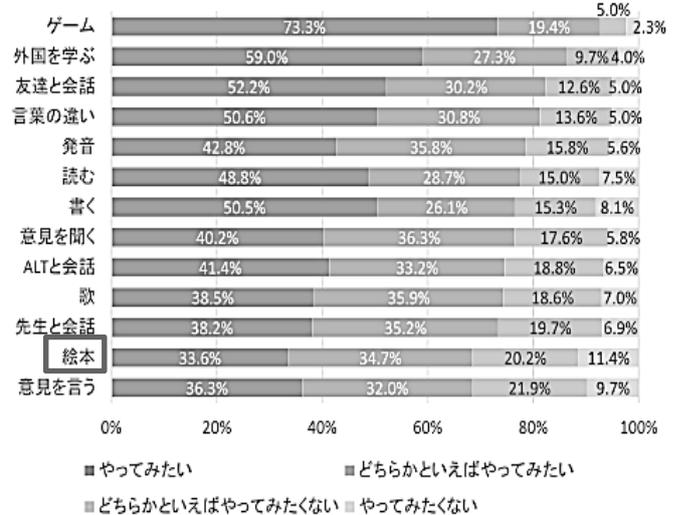


表3は、児童に対する調査「英語の授業の中でやってみようと思うのはどのようなことですか」の結果である。「やってみよう」「どちらかといえばやってみよう」といった肯定的回答の割合が高い順に項目が並んでいる。この結果を見ると、「英語のゲームをすること」が9割を超えているのに対し、「英語の絵本を読んでもらうのを聞くこと」は、肯定的回答が7割以下に留まっていることが分かる。

以上のことから、外国語活動における絵本の活用は有効であるにも関わらず、教師にも児童にも必ずしも肯定的に捉えられていない実態が明らかとなった。

3 教材分析

本研究では、文部科学省作成の絵本「In the Autumn Forest」「Good Morning」を扱う。絵本を扱うにあたって、どのような特徴があるか分析を行った。

(1) 一般的な絵本（ストーリー展開がある絵本）

「Hi, friends!2」Lesson7の「桃太郎」などの一般的な絵本には、起承転結のようなストーリーの展開があることが通常である。そうした絵本では、話の最後に、何か解決されたり、児童が思わず反応するような印象的な結末があったりする。しかし、そういった一般的な絵本は、ストーリー展開が分からなくなるため、児童の実態に合わせて話の一部を省略することは難しく、また、話の展開に面白さがある場合、結末を知ってしまうと、2回目以降読む時に児童が興味・関心をもちづらい場合もある。

(2) 文部科学省作成の絵本教材（繰り返しが多い絵本）

一方、文部科学省作成の絵本教材には、起承転結のようなストーリー展開がなく、繰り返しが多いという特徴がある。そのため、話の一部を省略してもストーリー展開に影響がなく、児童の興味・関心や実態に合わせて単語量などを調整することができる。また、繰り返し似た文章が出てくるため、一部の単語を入れ替えるだけで児童がオリジナルの話を作りやすいという良さがある。

4 開発研究

本研究においては、絵本の効果的な活用に向けた指導の工夫として、次の四つの視点を考えた。一つの単位においてどのように絵本を活用するかという「絵本の活用方法」、絵本をどのように提示するかという「提示の工夫」、読み聞かせを行うときの場はどのように設定するかという「場の工夫」、そして、実際に読み聞かせをする場合に具体的にどう工夫するかという「読み聞かせにおける工夫」の視点である。それらを以下の表のようにまとめ、授業実践において検証し、単元計画の開発を行った。文末の「略称」は、後述の実践事例の中と対応している。

《略称一覧》

記述箇所		略称	記述箇所		略称	
(1) 絵本の活用方法	ア	[活]a 読み聞かせ	(4) 読み聞かせにおける工夫	ア	(ア)	[読]a 推測
	イ	[活]b 表現の活用			①	[読]b 焦点化
	ウ	[活]c 劇化			②	[読]c ジェスチャー
	エ	[活]d オリジナル			③	[読]d 声色
	オ	[活]e 異学年等			④	[読]e 絵カード
		⑤			[読]f 繰り返し	
(2) 工提示の工夫	ア	[提]a 絵本のまま		⑥	[読]g 次頁の展開	
	イ	[提]b 紙芝居		(ウ)	[読]h 振り返り	
	ウ	[提]c ICT				
(3) 工場の工夫	ア	[場]a 机あり		イ	①	[読]i 部分的
	イ	[場]b 机なし	②		[読]j 意図的	
			③		[読]k 隠す	
			④		[読]l 量の調整	

なお本研究においては、これらの工夫を通じて目指す「主体的にコミュニケーションを図る」姿を、「自分から活動相手を探している、アイコンタクトをしたりうなずいたりあいづちをうつなど反応しながら聞いている、言葉が出てこなくてもジェスチャー等で伝えようとしている、相手が困っていたら助けたり教えたりしている。」と捉えて、授業実践を行った。

(1) 絵本の活用方法（一つの単位における活用方法）

ア 読み聞かせ [活]a 読み聞かせ

絵本の読み聞かせを通して、授業で使う重要な言葉や表現について児童の理解を促す。

イ 絵本の中の表現を活用した活動 [活]b 表現の活用

絵本の中に出てきた内容に関するクイズや、出てきた表現を使った対話を行う。

ウ 劇化 [活]c 劇化

物語の一部又は全部を活用した劇を作り、または児童に作らせ、発表させる。

エ 絵本にある台詞以外の台詞やオリジナルのストーリー作り [活]d オリジナル

絵本を参考に、他に考えられる台詞や続きの話を児童に考えさせ、発表させる。

オ 異学年等の活用 [活]e 異学年等

他の集団、例えば異学年へ読み聞かせるというゴールを設定することで、児童の意欲を喚起する。

(2) 提示の工夫

絵本の提示に当たっては、次の三つの方法が考えられる。

ア 絵本をそのまま提示する。[提]a 絵本のまま

イ 絵本を大きく印刷して、紙芝居形式に提示する。[提]b 紙芝居

ウ ICT機器を活用して大画面で提示する。[提]c ICT

	提示の工夫	メリット	デメリット
ア	絵本をそのまま提示する。	<ul style="list-style-type: none"> 仕掛けがある絵本や大型絵本は、そのまま活用できる。 提示に向けて、特に教師の作業を必要としない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本を持っているため、教師がジェスチャー等を示しにくい。 絵や文字が小さく、後方の座席の児童には見にくい場合もある。
イ	絵本を大きく印刷して、紙芝居形式で提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本よりも大きいため、児童が絵を見やすい。 読み聞かせだけでなく、黒板に貼るカードとしても活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を持っているため、教師がジェスチャー等を示しにくい。 教師の作成作業が必要である。 絵の大きさによっては後方の座席の児童には見にくい場合もある。 元々の絵本に仕掛けがあった場合、同じように再現できないことがある。
ウ	ICT機器を活用して大画面で提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室全体の児童が座席に座った状態で見ることができる。 自動再生や効果音など、機器の特性を生かした読み聞かせができる。 教師が必要に応じて、ジェスチャーなどができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 機器の接続等に、時間を要することがある。 機器の動作の不具合があることがある。 画面が反射等、見にくい場合がある。 元々の絵本に仕掛けがあった場合、同じように再現できないことがある。

(3) 場の工夫

絵本の提示の工夫と関連して、読み聞かせ時の場の工夫が考えられる。児童にとって、通常の教科等の授業と同様の座席配置で聞くのと、教師の近くに集まって聞くのとでは読み聞かせの効果が異なると考えられる。そこで次の2点について、その効果等をまとめた。

ア 机あり形式 [場]a 机あり

イ 机なし形式 [場]b 机なし

	場の工夫	メリット	デメリット
ア	机あり形式 (通常の教科等の授業形式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は決まった席に座っているため、通常の授業と同じ気持ちで安定して活動に臨むことができる。 ・教師にとって、児童集団をコントロールしやすい。 ・座席の移動時間を省くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師との距離が近い児童と遠い児童とで、読み聞かせの効果に差が生まれる。 ・教室後方の座席の児童にとっては、絵本が見にくい場合、集中力の持続が難しく、絵本の世界に集中しにくい。
イ	机なし形式 (教師の近くに児童を集める) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を読み聞かせにふさわしい心構えに切り替えることができる。 ・絵本との距離が物理的に近く、児童は絵本の内容に集中しやすい。 ・児童との距離が物理的に近いと、教師は児童から様々な発言を引き出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学習環境と異なっており、また児童相互の接触が多くなるため、読み聞かせに集中しにくい場合も想定される。 ・自席を離れることによって、一部の児童が興奮し、集団のコントロールが難しくなることがある。 ・座席の移動に時間がかかる。

(4) 読み聞かせにおける工夫

ア 初めて読む絵本の場合

(ア) 読み聞かせを行う前の工夫

- ・児童を絵本にひき込みやすい状況作り **[読]a 推測**

児童を絵本の世界にひき込むため、絵本の読み聞かせを行う前に、児童に絵本の表紙を見せて内容を推測させたり、関連する写真や絵を見せたり、絵本に関することを質問したりする。

(イ) 読み聞かせを行っている途中の工夫

- ① 絵を指す。 **[読]b 焦点化**

注目させたい登場人物や物を指して焦点化することで、児童に着目させる。

- ② ジェスチャーを見せる。 **[読]c ジェスチャー**

通常、絵本で動きを示すことはできないが、児童の理解を促すため、例えば動物の絵本を用いた場合、必要に応じて動物の動きをジェスチャーで示す。

- ③ 声色、声の調子、速さや大きさを変える。 **[読]d 声色**

児童の興味を喚起するため、絵やストーリーに合わせて、登場人物の声色を変えた

り、読む速さや大きさを変えたりする。

④絵カードを示す。【読】e 絵カード

必要に応じて、絵本と同時に絵カードを示すことにより、児童の理解を助ける。例えば、曜日とともにストーリーが展開する『The Very Hungry Caterpillar（はらぺこあおむし）』を用いる場合、ページをめくる度に、黒板に貼った曜日の絵カードを示す。

⑤繰り返し出てくる表現を言わせる。【読】f 繰り返し

児童に意欲的に読み聞かせに参加させるため、絵本に繰り返し出てくる表現を、途中から児童に言わせたり、ジェスチャーも加えて言わせたりする。

⑥次の展開を予想させる。【読】g 次頁の展開

児童が主体的に考える場面を設定するため、次のページをめくる前に、次に出てくる動物などを予想させたり、次のページを少しずつめくって当てさせたりする。

(ウ) 読み聞かせを行った後の工夫

・物語の内容について質問し、内容を振り返る。【読】h 振り返り

読み終わった後に、「どんな動物がいましたか？」などと尋ね、内容を想起させる。

イ 既に読んだ絵本を繰り返し読み聞かせる場合

①部分的に読み聞かせる。【読】i 部分的

毎回必ず絵本全部を読む必要はないことから、児童の理解度に合わせて、途中で終えて次の授業においてその続きから読んだり、児童の興味が特に高かった部分のみを読み聞かせたりする。

②意図的に間違えて読む。【読】j 意図的

一度読んだ本は、児童も内容を覚えていることが多い。児童の興味関心を維持するため、登場人物や内容・重要なキーワードについて、意図的に読み間違えて児童に訂正させる。

③絵を隠す。【読】k 隠す

児童の興味・関心を高め、児童からの発話を引き出すため、付箋や小さな画用紙で着目させたい部分を事前に隠して読み聞かせを行ったり、次のページを一瞬だけ見せてまた隠したりする。

④児童に言わせる分量を増やしていく。【読】l 量の調整

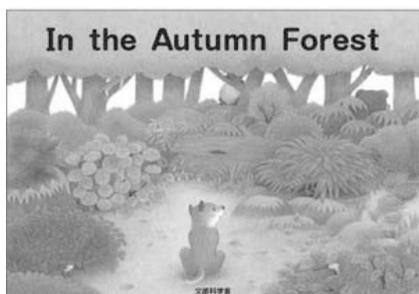
絵本で繰り返し使われる表現を読む前に、意図的に間をおくことで、児童から重要な表現を引き出す。最初は表現の一部、単語での発話であっても、児童が慣れてきたら、表現全体を文で言うよう促していく。

【実践事例 1】

1 単元名 Who are you? ～ “In the Autumn Forest” ～

2 教材観

「In the Autumn Forest」
(第3学年用)



秋の森の中で動物たちがかくれんぼをして遊んでいる場面を扱っています。オニの犬 (dog) は、森の中で隠れている動物の体の一部を見て、“I see something…”と言います。そして、何の動物かを推測して“Are you a…?”と言いながら、動物を次々に見つけていきます。見つかった動物は、それぞれの特徴を踏まえた話し方（イントネーション、リズム、ピッチ）で、見つかってしまった自身の体の部位を言い、自身を紹介しています。

(「次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成補助教材等について (文部科学省 平成 28 年 11 月)」より)

本単元は、文部科学省より配布された補助教材「In the Autumn Forest」を活用する単元である。本教材は、様々な動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現を用いて、相手のことについて尋ねたり、自分のことについて話す表現に慣れ親しんだりするとともに、日本語と英語の音声の違いに気付き、積極的に自分のことについて伝えようとすることをねらいとしている。本単元で扱う語彙や表現は、全て新出表現であり、児童にとって初めて触れる表現となるため、インプットを丁寧に行い、十分に慣れ親しませるようにしたい。また、「繰り返し読んでも飽きがこない。」「繰り返し似た文章が出てくるため、一部の単語を入れ替えるだけで児童がオリジナルの話を作りやすい。」という利点を生かした活動を工夫する。

3 研究主題・開発内容との関連

(1) 絵本の活用方法

本単元では、児童が相手意識をもって主体的に活動することができる単元構成を考えた。「In the Autumn Forest」の絵本に載っている動物やその特徴などに慣れ親しんだ後、終末の活動として、2年生に絵本の読み聞かせを行う。その際、絵本の中から自分が読みたい場面を選んだり、自分で考えた話を取り入れたりすることで、相手に自分が考えたことを伝えたいという意欲につながると考える。また、低学年児童と交流することを単元のゴールに設定することで、下級生を楽しませたいという目的意識をもたせ、意欲を持続させることも目指す。その際、絵本を参考にして他に考えられる台詞を考えさせる。

(2) 提示の工夫

本単元では、ICT機器及び紙芝居の二つの方法を併用して提示を行う。

第1時の導入においては、ICT機器を用いて、鳴き声や効果音が入るデジタル教材を視聴させることによって、本単元への興味・関心を高める。そして、絵本の内容が捉えやすいよう動物が隠れているところを指したり、鳴き声を真似て児童と一緒に絵本を楽しむ雰囲気をつくるようにする。第2時・3時では、紙芝居形式で読み、ジェスチャーなどの

相手に伝えるための表現の工夫を見せることで、第5時で児童が2年生に読み聞かせる活動への見通しをもたせる。

第4時は、教師が児童と一緒に読む。学級を半分に分け、犬の台詞とその他の動物の台詞とに分けて読ませたり、グループごとに1ページずつ読ませたりする。単元を通して児童に読ませる分量を増やしていき、第5時での読み聞かせに自信がもてるようにする。

(3) 場の工夫

本単元では、ペアやグループでのアクティビティにスムーズに移ることができるよう、机あり形式で読み聞かせを行う。

(4) 読み聞かせにおける工夫

「In the Autumn Forest」の絵本には、児童が聞き慣れている動物が多く登場するが、形容詞などの初めて触れる語彙や表現もたくさん出てくる。児童が、分からないことに不安を感じたり、分からないことで意欲が途切れてしまったりすることのないよう、絵本をそのまま読むのではなく、児童と対話をしながら読み聞かせるようにする。その際、児童の反応を見ながら、毎時間読み聞かせの工夫を行っていく。

4 単元の指導目標

- (1) 動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現を用いて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- (3) 動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現について、日本語と英語の音声の違い等に気付く。(言語や文化に対する気付き)

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度【関】	外国語への慣れ親しみ【慣】	言語や文化に対する気付き【気】
<ul style="list-style-type: none"> ・動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現を用いて、積極的にクイズに答えたり友達に尋ねたりしている。 ・2年生に絵を見せながら、そこに出てくる動物やその特徴を表す表現を用いて読み聞かせをすることを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に出てくる動物や身体の一部、形容詞等の語彙や表現に慣れ親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物、身体の一部、色や形などの形容詞の発音が、英語と日本語とでは違うことに気付いている。

6 言語材料

(1) 表現

Are you a ~? Yes, I am. I' m a ~. I see something ~. Who are you?

(2) 語彙

動物 (dog/rabbit/monkey/bear/mouse/snake/sparrow/fox/turtle/raccoon/cow/cat/horse/tiger/pheasant/wild boar/sheep/chicken/crane/crab/dragon)

形容詞(white/black/big/small/long/short/triangular/oval/round/square/shiny/
cute/scary)

身体の部位(ears/eyes/head/nose/body/legs/face/back/stomach/bottom/teeth/paw/
mouth)

7 単元計画 (5時間扱い)

<p>目標 (◆) と主な活動 (○)</p>	<p>★指導の視点 略称 ・指導上の留意点 ◎評価 (方法)</p>
<p>【第1時】◆絵本の読み聞かせやゲームを通して、英語の音声やリズムが日本語と違うことに気付くとともに、絵本に出てくる動物の言い方に慣れ親しむ。</p> <p>○絵本「In the Autumn Forest」の読み聞かせを聞く。 ・どんな話なのか、どんな動物が出てくるのかを想像しながら聞く。</p> <p>○出てきた動物を絵カードで確認する。</p> <p>○出てきた動物を表す語彙を用いて、キーワードゲームをする。 ・ペアになり、二人の間に消しゴムなどを置く。教師が言う単語を全員で繰り返すが、キーワードが出たら繰り返さずに消しゴムを取る。キーワードを変えて何度か行う。</p> <p>○動物じゃんけんをする。 ・ペアでじゃんけんをして、勝つと次の動物になる。最後までいったら、教師とじゃんけんをする。</p> <div data-bbox="165 1581 772 1711" style="text-align: center;"> </div>	<p>★表紙の画像や題名から内容を推測させ、絵本への関心を高める。[読]a 推測</p> <p>★デジタル教材を視聴させる。[提]c ICT</p> <p>★教師は、動物が隠れているところを指して絵本の内容が捉えやすいようにしたり [読]b 焦点化、鳴き声を真似て児童と一緒に絵本を楽しむ雰囲気をつくったりする。 [読]c ジェスチャー</p> <p>★どんな動物が出てきたかを尋ねて物語の内容を振り返る。[読]h 振り返り [読]e 絵カード</p> <p>★[活]b 表現の活用</p> <p>◎英語の音声やリズムなど、日本語との違いに気付いている。【気】(行動観察、振り返りカード)</p> <p>・慣れてきたら、ボランティアの児童に教師役をさせてもよい。</p> <p>★[活]b 表現の活用</p> <p>◎ゲームを通して、動物の名前を聞いたり言ったりしている。【慣】(行動観察、振り返りカード)</p>
<p>【第2時】◆絵本の読み聞かせやゲームを通して、動物や身体の部位の言い方に慣れ親しむ。</p> <p>○絵本にどんな動物が出てきたかを思い出す。</p> <p>○絵本「In the Autumn Forest」の読み聞かせを聞く。 ・身体の部位を表す言葉に注意して聞く。</p>	<p>★身体の部位を表す言葉に注目しながら紙芝居形式で、絵本を読み聞かせる。[活]a 読み聞かせ [提]b 紙芝居</p> <p>★次にどんな動物が出てくるかを予想させたり、次のページを一瞬めくって児童に当てさせたり</p>

<p>○歌「Head, Shoulders, Knees and Toes」を歌い、身体の部位の言い方を確認する。</p> <p>○タッチングゲームで身体の部位の言い方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉“Touch your ～.”を聞いて、児童は指示された自分の身体の部位に触る。 <p>○絵カードを使ってマッチングゲームを行い、絵本に出てきた動物と身体の部位とを結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が“Oh, my head.”と身体の部位を言い、児童はその特徴に合う動物“Bear!”と言いながら絵カードを取る。 	<p>することで、絵本の世界に引き込む。【読】g 次頁の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、ジェスチャーや黒板の絵カードを指してヒントを示す。 <p>★身体の部位を表す言葉を絵本に出てきた動物と結び付けて確認することで、児童の理解を深める。【活】b 表現の活用 【読】h 振り返り</p> <p>◎ゲームや歌を通して、身体の部位とその言い方を一致させている。【慣】(行動観察、振り返りカード)</p>
--	---

【第3時】◆ゲームを通して、様子や形状を表す形容詞の言い方に慣れ親しむ。

<p>○動物の体の部位の言い方を思い出す。</p> <p>○絵本「In the Autumn Forest」の読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子や形状を表す言葉に注目しながら聞く。 ・読めるところは声に出して読む。 <p>○ジェスチャーをしながら、様子や形状を表す言葉の意味と発音を知る。</p> <p>○動物の絵カードとその特徴を表す言葉の絵カードとを結び付ける。</p> <div data-bbox="263 1444 502 1646" style="text-align: center;"> </div> <p>○動物とその特徴を表す形容詞のマッチングゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が“I see something <u>long</u>.”と、絵本に出てくる動物の特徴を言い、児童はその特徴に合う動物を声に出して言いながら絵カードを取る“Snake!”。 <p>○タッチングゲームで形容詞の言い方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が“I see something <u>white</u>.”と言ったら、児童はその特徴に合う物を教室内から探してタッチする。 	<p>★紙芝居形式で、様子や形状を表す言葉に注意して読む。【提】b 紙芝居 【活】a 読み聞かせ</p> <p>★表情やジェスチャーをつけたり、声の調子や速さなどの話し方を工夫したりする。</p> <p>【読】c ジェスチャー 【読】d 声色</p> <p>★絵の一部を隠したり、重要な表現の手前で間をおいて、児童からキーワードを引き出すなどして、児童と一緒に読み進める。</p> <p>【読】k 隠す 【読】l 量の調整</p> <p>★様子や形状を表す言葉を、絵本に出てきた動物と結び付けて確認することで、児童の理解を深める。【活】b 表現の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えたジェスチャーを認め称賛することで、ジェスチャーを付けて表現することの良さや楽しさに気付かせる。 <p>★【活】b 表現の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師はゲームでもジェスチャーをしながら言うことで、児童が言葉と意味を結び付けやすいようにする。 <p>★【活】b 表現の活用</p> <p>◎英語の音声やリズムなど、日本語との違いに気付いている。【気】(行動観察、振り返りカード)</p> <p>◎様子や形状を表す言葉を聞いたり言ったりして、その意味と言い方を一致させている。【慣】(行動観察、振り返りカード)</p>
--	---

【第4時】◆2年生への読み聞かせに向けて、絵本の中から読みたい場面を選び、2年生に伝わるように読み聞かせの工夫を考える。

○絵本「In the Autumn Forest」を読む。
 ・犬の台詞とその他の動物の台詞とに分かれて読んだり、班ごとに1ページずつ読んだりする。

○絵本に出てきた動物と、連想する身体の部位や形容詞を結び付けるマッチングゲームをする。
 ・動物の絵カードを1枚引き、その動物から連想するものを順番に言う。
 rabbit →white, ears, carrot, cute…

○班の中で、読みたい場面を分担し、伝わりやすくする工夫や楽しませる工夫を考えながら練習する。
 ・ジェスチャーをしたり、絵を指し示したりする。
 ・声色を変えたり鳴き声を真似たりする。
 ・犬役とその他の動物役に分かれて読む。
 ・絵本に出てきた表現を用いて、絵本の話を作る。
 ・絵本の絵や内容からクイズを考える。

★紙芝居形式で児童と一緒に読む。[提]b 紙芝居
 ★学級を半分に分け台詞を分けて読ませたり、班ごとにページを分担して読ませたりして、児童に読ませる分量を増やす。[読]1量の調整
 ★絵本に繰り返し出てくる表現を児童に言わせる。
 [読]f 繰り返し

★[活]b 表現の活用
 ◎動物から連想する身体の部位や形容詞を友達に伝えている。【関】(行動観察)

・全て読まなくてもよいことを伝え、児童が無理なく自信をもって読めるようにする。
 ・教師の読み聞かせを想起させ、伝わりやすくする工夫を考えさせる。
 ・児童が考えた工夫を認め称賛することで、読み聞かせへの意欲につなげる。

★[活]b 表現の活用 [活]d オリジナル
 ◎絵本に出てきた語彙や表現を用いて、話を考えたり、読み方を工夫したりしている。【関】(行動観察、ワークシート)

【第5時】◆2年生が楽しめるように工夫しながら、読み聞かせをする。

○絵本「In the Autumn Forest」を読む。
 ・自分が選んだ場面になったら立って読む。ジェスチャーなどの工夫もしながら読む。

○グループ内で話し手と聞き手とに分かれて、読み聞かせを練習する。

A: (絵を見せながら)
 1, 2, 3…Ready or not, here I come!
 I see something white. Are you a …?
 (画用紙をめくり)
 Oh, my ears! Yes, I am. I’ m a rabbit.

B: 2年生になったつもりで聞く。
 ・良かったところを伝えたり改善に向けた助言をしたりする。

○絵を見せながら、2年生に自分が選んだ絵本の場面の読み聞かせをする。

★紙芝居形式で児童と一緒に読む。[提]b 紙芝居
 ★自分が選んだ場面になったら立ち上がって、教師と一緒に読ませる。一人ではなく複数の児童で読ませることで、自信をもって言えるようにする。[読]1量の調整

★自分が読みたい場面を選び、2年生に読み聞かせる活動を設定することで、相手に伝えたい、下級生を楽しませたいという意欲につなげる。
 [活]d オリジナル [活]e 異学年等

・自分が考えた読み聞かせの工夫を相手に伝え、それができているかを助言し合わせる。

◎相手に伝わるように工夫しながら読み聞かせをしている。【関】(行動観察、振り返りカード)

【実践事例 2】

1 単元名 This is my day. ～“Good Morning”～

2 教材観

「Good Morning」

(第 4 学年用)



ブラジルに住む友達に自分の一日の生活を紹介するという設定で、和（かず）という名の男の子が、朝起きて、寝るまでのある一日の生活を扱っています。この話に加えて、サブストーリーも展開されています。朝、目覚めた男の子の背景にあるカレンダーには、猫が四匹います。しかし、絵本をよく見ていくと、一匹の猫がカレンダーから飛び出し、男の子の後を追いかけて学校に行ったり、公園で遊んだりしています。このように絵本を用いることで、現実では起こりえないファンタジーの世界に子供たちを導き、豊かな想像力をかき立てます。また、31 ページのカレンダーの猫も、動き出しています。この猫がこの後どうするかを子供たちと考えて、この物語の続きを作ってみるのも、この絵本を楽しむ工夫の一つです。

(「次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成補助教材等について (文部科学省 平成 28 年 11 月)」より)

「Good Morning」には和という主人公の少年の日常生活が描かれている。児童は、主人公の一日を通して、自分の生活を想起したり、家族や友人の生活について興味をもつきっかけとしたりすることができる。自分の日常生活は誰かに伝えたくなり、人の生活については聞きたくなる。コミュニケーションに不可欠な必然性が設定されている絵本教材であると言える。扱っている文章や単語も日常生活の中から取り出しているのも、児童にとっては想像しやすいものになっており、親しみやすく扱うことができる。

またこの絵本教材には、「話の途中を抜かしたり、途中で読むのを止めたりしてもストーリー展開に影響がない」という特徴がある。この利点を生かし、第 1 時から第 3 時は吹き出しの部分を読まず、最後の読み聞かせで初めて吹き出しの部分を読み聞かせを行うことで、児童の興味を継続させるとともに、扱う文章や言語の量を児童に合わせて調節する。

3 研究主題・開発内容との関連

(1) 絵本の活用方法

本単元では、児童が相手意識をもって主体的に活動することができる単元構成を考えた。絵本「Good Morning」から、自分の日常生活を振り返り、自分の生活を他の人に伝えたいという気持ちを高める。さらに英語を使って自分の生活の様子（オリジナル・シーン）をクラスメートに伝えようという目的を設定し、児童が主体的に活動できるようにする。

(2) 提示の工夫

本単元では、ICT 機器及び紙芝居の二つの方法を併用して提示を行う。第 1 時は紙芝居形式で導入し、第 2 時、第 4 時は、ICT で提示をする。

特に第4時は、前時までの学習の積み重ねから、児童が絵本の内容を全て理解できていると考えられることから、単元のまとめとしてデジタル絵本を活用し、絵本の全ての内容を様々な音声とともに示し、絵本の世界を楽しむことができるように配慮する。

(3) 場の工夫

本單元では、机なし形式で読み聞かせを行い、「児童と絵本との距離が物理的に近く、児童は内容に集中しやすく、「教師は児童から様々な発言を引き出しやすい」という利点を生かし、その後の活動につなげていく。

(4) 読み聞かせにおける工夫

日常生活が描かれている「Good Morning」は、自分だけでなく、家族や友人の生活にも思いを馳せることができる絵本教材である。自分のことに置き換えた日常生活は誰かに伝えたいものである。児童は自分の生活について伝えたり、友達の生活について聞いたりしたくなることが想定される。そこで、児童が自らの日常生活を想起できるよう、児童と丁寧に対話をしながら読み聞かせするようにする。その際、児童の反応を見ながら、読み聞かせの工夫を行っていく。

4 単元の指導目標

- (1) 相手に伝わるように工夫しながら、画用紙等に自分の日常生活をまとめ、人に伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 日常生活の動作動詞、日常生活の身の回りの物や場所等の語彙や表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- (3) 絵本などの短い話を聞いて、日本語と英語の音声の違い等に気付く。(言語や文化に対する気付き)

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度【関】	外国語への慣れ親しみ【慣】	言語や文化に対する気付き【気】
<ul style="list-style-type: none"> ・自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、尋ねたり答えたりしようとしている。 ・相手に伝わるように工夫しながら、画用紙等に自分の日常生活をまとめ、自分で考えた話を伝えようとしている。 	<p>日常生活の動作、日常生活の身の回りの物や場所等の語彙や表現に慣れ親しんでいる。</p>	<p>絵本などの短い話を聞いて、日本語と英語の音声の違い等に気付いている。</p>

6 言語材料

(1) 表現

I wake up at ～. I have breakfast at ～. I go to school at～.
 I do my homework at ～. I finish my dinner at ～. I take a bath at～.

(2) 語彙

動作（上記表現文の動詞）

身の回りのもの（clock/desk/chair/calendar/mirror/six forty five/cup/towel/

cat/socks/handkerchief/belt/robot/glove/rice/egg/water/salt/
pepper/park/mailbox/rope jumping/shower/letter/dream)

7 単元計画（4時間扱い）

<p>目標（◆）と主な活動（○）</p>	<p>★指導の視点 略称 ・指導上の留意点 ◎評価（方法）</p>
<p>【第1時】◆絵本の読み聞かせやゲームを通して、英語の音声やリズムが日本語と違うことに気付くとともに、絵本に出てくる動作や生活に必要な時間の言い方に慣れ親しむ。</p>	
<p>○絵本「Good Morning」の読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居での読み聞かせを聞き、質問やクイズに答えたり、気付いたこと等について発表したりする。 ・内容や、次の展開を予測する。 ・読み聞かせが終わったら、その内容に関する質問やクイズに答える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>Good Morning</p>  <p>I do my homework.</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>Good Morning</p>  <p>I finish my dinner.</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>Good Morning</p>  <p>I go to school.</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>Good Morning</p>  <p>I take a bath.</p> </div> </div> <p>○新出単語を知る。 紙芝居の絵を見ながら、新出単語を繰り返すなどして、音声や言い方に慣れる。</p> <p>○ひらめきクイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、何度も繰り返し発話することで、単語に慣れ親しむ。 ・提示された絵カードの単語を先に言った方が1点獲得となる。 ・まず日本語で行い、慣れてきたら英語で行う。 <p>○かるたゲームを行う。 グループごとにかるたを行い、動作や日常生活に関する語彙に慣れ親しむ。</p>	<p>★紙芝居形式で読み聞かせを行う。 [提]b 紙芝居</p> <p>★紙芝居を一枚ずつめくりながら児童からの気付きを集め、全体で共有していく。児童の気付きを大切にしながら、見えたものや分かったことなどを発表させ、絵本への興味・関心を高める。</p> <p>[場]a 机あり</p> <p>★どのような内容なのか、また次にどんな生活が出てくるかを予想させたり、次の紙芝居を一瞬見せて児童に当てさせたりすることで、絵本の世界に引き込むようにする。 [読]a 推測 [読]g 次頁の展開 [読]k 隠す</p> <p>★ジェスチャーをつけたり、声の調子や速さなどを工夫したりすることで、児童の理解を助ける。 [読]d 声色 [読]c ジェスチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理に急いで読まず児童の反応を見ながら読み進める。 <p>★読み聞かせ後に、絵カードを示して内容等について尋ねたり、クイズを行ったりして、内容を想起させる。 [読]h 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居（絵カード）を活用し、一般動詞に注目させて、単語を導入する。 <p>◎英語の音声やリズムなど、日本語との違いに気付いている。【気】（行動観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらめきクイズでは、答えようとする姿勢をほめ、児童の意欲を喚起する。 ・かるたゲームでは、絵本をかるたサイズに印刷したものを、グループ数分用意しておく。 ・勝ち負けにこだわらず全員が参加できるように促す。 <p>◎楽しみながら、日常生活の動作、身の回りの物や場所等の語彙や表現に慣れ親しんでいる【慣】（行動観察）</p>

【第2時】◆絵本から自分の生活を想起し、自分が紹介したい生活場面（オリジナル・シーン）を選ぶ。

○新出単語を復習する。

「Good Morning」
日常生活を英語で紹介しよう

○発表・読み聞かせのポイント オリジナル・シーンを作って発表しよう。

① Clear voice		I wake up ~.
② Slowly		I have breakfast ~.
③ Heart	<input type="text"/>	I go to school ~.
	<input type="text"/>	I do my homework ~.
	<input type="text"/>	I finish my dinner ~.
		I take a bath ~.

○絵本の中から、自分の生活に置き換えてどの場面を紹介したいかを定める。(3、4場面が適当)

- ・用意された絵本の場面を組み合わせ、自分の生活として紹介できるようにする。
- ・絵の色を塗るなどの作業が終わったら、自分の生活を紹介しまする文を練習する。

○何人かの友達に、自分の生活場面を紹介する。
紹介できたらサインをもらう。

○デジタル絵本を使った読み聞かせを聞く。
・内容に関する、英語での質問に答える。

・復習に当たっては、フラッシュカードを活用するだけでなく、ひらめきクイズ、かるたなど前時で行った活動を短時間でそのまま行う。

・第4時に、「自分の生活を、クラス全体の前で紹介する」活動を行うことを提示する。自分のことなので意欲も高まる。【活】b表現の活用

・児童に、紹介したい自分の生活場面を3、4場面選択させる。その際、同じ場面に集中することがないように配慮する。

・教室前方に、絵本の生活場面の絵を、複数用意し、児童が選べるようにする。

★自分の生活経験等を振り返らせて、紹介したい生活場面を決めさせる。【活】dオリジナル

・児童の負担に配慮し、1場面のみで紹介でもよいことにする。

◎できるだけたくさんの人とサイン集めを行い、繰り返し発話し、日常生活に関する語彙や表現に慣れ親しんでいる。【慣】(行動観察)

★ICT機器を活用し、デジタル絵本を大きく提示する。デジタル音声に合わせて、教師が注目させたいものを指して焦点化し、音声と内容を結びつける。【読】b焦点化 【提】c ICT

・”What’s this?”等、できるだけ英語の既習表現を活用してやりとりを行う。

【第3時】◆オリジナル・シーンを紹介する表現等に慣れ親しむ。

○絵本「Good Morning」の読み聞かせを聞く。
第1時・第2時とは違い、何に気を付けて読み聞かせを聞くかを考えさせ、確認してから読み聞かせを聞く。(音量、表現、強弱など)

○同じ生活場面を選んだ児童がグループになり、お互いの紹介を練習し、聞き合う。

- ・各グループで、何に気を付けて紹介するかを決めて練習をする。
- ・友達の発表を聞き、感想やよかった点、改善点などを伝える。

○良かった点や反省点を書き出して、次時の発表に向けて自分の目標を立てる。

★重要な表現の手前で間をおいて児童からキーワードを引き出すなどして、少しずつ児童に読ませる分量を増やしていく。【読】i量の調整

【読】d声色

★登場人物や内容・重要なキーワードを教師が意図的に間違えることで、児童に訂正させ、読み聞かせへの集中を維持する。【読】j意図的

★同じ生活場面を紹介することで、表現の仕方の違いにも気付かせる。【活】b表現の活用

・他の人の紹介を聞いて、自分と比べて自分の紹介の改善を図るよう助言する。

◎相手に伝わるように工夫しながら、自分の日常生活をまとめた絵を活用して、自分の日常生活について伝えようとしている。【慣】(行動観察)

【第4時】◆オリジナル・シーンをクラスの友達に紹介する。

<p>○オリジナル・シーンの紹介練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・発表に向けて、一人又はペアで前回立てた目標を確認しながら、練習をする。 <p>○オリジナル・シーンをクラスの前で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none">・聞いている児童は、発表について質問したり、良かった点をコメントに書いたりする。・書いたコメントを発表者に渡し、発表者は自分の発表の良かった点を振り返る。 <p>○絵本単元のまとめとして、デジタル絵本を活用し、効果音や吹き出しの部分も全て聞いて絵本の世界を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none">・新たな発見ができるように、注意して絵本を見るときともに読み聞かせを聞く。	<p>◎相手に伝わるように工夫しながら、意欲的にオリジナル・シーンを紹介している。【関】（行動観察、ワークシート）</p> <p>◎自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、尋ねたり答えたりしようとしている。【関】（行動観察）</p> <p>★まとめの読み聞かせとして、デジタル絵本を活用し、今まで示していなかった効果音や吹き出しの部分も聞かせて、絵本全体の世界を楽しませる。[提]c ICT [活]b 表現の活用 [場]b 机なし</p>
---	--

IV 研究のまとめ

1 成果

(1) 絵本の効果的な活用に向けた指導における、四つの視点の検証

授業実践を通して、絵本の効果的な活用に向けた四つの視点とそれぞれの工夫の検証を行った。これら視点を明確にして指導の工夫を行ったところ、それぞれ児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿を見ることができた。

実践事例1では、低学年に読み聞かせをするという活動を単元のゴールに設定することで、児童は絵本や自分の考えたストーリーを2年生に伝えることを意識して、表現に慣れ親しもうとしていた。読み聞かせに関する自己評価を3点満点で数値化したところ、第1回の平均1.43点から徐々に高まり、第5回は平均2.6点となった。このことから、視点を明確にして、指導の工夫を行い、児童の興味に合わせて活動を設定することで、児童は表現に慣れ親しみ、読み聞かせに対する自信を深めていたと言える。単元の最後には2年生への読み聞かせ活動を設定したが、児童自ら、2年生に伝わりやすくしたり楽しませたりするための工夫を実践する姿が見られた。ジェスチャーや物を指し示す、絵の一部を隠すなど、授業の中で教師が行っていた読み聞かせの工夫を取り入れ、なんとか2年生へ伝えようとする姿が見られた。また、絵本を読み聞かせた後も、絵本の内容に関するクイズを出したり、動物を英語で何と言うかを教えてあげたりするなど、英語を使ってすすんでコミュニケーションを図る姿が見られた。

実践事例2では、提示の工夫として、ICTや読み聞かせを授業ごとに意図的に使い分け、また読み聞かせを、導入またはまとめの活動として設定した。また、身近な自らの生活について取扱い、クラスの友達に紹介するという活動を設定した。こうした工夫を通し

て、児童の振り返りカードには「学級みんなの生活時間が分かってよかった。他の学級の人の生活時間を知りたいと思った。」「家で練習していたら、お母さんにほめられてうれしかった。」との記述が見られ、学びへの意欲が喚起されたことが分かる。このことから、絵本の活用方法を工夫することで、多様な活動に発展させることができることが分かった。

(2) 絵本単元の単元計画の開発

本研究においては、一般的な絵本と文部科学省作成の絵本教材との違いを明確にした。

イラストが可愛らしく同じ表現が繰り返されている「In the Autumn Forest」、身近な生活場面を扱っており、児童にとって親しみやすい「Good Morning」は、どちらも児童の実態や興味に合わせて表現を限定して活用することができ、また単語の一部を入れ替えるだけで容易にオリジナルのストーリーを作ることができるため、児童が自信をもって意欲的に活動に取り組んでいた。

その上で、文部科学省作成の絵本教材のそれぞれの良さを生かし、実践事業で検証した指導の工夫の視点を加えた詳細な単元計画を開発した。

2 課題

(1) 教材・教具の整備

本単元の指導に当たっては、デジタル教材の画像をスキャナーで取り込み、拡大して、紙芝居やかるたカードを作成した。学級担任が日常の指導の中で絵本教材を扱うことができるよう、児童用冊子や絵カード等の教材・教具を整備していく必要がある。

(2) 未検証の指導の工夫についての検証

本研究で示した様々な指導の工夫について、実践授業において検証したが、例えば劇化のように、今回検証を行っていないものもある。そこで、今後引き続き検証を行う必要がある。また、文部科学省作成の絵本以外での、指導の視点の有効性についても、検証をすすめることが必要である。

平成 29 年度研究開発委員会（小学校）名簿

小学校国語研究開発委員会

委員長	葛飾区立清和小学校	校長	朴木 一史
委員	台東区立千束小学校	主任教諭	安河 努
委員	中野区立平和の森小学校	主任教諭	松本 匡広
委員	練馬区立立野小学校	主幹教諭	河又 学
委員	調布市立富士見台小学校	主任教諭	田中 里香
委員	西東京市立田無小学校	主任教諭	秦 美穂
[担当] 東京都教職員研修センター研修部教育開発課 統括指導主事 野澤 一代			

小学校社会研究開発委員会

委員長	世田谷区立等々力小学校	校長	月岡 正明
委員	新宿区立愛日小学校	主幹教諭	田中 かおり
委員	江東区立明治小学校	主任教諭	柳沼 麻美
委員	世田谷区立北沢小学校	主幹教諭	田内 利美
委員	世田谷区立経堂小学校	指導教諭	横田 富信
委員	板橋区立板橋第十小学校	主任教諭	木本 武志
[担当] 東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 秋田 博昭			

小学校算数研究開発委員会

委員長	大田区立赤松小学校	校長	茂呂 美恵子
委員	江東区立豊洲北小学校	主幹教諭	浅見 朝枝
委員	大田区立赤松小学校	主幹教諭	折田 和宙
委員	杉並区立荻窪小学校	主幹教諭	清原 正之
委員	青梅市立若草小学校	主幹教諭	蓮尾 幸枝
委員	国立市立国立第四小学校	主幹教諭	羽下 哲朗
[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 吉田 博			

小学校理科研究開発委員会

委員長	江戸川区立西一之江小学校	校長	林田 篤志
委員	大田区立清水窪小学校	主任教諭	須藤 好恵
委員	中野区立上鷺宮小学校	主幹教諭	藤本 康史
委員	昭島市立拝島第一小学校	主任教諭	蒲生 友作
委員	町田市立南第二小学校	指導教諭	宮下 淳
[担当] 東京都教職員研修センター企画部企画課 統括指導主事 山本 浩司			

小学校体育研究開発委員会

委員長	東村山市立八坂小学校	校長	矢部 崇
委員	中央区立久松小学校	主任教諭	川瀬 穰
委員	港区立青南小学校	主幹教諭	野口 由博
委員	江東区立明治小学校	主幹教諭	土橋 芳臣
委員	荒川区立第五峡田小学校	主任教諭	杉山 和美
委員	国分寺市立第七小学校	主幹教諭	小野 光典
委員	東大和市立第三小学校	主任教諭	柄澤 周
[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 唐澤 好彦			

小学校道徳研究開発委員会

委員長	渋谷区立神南小学校	校長	染谷 由之
委員	目黒区立油面小学校	主幹教諭	吉本 一也
委員	世田谷区立松丘小学校	主任教諭	中野 学
委員	中野区立塔山小学校	主任教諭	高橋 晶子
委員	杉並区立四宮小学校	主任教諭	山口 真
委員	国分寺市立第四小学校	主任教諭	東小川 智史
[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 江島 しのぶ			

小学校外国語活動研究開発委員会

委員長	板橋区立志村第二小学校	校長	小竹 厚
委員	小金井市立小金井第一小学校	主任教諭	木村 美穂
委員	葛飾区立川端小学校	主任教諭	小林 新歌
委員	八王子市立鏈水小学校	主幹教諭	吉田 裕介
委員	立川市立第一小学校	主幹教諭	三田 祐太
委員	三鷹市立南浦小学校	主任教諭	朝比奈 美枝子
[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 高橋 美香			

平成 29 年度

研究開発委員会指導資料集〔小学校〕

東京都教育委員会印刷物登録
平成 29 年度 第 147 号

平成 30 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社